

大学院保健科学研究院・
大学院保健科学院(医学部保健学科)

年 報

平成28年4月～平成29年3月

北海道大学大学院保健科学研究院
点検・評価室年報編集専門部会
平成29年9月〇日発行

目次

I. 沿革	2
II. 組織	3
III. 管理運営体制	4
IV. 役職員・教職員一覧	
i 役職員・教職員一覧	5
ii 主な研究内容	6
V. 研究活動	
i 年度別業績一覧	14
ii 外部資金等の獲得及び受入状況	80
VI. 教育活動	
i 大学院担当教員一覧	87
ii 保健科学院卒業研究課題一覧	93
iii 保健科学院・医学部保健学科FD研修開催状況	98
iv 保健科学セミナー開催状況	99
v 保健科学院-M.B.A Double Degree	100
vi 保健科学院合同シンポジウム開催状況	102
VII. 社会貢献	
i 公開講座開催状況	103
VIII. 顕彰及び研究助成制度	
i 顕彰制度	104
ii 研究助成制度	105
IX. 中央研究室の活動報告	
i 活動報告書	110
X. 第三期中期目標・中期計画	112

I. 沿革

平成15年10月1日

北海道大学医学部保健学科(看護学専攻,放射線技術科学専攻,検査技術科学専攻,理学療法学専攻,作業療法学専攻)設置

平成16年4月1日

医学部保健学科第1期生入学

平成20年4月1日

北海道大学大学院保健科学研究院(基盤看護学分野,創成看護学分野,医用生体理工学分野,病態解析学分野,機能回復学分野,生活機能学分野)・大学院保健科学院保健科学専攻修士課程(保健科学コース,看護学コース)設置

平成21年4月1日

大学院保健科学研究院に寄附分野「脳機能画像学分野」設置

平成22年1月1日

大学院保健科学研究院に寄附分野「食品機能解析・保健栄養学(渡辺オイスター)分野」設置

平成22年4月1日

大学院保健科学院保健科学専攻博士後期課程(保健科学コース,看護学コース)設置

平成22年9月17日

大学院保健科学院博士後期課程設置記念講演会・記念式典・祝賀会举行

平成23年4月1日

北海道大学大学院保健科学研究院(健康科学分野)設置

平成23年5月1日

大学院保健科学研究院に寄附分野「北斗関節機能障害予防学分野」設置

平成23年10月1日

大学院保健科学研究院に健康イノベーションセンター(高度脂質分析ラボラトリー部門,ヘルスネットワークシステム部門)設置

平成24年3月31日

大学院保健科学研究院の寄附分野「脳機能画像学分野」終了

平成24年4月1日

大学院保健科学研究院に保健医療教育研究センター(継続教育開発研究部門,教育改革研究部門)設置

平成25年4月1日

大学院保健科学研究院に健康イノベーションセンター(生体分子・機能イメージング部門)設置
大学院保健科学院(先進医療科学科目群)に連携分野「重粒子医科学分野」設置

平成26年4月30日

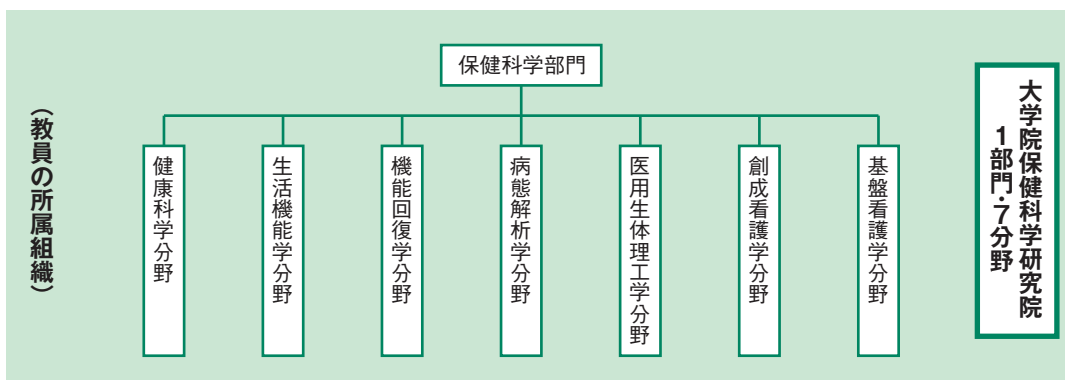
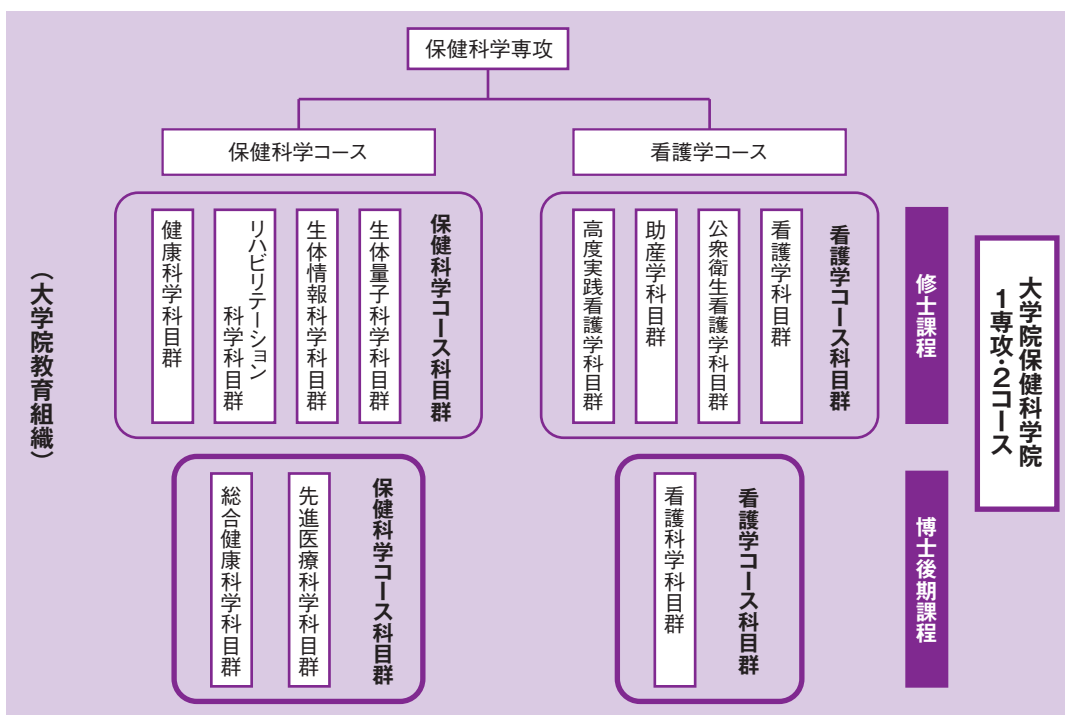
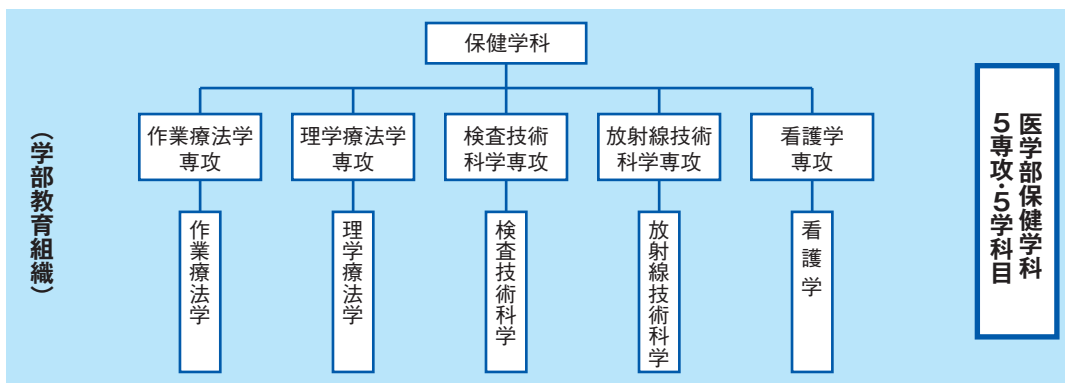
大学院保健科学研究院の寄附分野「北斗関節機能障害予防学分野」終了

平成28年9月1日

大学院保健科学研究院に寄附分野「生体応答制御医学分野」設置

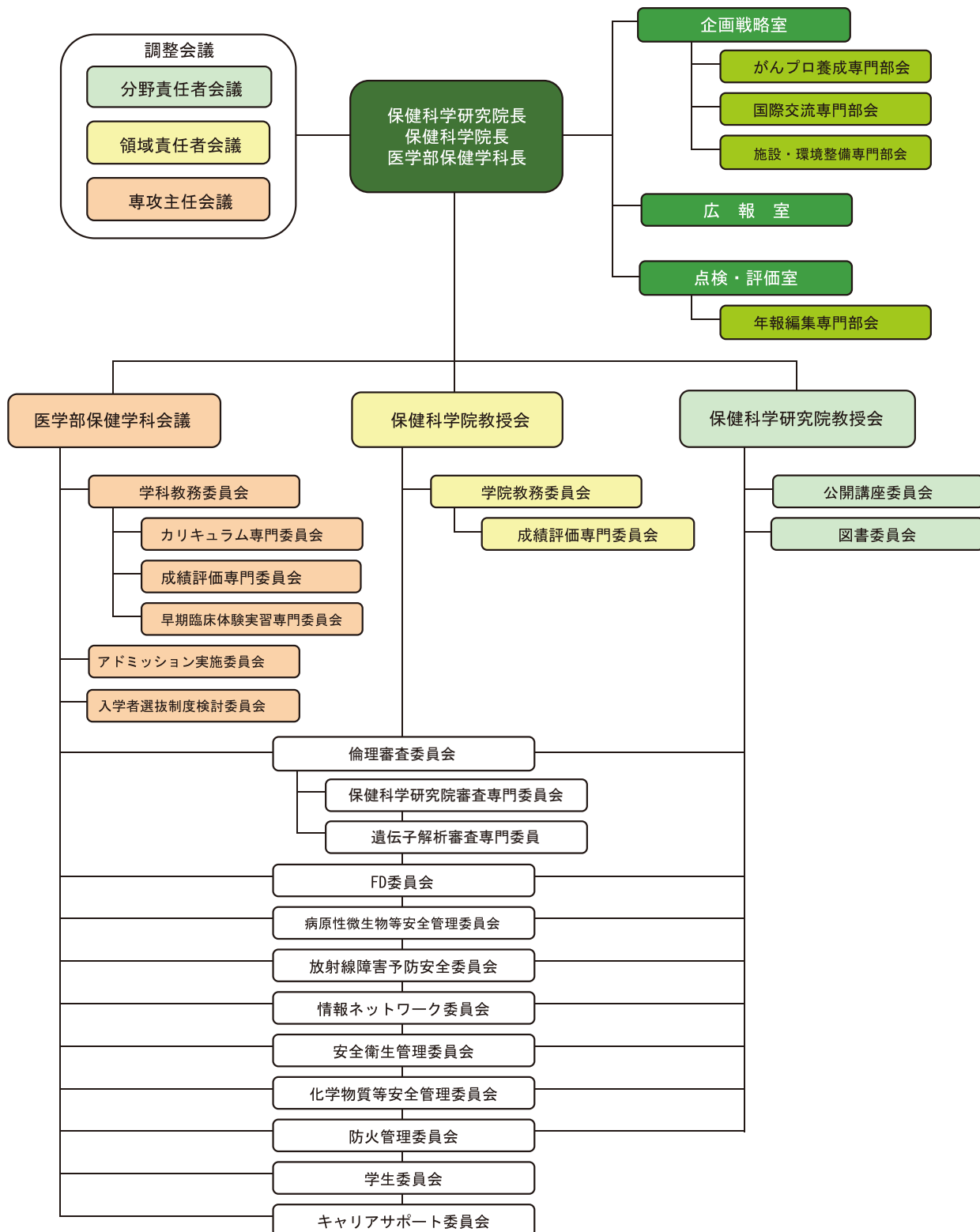
Ⅱ. 組織

大学院保健科学研究所・大学院保健科学院・医学部保健学科



Ⅲ. 管理運営体制

平成 28 年 5 月 1 日現在



IV. 役職員・教職員一覽

i 役職員・教職員一覽

平成 28 年 5 月 1 日現在

1. 役職員

保健科学研究院長・保健科学院長・保健学科長	齋藤 健
保健科学研究院副研究院長	遠山 晴一
保健科学院副学院長	小笠原克彦
保健科学研究院長補佐	惠 淑萍
保健科学研究院長補佐	尾崎 倫孝
保健科学院長補佐	山口 博之

2. 教職員一覽

分野	教授	准教授	講師	助教・助手	特任教員
基盤看護学	◎ 良村 貞子 尾崎 倫孝 結城美智子	宮島 直子 大槻 美佳 岩本 幹子 矢野 理香 鷺見 尚己	溝部 佳代 佐藤 三穂	塚本 美奈 神 繁樹 浅野 真未 吉田 祐子 村田 惠理 下田 智子 平山 憲吾	
創成看護学	◎ 佐伯 和子 佐川 正 佐藤 洋子	野口真貴子 安積 陽子 平野美千代	青柳 道子	藤田和佳子 進藤ゆかり 水野 芳子 コリ 紀代 高橋 紀子 本田 光	
医用生体理工学	◎ 山本 徹 加藤千恵次 伊達 広行 神島 保純 石川 正純		杉森 博行	堤 香織 寺下 真美 高木 聡志	
病態解析学	◎ 山口 博之 惠 淑萍 石津 明洋	政氏 伸夫	吉田 繁司 松尾 淳司	小畑 慶子 加賀 早苗 古川 貴之 岡田 一範 益田 紗季 大久保 真彦	三神 大世
機能回復学	◎ 山中 正紀 浅賀 忠義 遠山 晴一 前島 洋	寒川 美奈		笠原 敏史 齊藤 展士 萬井 太規	
生活機能学	◎ 井上 馨 傳田 健三 村田 和香 境 信哉			岸上 博俊 井上 貴雄 高島 理沙	真木 誠
健康科学分野	◎ 千葉 仁志 齋藤 健 横澤 宏一 小笠原克彦 山内 太郎	武田 晴治		辻 真太郎 津久井 隆行	
76 名	27 名	11 名	6 名	30 名	2 名

分野	教授	准教授	講師	助教・助手	特任教員
食品機能解析・ 保健栄養学分野	◎ 千葉 仁志 (兼務)				布田 博敏
健康 イノベーション センター	◎ センター長 千葉 仁志 (兼務)				
	◎ 高度脂質分析 惠 淑萍 (兼務)	武田晴治 (兼務)			早坂 孝宏 馬 逸興
	◎ 遠隔健康相談 小笠原克彦 (兼務)				鈴木 哲平
	◎ 生体分子機能 尾崎 倫孝 (兼務)			浅野 真未 (兼務)	
中央研究室	◎ 室長 尾崎 倫孝 (兼務)			神 繁樹 (兼務)	

※ ◎は分野責任者

ii 主な研究内容

保健科学研究院教員の研究内容

基盤看護学分野

職・氏名	主な研究内容
教授 良村 貞子	看護職者の法的責任に関する日米比較
教授 結城美智子	高齢者の介護予防, 在宅療養者とその家族へのケアに関する研究
教授 尾崎 倫孝	肝臓の病態生理, 生体ストレス, 光による生体イメージングに関する研究
准教授 宮島 直子	看護におけるコミュニケーション・チャンネルの研究
准教授 大槻 美佳	高次脳機能障害(失語, 失行, 失認)の機能局在とメカニズムに関する研究
准教授 岩本 幹子	臨床における看護倫理の問題に関する研究
准教授 矢野 理香	看護技術の成果モデル開発, 熟練看護師の技の可視化と効果に関する研究
准教授 鷺見 尚己	在宅療養生活支援(がん, 慢性疾患), 移行ケア, がん教育に関する研究
講師 溝部 佳代	周術期・急性期にある患者家族への看護に関する研究
講師 佐藤 三穂	慢性疾患を持つ人の療養支援
助教 塚本 美奈	認知症高齢者へのケアやコミュニケーションに関する研究
助教 神 繁樹	様々なバイオマーカーの研究
助教 浅野 真未	様々な細胞死の肝恒常性維持における役割に関する研究 糖尿病性網膜症の病態解析と予防に関する研究
助教 吉田 祐子	臨床看護師の労働環境と継続教育に関する研究
助教 村田 恵理	老化及び老化関連疾患と酸化ストレスに関する研究
助教 下田 智子	食道癌患者の周術期栄養管理に関する研究
助教 平山 憲吾	化学療法を受けるがん患者の症状とQOLに関する研究

IV. 役職員・教職員一覧

創成看護学分野

職・氏名	主な研究内容
教授 佐伯 和子	保健師のキャリア開発（基礎教育と現任教育）
教授 佐川 正	助産師による超音波検査の国際比較
教授 佐藤 洋子	小児の自律性を支援する看護スキルの開発
准教授 野口眞貴子	助産モデルを組み込んだ妊産婦保健対策に関する研究
准教授 安積 陽子	乳幼児の睡眠覚醒リズムと育児ストレスに関する研究
准教授 平野美千代	地域で生活する高齢者への効果的な介護予防プログラムの開発
講師 青柳 道子	がん患者と家族のコミュニケーションに関する研究
助教 藤田和佳子	アフリカ諸国における助産ケアの質の向上に関する研究
助教 進藤ゆかり	慢性疼痛を抱えた地域在宅者に関する研究
助教 水野 芳子	地方居住者の健康管理に関する研究
助教 コリー紀代	要ケア児の在宅療養支援，気管内吸引シミュレーターの開発
助教 高橋 紀子	新生児集中治療室から在宅へ移行する患児家族に関する研究
助教 本田 光	子育て支援と地域づくりに関する研究

IV. 役職員・教職員一覧

医用生体理工学分野

職・氏名	主な研究内容
教授 山本 徹	MRI画像診断を劣化させないインプラントの開発
教授 加藤千恵次	PET, CT, MRIなどの医用画像による病態の定量解析
教授 伊達 広行	生体組織への放射線エネルギー付与解析と影響評価
教授 神島 保	リウマチ画像に関する研究
教授 石川 正純	放射線医学分野における新しい計測技術の開発
講師 杉森 博行	MRIを用いた非侵襲的血流イメージングに関する研究
助教 堤 香織	腫瘍細胞の放射線感受性に関する研究
助教 寺下 貴美	問題解決型学習を取り入れた撮影技術学実習と学習効果の評価法開発
助教 高木 聡志	医用画像処理を用いた新しい画像検査・診断法の開発
助教 唐 明輝	MRにおける大脳細動脈機能マッピング法の開発

IV. 役職員・教職員一覧

病態解析学分野

職・氏名	主な研究内容
特任教授 三神 大世	心エコーによる心疾患の病態と心機能の分析
教授 山口 博之	細胞内寄生性難培養性細菌の生存戦略とその分子基盤に関する研究
教授 惠 淑萍	過酸化脂質, 脂肪酸およびプラズマローゲンに関する研究
教授 石津 明洋	血管炎の発症機序解明と新しい病態診断法および分子標的治療法の開発
准教授 政氏 伸夫	血球の計数および形態検査の定量化に関する研究
講師 吉田 繁	H I V 関連遺伝子検査の開発とその標準化に関する研究
講師 松尾 淳司	細胞内寄生細菌の生物学
講師 櫻井 俊宏	リポタンパク質代謝とその酸化に関する研究
助教 小畑 慶子	遺伝性腫瘍・家族性腫瘍に関する研究
助教 加賀 早苗	心エコーによる心不全の病態解析
助教 古川 貴之	リン脂質に関するケミカルバイオロジー
助教 岡田 一範	スペックルトラッキング心エコー法による心筋機能評価
助教 益田紗季子	好中球細胞外トラップに関する研究
助教 大久保寅彦	細菌と原生生物との微生物間相互作用に関する研究

IV. 役職員・教職員一覧

機能回復学分野

職・氏名	主な研究内容
教授 山中 正紀	スポーツ外傷・障害の予防に関する研究
教授 浅賀 忠義	姿勢制御と運動学習に関する研究
教授 遠山 晴一	スポーツ傷害と運動器疾患に関するリハビリテーション科学
教授 前島 洋	運動による高齢者のヘルスプロモーションに関する基礎研究
准教授 寒川 美奈	スポーツ傷害の発生予防と運動療法有効性に関する研究
助教 笠原 敏史	加齢による運動制御の低下とその機序についての研究
助教 齊藤 展士	姿勢学習メカニズムの解明に関する研究
助教 萬井 太規	立位姿勢制御メカニズムの解明および転倒予防プログラムの考案に関する研究

IV. 役職員・教職員一覧

生活機能学分野

職・氏名	主な研究内容
教授 井上 馨	視覚機能障害改善への実験的研究
教授 傳田 健三	児童・青年期の気分障害, 注意欠陥多動性障害, 不安障害, 広汎性発達障害に関する臨床的研究
教授 村田 和香	高齢者に対する作業療法実践の効果研究
教授 境 信哉	脳障害による視覚障害のリハビリテーション
特任助教 真木 誠	重度障害者の障害受容に関する研究
助教 岸上 博俊	地域に生活における高齢者のリハビリテーションの在り方について
助教 井上 貴雄	精神疾患の認知機能改善療法に関する研究, 児童・青年期の気分障害に関する研究
助教 高島 理沙	作業療法士の専門職アイデンティティおよび作業科学の実践への応用に関する研究

IV. 役職員・教職員一覧

健康科学分野

職・氏名	主な研究内容
教授 千葉 仁志	脂質・リポ蛋白代謝, バイオセンサー, 質量分析, 機能性食品, バイオマーカー
教授 齋藤 健	生命と環境, 疾病の予防, 健康創成
教授 横澤 宏一	脳磁計(MEG)を用いた脳機能計測の研究
教授 小笠原克彦	医療情報学, 臨床経済学, 医療管理学
教授 山内 太郎	人類生態学, 国際保健学, 世界の子どもの健康・安全・幸福
准教授 武田 晴治	脂質関連分子を物理化学的に評価する方法に関する研究
助教 辻 真太郎	医療情報学, 臨床経済学
助教 津久井隆行	脂質生化学, 食品科学

IV. 役職員・教職員一覧

食品機能解析・保健栄養学分野（渡辺オイスター）

職・氏名	主な研究内容
教授（兼） 千葉 仁志	脂質・リポ蛋白代謝，バイオセンサー，質量分析，機能性食品，バイオマーカー
特任准教授 布田 博敏	カキによる非アルコール性脂肪肝炎（NASH）の予防に関する研究

生体応答制御医学分野

職・氏名	主な研究内容
教授（兼） 尾崎 倫孝	肝臓の病態生理，生体ストレス，光による生体イメージングに関する研究
特任講師 芳賀 早苗	ストレスと細胞の生存・死を制御する分子メカニズム解析に関する研究

健康イノベーションセンター

職・氏名	主な研究内容
センター長 教授（兼） 千葉 仁志	脂質・リポ蛋白代謝，バイオセンサー，質量分析，機能性食品，バイオマーカー
教授（兼） 恵 淑萍	過酸化脂質，脂肪酸およびプラズマローゲンに関する研究
教授（兼） 小笠原克彦	医療情報学，臨床経済学，医療管理学
教授（兼） 尾崎 倫孝	肝臓の病態生理，生体ストレス，光による生体イメージングに関する研究
准教授 武田 晴治	脂質関連分子を物理化学的に評価する方法に関する研究
特任講師 早坂 孝宏	イメージング質量分析，機能性成分，病態解析
助教（兼） 浅野 真未	様々な細胞死の肝恒常性維持における役割に関する研究 糖尿病性網膜症の病態解析と予防に関する研究
特任助教 鈴木 哲平	医療情報学，医療経済学，医療マーケティング 産学官連携による健康行動変容に関する研究

V. 研究活動

i 年度別業績一覧

■業績

基盤看護学分野

A. 学術論文

1. Zhang W, Ohira T, Abe M, Kamiya K, Yamashita S, Yasumura S, Ohtsuru A, Masaharu M, Harigane M, Horikoshi N, Suzuki Y, Yabe H, Yuki M, et al: Evacuation after the Great East Japan Earthquake was associated with poor dietary intake: The Fukushima Health Management Survey. *Journal of Epidemiology* doi: 10.1016/j.je.2016.08.002. Epub 2016 Nov 15.
2. Haga S, Yimin, Ozaki M: Relevance of FXR-p62/SQSTM1 pathway for survival and protection of mouse hepatocytes and liver, especially with steatosis. *BMC Gastroenterology* 17:9, 2017.
3. Jin S, Hyodoh H, Matoba K, Feng F, Hayakawa A, Okuda K, Shimizu K, Haga S, Ozaki M, Terazawa K: Development for the measurement of serum thiosulfate using LC-MS/MS in forensic diagnosis of H₂S poisoning. *Legal Medicine* 22: 18-22, 2016.
4. Jennings RT, Odkhuu E, Nakashima A, Morita N, Kobayashi T, Yamai I, Tanaka M, Suganami T, Haga S, Ozaki M, Watanabe Y, Nagai Y, Takatsu K, Ueda T, Ichimonji I, Ogawa Y, Miyake K, Akashi-Takamura S: Inflammatory responses increase secretion of MD-1 protein. *International Immunology* 28:503-512, 2016.
5. Morita N, Haga S, Ohmiya Y, Ozaki M: Long-term ex vivo and in vivo monitoring of tumor progression by using dual luciferases. *Analytical Biochemistry* 497:24-26, 2016.
6. Mizobe K, Yokosawa K, Shimojo A, Ozaki M: Does fasting modulate physio-psychological responses to emotional pictures? An analysis by MEG, VAS and biological markers. *Advanced Biomedical Engineering* 5:88-93, 2016.
7. Suzuki Y, Hirayama K, Shimomura T, Uchiyama M, Fujii H, Mori E, Nishio Y, Iizuka O, Inoue T, Otsuki M, Sakai S: Changes in pupils diameter are correlated with the occurrence of pareidolias in patients with dementia with Lewy bodies. *Neuro Report* 28:187-192, 2017.
8. Sugimoto K, Yamanoi T, Toyoshima H, Otsuki M, Ohnishi S, Yamazaki T: Spatiotemporal human brain activities on recalling fruit names. *Engineering Technology* 16:27-32, 2016.
9. Shishido I, Yano R: Pilot study on benefits of applying a hot towel for 10 seconds to the skin of elderly nursing home residents during bed baths: Towards safe and comfortable bed baths. *Geriatric Nursing*, in press, accepted Feb. 17, 2017.

V. 研究活動

10. Yano R, Shimoda T, Watanabe R, Kuroki Y, Okubo T, Nakamura S, Matsuob J, Yoshimura S, Yamaguchi H: Diversity changes of microbial communities into hospital. *Journal of Infection and Chemotherapy* 23:439-445, 2017.
11. Yano R: Experience-based hand bathing among expert nurses for stroke patients. *Health Science Journal* 10:1-6, 2016.
12. Mizukami M, Yamada M, Fukui S, Fujimoto N, Yoshida S, Kaga S, Obata K, Jin S, Miwa K, Masauzi N: Semiautomated segmentation and measurement of cytoplasmic vacuoles in a neutrophil with general-purpose image analysis software. *J Clin Lab Anal* 30:918-923, 2016.
13. Hyodoh H, Matoba K, Murakami M, Matoba T, Saito A, Feng F, Jin S: Experimental evaluation of freezing preparation for the macroscopic inspection in putrefied brain. *Legal Med* 24:19-23, 2017.
14. Maseda C, Hayakawa A, Okuda K, Asari M, Tanaka H, Yamada H, Jin S, Horioka K, Matoba K, Shiono H, Matsubara K, Shimizu K: Liquid chromatography-tandem mass spectrometry method for the determination of thiosulfate in human blood and urine as an indicator of hydrogen sulfide poisoning. *Legal Med* 24:67-74, 2017.
15. 塚原厚子, 結城美智子: 地域で生活する精神障がい者の主観的健康感と健康生活習慣—性別, 居住形態別による検討—. *厚生指標* 63:13-19, 2016.
16. 塚本美奈, 宮島直子, 賀古勇輝: 神経性無食欲症患者の退院後の生活におけるストレスと社会適応状態に関する研究. *日本精神保健看護学会誌* 25:84-90, 2016.
17. 中田亜由美, 宮島直子, 佐藤洋子: 小児の歯科恐怖の影響要因に関する検討—基本的属性, 歯科や病院での恐怖体験, 歯科受診歴, 特性不安との関係—. *小児保健研究* 75:804-809, 2016.
18. 大槻美佳: 言語の神経心理学. *神経心理学* 32:104-119, 2016.
19. 大槻美佳: Broca失語とWernicke失語. 失語症の新しいみかたとアプローチ. *理学療法ジャーナル* 50:969-978, 2016.
20. 大槻美佳: 高次脳機能障害とは. *看護技術* 62:8-16, 2016.
21. 高倉祐樹, 大槻美佳: 失構音の下位分類とその病態の発現機序について. *言語聴覚研究* 13:258-274, 2016.
22. 吉野雅美, 千葉泰弘, 青樹 毅, 今村博幸, 小柳 泉, 會田敏光, 緒方昭彦, 輿水修一, 大槻美佳: Reversed crossed cerebellar diaschisisの神経所見と画像解析. *第41回札幌市会医学会誌* 306:161-162, 2016.
23. 緒方昭彦, 浜上尚也, 大槻美佳, 輿水修一, 新保和賢, 千葉泰弘, 吉野雅美, 青樹 毅, 今村博幸, 小柳 泉, 會田敏光: パーキンソン病と血管性パーキンソン症候群との鑑別方法の解析. *第41回札幌市医師会医学雑誌* 306:159-160, 2016.
24. 井川大樹, 大槻美佳, 藤重正人: 仮名文字における濁点の障害. *臨床神経心理* 27:51-55, 2016.
25. 穴戸 穂, 矢野理香: 「清拭」の統合的文献レビュー. *日本看護技術学会誌* 15:185-194, 2016.
26. 穴戸 穂, 矢野理香: 高齢者への清拭における有効な温タオルの貼用時間の検討 貼用なし清拭と貼用あり(7, 10秒)清拭との比較. *日本看護技術学会誌* 15:188-194, 2016.
27. 佐藤愛可, 岩田めぐみ, 成田千春, 矢野理香: 手術室前室が患者と家族にもたらす意味 アロマセラピー・写真展示・BGMを取り入れて. *日本看護学会論文集:急性期看護* 47:19-22, 2017.

V. 研究活動

28. 葛西理沙, 穴戸 穂, 佐藤三穂, 鷺見尚己: 看護学分野の大学院生による小学生へのがん教育に関する報告(第1報)ーがん予防教育のプログラム作成に向けた取り組みー. 看護総合科学研究会 17: 33-39, 2016.
29. 穴戸 穂, 葛西理沙, 佐藤三穂, 鷺見尚己: 看護学分野の大学院生による小学生へのがん教育に関する報告(第2報)ー北海道 A 市立小学校の児童を対象としたがん予防教育の実践ー看護総合科学研究会 17: 41-47, 2016.
30. 佐藤三穂, 佐藤仁美, 鷺見尚己, 中村昭伸, 三好秀明, 渥美達也: 特定機能病院における糖尿病療養支援の方向性に関する一考察: 外来初診患者の臨床的特徴から. 糖尿病ケア 13: 1146-1150, 2016.
31. 大嶋美紀, 横井亜友美, 富樫恵美, 藤田真善美, 棚田郁子, 岡林靖子, 佐藤三穂: 高齢糖尿病患者のインスリン自己注射に関するセルフケアと糖尿病の負担感情の実態および社会的支援と医療者との関わりに関連. 日本糖尿病教育・看護学会誌 20: 193-199, 2016.
32. 吉田祐子, 牧野夏子, 小川 謙: 北海道の地方都市で職務継続している救急看護師の様相. 日本救急看護学会雑誌 19: 60-68, 2017.

B. 著書

1. 大槻美佳(分担): 前頭葉性超皮質性感覚失語. 脳卒中症候学(症例編)(田川皓一, 橋本洋一郎, 稲富雄一郎編). 442-444, 西村書店, 東京, 2016.
2. 大槻美佳(分担): 失語の画像診断一病変局在をめぐる諸問題. 高次脳機能障害の考え方と画像診断(武田克彦, 村井俊哉編). 111-130, 中外医学社, 東京, 2016.
3. 大槻美佳(分担): 補足運動野失語. 脳卒中症候学(田川皓一, 橋本洋一郎, 稲富雄一郎編). 445-447, 西村書店, 東京, 2016.
4. 大槻美佳(分担): 言語障害, せん妄, うつ病性障害/アパシー, 認知症への対応. 脳梗塞診療読本第2版, 247-268, 中外医学社, 東京, 2016.
5. 大槻美佳(分担): 失行性失書. 脳卒中症候学(症例編)(田川皓一, 橋本洋一郎, 稲富雄一郎編). 448-451, 西村書店, 東京, 2016.
6. 高倉祐樹, 大槻美佳(分担): 復唱・音読で構音の明瞭化を示した皮質下性失語の1例. 脳卒中症候学(症例編)(田川皓一, 橋本洋一郎, 稲富雄一郎編). 452-456, 西村書店, 東京, 2016.
7. 高倉祐樹, 大槻美佳(分担): 破裂前交通動脈瘤クリッピング術後に妄想性誤認症候群を呈した1例. 脳卒中症候学(症例編)(田川皓一, 橋本洋一郎, 稲富雄一郎編). 457-461, 西村書店, 東京, 2016.

C. 総説, 解説, 論評

1. 松野直徒, 絵野沢伸, 尾崎倫孝, 坪 尚武, 日下 守, 深井 原, 岩本 整, 玉置 透, 剣持敬: 腎臓灌流保存装置の臨床現場への導入に関するアンケート調査報告. Organ Biology 24: 70-75, 2017.
2. 尾崎倫孝, 芳賀早苗: p62/SQSTM1 を基軸とした新たな肝臓・肝細胞保護・機能維持メカニズム. Organ Biology 23: 168, 2016.
3. 大槻美佳: 人には聞けない言葉/運動の記憶のヒミツ. NTT 研究所 触感コンテンツ専門誌ふるえ 16: 1-2, 2016.
4. 大槻美佳: 雑感: 神経心理学によせて. 臨床神経心理学 27: 1-2, 2017.
5. 大槻美佳, 松田実: シンポジウム座長記. 神経心理学 32: 131-133, 2016.

V. 研究活動

6. 種村 純, 福永真哉, 大槻美佳, 河村満, 熊倉勇美, 熊倉真理, 小林祥泰, 七條文雄, 渋谷直樹, 下村辰雄, 先崎 章, 田川皓一, 立石雅子, 能登谷晶子, 濱田博文, 原 寛美, 原田浩美, 深津玲子, 藤田郁代, 前島伸一郎, 三宅裕子: 高次脳機能障害全国実態調査報告. 高次脳機能研究 36: 492-502, 2016.
7. 矢野理香: 今, あらためて看護とは 看護のやりがいを作るひとになる. 北海道勤労者医療協会看護雑誌 看護と介護 42: 18-23, 2016.
8. 塚越みどり, 菱沼典子, 加藤木真史, 吉良いずみ, 矢野理香, 久賀久美子, 秋山雅代, 丸山朱美, 南山祥子, 酒井礼子, 野月千春: 便秘症状の緩和のための温罨法 Q&A Ver.2 作成への取りくみ. 日本看護技術学会誌 15: 42-44, 2016.
9. 矢野理香: 「気持ちのいい」ケアを教えよう! 語りを引き出し, 希望をつなぐ 気持ちのいい手浴. 看護教育 57: 356-361, 2016.
10. 榊谷佐和子, 田川史穂里, 大久保るみ, 飛内優希, 椎名友章, 鷺見亜紀子, 芳賀真理子, 溝部佳代: 器械出し看護師の手術直前準備における iPad の有効性. 日本手術看護学会北海道地区第 51 回地区学会集録集 51: 50-53, 2016.

D. 報告書

E. その他

[受賞]

1. 大槻美佳. 日本神経学会 2016 年度 excellent teacher 賞 (2016.5.18-21 第 57 回日本神経学会学術集会, 神戸)

[学会研究会の主催]

[特許]

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Ozaki M, Haga S, Hamada T, Ozawa T, Yamada Y: Spatio-temporal imaging of cell/organ physiopathology and its clinical application. CIS Workshop 2017 “Innovative Bio-imaging toward Diagnosis and Therapy”, Sapporo, 2017.1.
2. Otsuki M: Localization of language function in the brain: from a clinical point of view. Session: Brain and Intelligence. The 7th international symposium on computational intelligence and industrial applications, Beijing, China, 2016.11.5.
3. Sugimoto K, Yamanoi T, Toyoshima H, Otsuki M, Ohnishi S, Yamazaki T: Spatiotemporal human brain activities on recalling fruit names. SCIS-ISIS 2016: Joint 8th International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems and 17th International Symposium on Advanced Intelligent Systems, Sapporo. 2016.8.

V. 研究活動

[国内学会]

1. 尾崎倫孝, 芳賀早苗, 小澤岳昌, 森田直樹, 浜田俊幸:「光技術を用いた臓器・細胞機能評価と制御の可能性」. 第43回日本臓器保存生物医学会学術集会 シンポジウム(5)「臓器保存研究:理工学的観点から」, 八王子, 2016.11.
2. 尾崎倫孝, 芳賀早苗, 森田直樹:「FXRを起点とした脂肪肝傷害抑制と脂肪化改善の機序」. 第25回日本肝臓医生物学研究会:LBSG-J(プロメテウスの会), 湯沢, 2016.9.
3. 尾崎倫孝, 芳賀早苗, 小澤岳昌, 山田勇磨:「光プローブをもちいた時空間的病態解析と積極的病態制御の試み」. 第71回日本消化器外科学会総会 特別企画「光エネルギーの医療への展開」, 徳島, 2016.7.
4. 大槻美佳:「認知症の病態とその対応」. 第41回脳卒中学会 シンポジウム, 札幌, 2016.4.
5. 大槻美佳:(教育講演)「失語症の診断」. 高次脳機能障害学会 2016年夏期教育研修講座, 横浜, 2016.7.
6. 大槻美佳:(教育講演)「言語機能・失語症のみかたとアプローチ」. 第11回日本リハビリテーション医学会専門医学術集会, 金沢, 2016.10.
7. 大槻美佳:「失語のみかた:よりよい治療・リハビリテーションのために」. 第34回日本神経治療学会メディカルスタッフセミナー, 米子, 2016.11.
8. 大槻美佳:「錯語の分類と神経基盤」. 第40回高次脳機能障害学会学術総会セミナー「錯語とジャルゴン」, 松本, 2016.11.
9. 大槻美佳:「失語症と高次脳機能の診方」. 第42回日本脳卒中学会, 大阪, 2017.3.
10. 大槻美佳:「Higher brain dysfunction」(English session), 第57回日本神経学会, 神戸, 2016.5.
11. 大槻美佳:「脳卒中による高次脳機能障害」. 第14回脳卒中連携の会, 大垣, 2016.9.
12. 大槻美佳:「脳血管」. 第40回日本神経心理学会学術集会ケースカンファランス症例検討Ⅱ, 熊本, 2016.9.
13. 大槻美佳:「失語症へのアプローチ:脳の視点と言語の視点」. スキルアップ公開セミナー, 京都, 2016.11.
14. 大槻美佳:「大脳症候からみる認知症の診断」. Dementia Webinar, 東京, 2017.3.
15. 大槻美佳:「臨床に役立つ高次脳機能障害の診方」. クリニカルセミナー(招待講演), 京都, 2016.12.
16. 大槻美佳:「パーキンソン病の高次脳機能障害」. 第8回パーキンソン病QOL懇話会(招待講演), 広島, 2017.3.

[地方会]

1. 大槻美佳:「前頭側頭葉変性症(FTLD)の症候と意味認知症(SD)」. 認知症治療勉強会, 札幌, 2016.10.
2. 大槻美佳:「脳と認知機能:機能局在の視点から」. 第8回認知症と周辺症状への取り組みを考える会, 札幌, 2016.10.
3. 大槻美佳:「第1回神経心理学セミナー」. 札幌, 2017.2.
4. 大槻美佳:「脳梁離断症候群について」. 第21回脳の臨床研究会ミニレクチャー, 札幌, 2017.3.
5. 大槻美佳:「認知症の診断と治療」. UHB健康セミナー特別公開講座. 2016.11.16, 札幌
6. 大槻美佳:「高次脳機能障害の理解のために」. 高次脳機能障がい支援者研修会, 苫小牧, 2016.12.20
7. 大槻美佳:「認知症に関する原因疾患と病態・治療」. 認知症看護実践能力向上研修, 札幌, 2017.2.28

8. 溝部佳代：「看護研究発表の講評」. 日本手術看護学会北海道地区第51回地区学会, 札幌, 2016.5.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Yuki M, Kikukawa Y: Preventive education of anticancer agent exposure for patients and family after chemotherapy. International Conference on Cancer Nursing, Hong Kong, China, 2016.9.
2. Yimin, Kohanawa M, Haga S, Ozaki M: Function of Toll-like receptor 2 in the murine inflammatory response to *Rhodococcus aurantiacus* infection. 4th Annual Meeting of the International Cytokine and Interferon Society (ICIS), San Francisco, USA, 2016.10.
3. Morita N, Haga S, Ohmiya Y, Ozaki M: Long-term ex vivo and in vivo monitoring of tumor progression by using dual luciferases. 19th International Symposium on Bioluminescence & Chemiluminescence (ISBC2016), Tsukuba, 2016.5.
4. Haga S, Ozawa T, Morita N, Asano M, Remington J, Ozaki M: Optical evaluation and monitoring of oxidative stress & damage in vivo. 19th International Symposium on Bioluminescence & Chemiluminescence (ISBC2016), Tsukuba, 2016.5.
5. Miyajima N, Tsukamoto M: Using the text mining method to find the features of case reports related to psychiatric nursing over a five year period in Japan. 20th East Asian Forum of Nursing Scholars, Hong Kong, China, 2017.3.
6. Tsukamoto M, Miyajima N: The communication of the care provider and response of elderly people in the everyday life scene where pleasant feelings result to the care provider of elderly people with dementia. 20th East Asian Forum of Nursing Scholars, Hong Kong, China, 2017.3.
7. Kagamiyama H, Nemoto F, Yano R: The relationship between two-shift nurses' sleep, cumulative fatigue, and alcohol consumption. 20th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Hong Kong, China, 2017.3.
8. Kawashima A, Detsuka N, Yano R: Postpartum fatigue and tendency of postpartum depression among women after delivery: Differences between primiparas and multiparas. 20th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Hong Kong, China, 2017.3.
9. Detsuka N, Kawashima A, Yano R: The characteristics of fatigue and depression during hospitalization and at 1 month after a cesarean delivery. 20th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Hong Kong, China, 2017.3.
10. Shishido I, Yano R: The relation between the skin appearance and skin barrier function during elderly bed bathing. 20th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Hong Kong, China, 2017.3.
11. Poudel K, Sumi N: Knowledge about risk factors of cancer among adults in Nepal. 2nd International Meeting of Public Health (IMOPH), Jakarta, Indonesia, 2016.11.
12. Poudel K, Sumi N: Knowledge and health beliefs regarding cardiovascular diseases among adults in Nepal. 20th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Hong Kong, China, 2017.3.
13. Yoshimura M, Sumi N: Validity and reliability of the Japanese version of the 3-item care transitions measure. 20th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Hong Kong, China, 2017.3.

V. 研究活動

14. Nagata S, Nishikoori R, Sumi N, Taguchi A, Tomura H: Screening of home care needs for outpatients among general hospitals in Japan: a nationwide study. The 3rd Japan-Korea Joint Conference on Community Health Nursing, Soul, Korea, 2016.7.
15. Sugimoto K, Yamanoi T, Toyoshima H, Otsuki M, Ohnishi S, Yamazaki T. Spatiotemporal Human Brain Activities on Recalling Fruit Names. SCIS&ISIS2016. Sapporo. 2016.8.
16. Ogata A, Hamaue N, Otsuki M, Shinpo K, Koshimizu S, Chiba Y, Yoshino M, Aoki T, Imamura H, Koyangi I, Aida T: Analysis in the differential diagnosis between Parkinson's disease and vascular parkinsonism. 57th Annual Meeting of the Japanese Society of Neurology, Kobe, 2016.5.

[国内学会]

1. 齋藤史子, 坂本祐子, 結城美智子: 長期外来通院する2型糖尿病中年期男性患者の糖尿病に関する負担感情の実態とその影響要因. 第10回日本慢性看護学会学術集会, 東京, 2016.5.
2. 鈴木良香, 結城美智子, 高瀬佳苗: 福島原子力災害による避難生活で複数の要介護者を介護している家族の介護状況. 第65回東北公衆衛生学会, 山形, 2016.7.
3. 芳賀早苗, 荘巖哲哉, 森田直樹, 浅野真未, 尾崎倫孝: ビルベリーの糖尿病性網膜症初期病変抑制効果の検討. 第89回日本生化学会大会, 仙台, 2016.9.
4. 芳賀早苗, 荘巖哲哉, 森田直樹, 浅野真未, 尾崎倫孝: ビルベリーによる非アルコール性脂肪肝炎(NASH)の予防に向けた基礎的検討, 第23回肝細胞研究会, 大阪, 2016.7.
5. 塚本美奈, 宮島直子: 精神疾患患者のイレイスの痛みを把握するための看護師のかかわり—精神科に勤務する看護師への質問紙調査から—. 日本精神保健看護学会第26回学術集会, 大津, 2016.7.
6. 大槻美佳, 中川賀嗣, 輿水修一, 緒方昭彦, 水戸泰紀, 濱田晋輔, 浦茂久, 吉田一人, 矢部一郎: 原発性進行性発語失行(ppAOS)の症候と経過. 第57回日本神経学会総会, 神戸, 2016.5.
7. 大槻美佳, 中川賀嗣, 田島康敬: 倒立・反転の視覚的判断障害. 第40回日本神経心理学会, 熊本, 2016.9.
8. 大槻美佳, 中川賀嗣, 緒方昭彦, 吉野雅美: 呼称能力の時系列位置効果と病巣の関係. 第40回日本高次脳機能障害学会学術総会, 松本, 2016.11.
9. 高倉祐樹, 大槻美佳, 中川賀嗣: 左前頭葉損傷による単語指示課題障害の出現機序: 意味の身体依存性に着目して. 第28回東北神経心理懇話会, 仙台, 2017.2.
10. 高倉祐樹, 大槻美佳, 中川賀嗣, 杉原俊一: 「ゆっくり」が適切か? 「速く」が適切か? — 語音弁別障害と聴覚言語性STM障害の合併例に対する適切な聴覚呈示条件の検討—. 第40回日本神経心理学会, 熊本, 2016.9.
11. 高倉祐樹, 大槻美佳, 中川賀嗣, 杉原俊一: 「視覚イメージ」へのモダリティ変換障害としてとらえた左前頭葉損傷による単語理解障害. 第40回日本高次脳機能障害学会学術総会, 松本, 2016.11.
12. 高山 望, 小川圭太, 大澤恵留美, 大槻美佳: 在宅高次脳機能障害者に対して実施した包括的アプローチの効果—目標, 行動, 認知, IADLの変化による分析—. 第40回日本高次脳機能障害学会学術総会, 松本, 2016.11.
13. 今城良太, 高倉祐樹, 今野公二, 竹林浩美, 大槻美佳: 脳梗塞後に顔の性別判断において困難さがみられた1例. 第40回日本高次脳機能障害学会学術総会, 松本, 2016.11.

V. 研究活動

14. 横澤宏一, 木村勁介, 市川晟也, 福原知樹, 高倉祐樹, 大槻美佳: 軽度認知症傾向と短期記憶成績及び α 波脳磁場律動変調の相関. 第33回日本脳電磁図トポグラフィー(JSBET2016), 第15回釧路ニューロサイエンスワークショップ(KNSW2016), 釧路, 2016.7.
15. 辻澤陽平, 高倉祐樹, 大槻美佳: 脳梁損傷による左手失書における漢字・仮名の誤り方分析. 第21回脳の臨床研究会, 札幌, 2017.3.
16. 杉本幸司, 山ノ井高洋, 豊島 恒, 大槻美佳, 大西真一, 山崎敏正: 四足動物および果物名称想起時における脳内活動部位について. 日本自動制御学会北海道支部学術講演会, 札幌, 2017.2.
17. 杉本幸司, 山ノ井高洋, 豊島 恒, 大槻美佳, 大西真一, 山崎敏正. 四足動物および果物名称想起時におけるヒト脳内活動部位の時空間的推定. 日本知能情報ファジィ学会, 秋田, 2017.3.7.
18. 辻澤陽平, 中山剛志, 大澤恵留美, 堤昌 恵, 大槻美佳, 佐々木秀直, 生駒一憲: 多系統萎縮症に対するコミュニケーション訓練 指圧法変法による発声訓練. 国立大学リハビリテーション療法士学術大会, 沖縄, 2016.10.5.
19. 河嶋亜衣, 矢野理香: 終日母子同室施設における 初産婦の母子同室状況および 授乳状況の実態と母乳栄養確立との関連. 第31回日本助産学会学術集会, 徳島, 2017.3.
20. 出塚望, 河嶋亜衣, 大高主江, 五十川聡子, 矢野理香: 精神疾患を合併した初産婦の母子同室における産後の疲労感の特徴. 第31回日本助産学会学術集会, 徳島, 2017.3.
21. 鏡山浩美, 矢野理香: 二交代勤務看護師における各年代の蓄積的疲労の変化と関連要因の検討. 第20回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 2016.8.
22. 鏡山浩美, 矢野理香: 二交代勤務看護師の年代による蓄積疲労の実態と睡眠との関連. 日本看護技術学会 第15回学術集会, 高崎, 2016.9.
23. 矢野理香, 鏡山浩美: 交代制勤務をする看護師のクロノタイプ(日周指向性)による蓄積疲労と睡眠との関連. 第36回日本看護科学学会学術集会, 東京, 2016.12.
24. 河嶋亜衣, 矢野理香: 産褥早期の睡眠と疲労に関する文献検討. 日本看護技術学会 第15回学術集会, 高崎, 2016.9.
25. 河嶋亜衣, 矢野理香: 母乳確立の時期や授乳状況による初産婦の疲労感の違い. 第18回日本母性看護学会学術集会, 久留米市, 2016.6.
26. 縄 秀志, 佐居由美, 樋勝彩子, 矢野理香, 大橋久美子: 「気持ちよさ」をもたらす看護ケアに対する看護師の認識モデルの検討. 日本看護技術学会 第15回学術集会, 高崎, 2016.9.
27. 穴戸 穂, 矢野理香: 高齢者への清拭時における10秒間の温タオル貼用の有効性. 日本看護技術学会 第15回学術集会, 高崎, 2016.9.
28. 小島有沙, 竹内順子, 居上優香, 白川弘子, 矢野理香: 入院中の透析患者の皮膚状態とスキンケア発生要因の検討. 日本看護技術学会 第15回学術集会, 高崎, 2016.9.
29. 榎本常子, 矢野理香: 留置針を用いた点滴静脈内注射時の穿刺部位選定に関する熟練看護師の動作の特徴. 日本看護技術学会 第15回学術集会, 高崎, 2016.9.
30. 榎本常子, 矢野理香: 留置針を用いた点滴静脈内注射時の穿刺部位選定に関する熟練看護師のアセスメントの特徴. 日本看護技術学会 第15回学術集会, 高崎, 2016.9.
31. 斎藤実津菜, 川俣聡美, 穴戸 穂, 杉村直孝, 矢野理香: 熟練看護師の採血における穿刺部位選定のための動作の特徴. 日本看護技術学会 第15回学術集会, 高崎, 2016.9.

V. 研究活動

32. 川俣聡美, 斎藤実津菜, 穴戸 穂, 杉村直孝, 矢野理香: 熟練看護師の採血における穿刺部位選定のためのアセスメントの特徴. 日本看護技術学会 第 15 回学術集会, 高崎, 2016.9.
33. 矢野理香: 看護技術における研究方法の発展 研究成果を実践で活用するために 看護ケアによる病者の語りの変化は検証できるか 言語分析の可能性. 日本看護技術学会 第 15 回学術集会, 高崎, 2016.9.
34. 船木典子, 新潟郁子, 下河原みゆき, 蓮池清美, 城石陽子, 佐藤ひとみ, 良村貞子, 矢野理香: 部署内教育の統括的役割を担う指導看護師の実践状況からみた養成プログラム研修の課題. 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 2016.12.
35. 吉田祐子, 鷺見尚己, 矢野理香: 交代制勤務をする看護師の睡眠と自覚的疲労感の関連ウェアラブルデバイスのデータからの検証. 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 2016.12.
36. 鷺見尚己, 矢野理香, 吉田祐子: 病院に勤務する看護師の蓄積的疲労とストレスコーピングおよびバーンアウトの関連. 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 2016.12.
37. 吉田祐子, 澄川真珠子, 藤原敏子, 館脇清美, 矢野理香: インスリン自己注射を行う糖尿病患者の注射前皮膚消毒の実態. 第 21 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 甲府, 2016.9.
38. 平舘ありさ, 矢野理香: 看護職の Shift Work Tolerance に関する文献的研究. 第 20 回日本看護総合科学研究会第 20 回学術集会, 札幌市, 2016.10.
39. 吉田祐子, 澄川真珠子, 矢野理香, 藤原敏子, 館脇清美, 齋藤重幸: インスリン自己注射を行う糖尿病患者の皮下注射前の皮膚消毒の実態. 第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都市, 2016.5.
40. Kritika Poudel, 鷺見尚己: がん治療における口腔ケアおよび口腔マネジメントにおける看護実践と教育に関する国外文献レビュー. 第 42 回日本看護研究学会学術集会, つくば, 2016.8.
41. 牧田真実, 山崎磨奈, Kritika Poudel, 島田詩絵奈, 鷺見尚己: 外来通院する虚血性心疾患患者の身体活動と睡眠 - 男性患者の 4 事例についての分析 -. 第 42 回日本看護研究学会学術集会, つくば, 2016.8.
42. 島田詩絵奈, 鷺見尚己: 英語文献における成人がん患者を対象としたレジリエンス研究の動向. 第 42 回日本看護研究学会学術集会, つくば, 2016.8.
43. 鷺見尚己, 丸山梨紗, 船木典子: がん化学療法をうける患者へのオーラルマネジメントの現状—歯科外来での看護実践について—. 第 31 回日本がん看護学会学術集会, 高知, 2017.2.
44. 丸山梨紗, 船木典子, 鷺見尚己: がん化学療法を受ける消化器がん患者に対する看護師による口腔ケアの実践. 第 31 回日本がん看護学会学術集会, 高知, 2017.2.
45. 鷺見尚己, 木下龍太郎, 野中浩美, 及川玲子: 在宅療養する虚血性心疾患患者の身体活動と睡眠. 第 13 回日本循環器看護学会学術集会, 仙台, 2016.10.
46. 佐藤日菜, 浦山美輪, 山内悦子, 深谷真理子, 田口敦子, 永田智子, 戸村ひかり, 鷺見尚己: 特定機能病院に勤務する外来看護師による在宅療養支援の実態(第 2 報)—質問紙調査による支援状況の明確化—. 第 19 回日本地域看護学会学術集会, 下野, 2016.8.
47. 田口敦子, 佐藤日菜, 浦山美輪, 山内悦子, 深谷真理子, 永田智子, 戸村ひかり, 鷺見尚己: 特定機能病院に勤務する外来看護師による在宅療養支援の実態(第 1 報)—質問紙調査による支援状況の明確化—. 第 19 回日本地域看護学会学術集会, 下野, 2016.8.
48. 永田智子, 田口敦子, 戸村ひかり, 鷺見尚己: 外来からの在宅療養支援: 現状と展望. 第 19 回日本地域看護学会学術集会, 下野, 2016.8.

V. 研究活動

49. 石岡明子, 小野塚美香, 林みゆき, 本間美恵, 高橋久美子, 佐藤ひとみ, 青柳道子, 溝部佳代: 院内認定がん看護エキスパートナース連絡会の開催一組織全体で活動を支援する取り組み. 第31回日本がん看護学会学術集会, 高知, 2017.2.
50. 平山憲吾: 上皮成長因子受容体チロシンキナーゼ阻害剤による皮膚障害を抱える非小細胞肺癌患者が直面している日常生活への影響. 第31回日本がん看護学会学術集会, 高知, 2017.2.
51. 佐藤三穂: 健康管理を目的としたICTの活用に関する文献検討. 第42回日本看護研究学会, つくば, 2016.8.
52. 加我友寛, 吉田未希, 佐藤三穂: 看護大学生のストレスの実態および個人特性, 支援者, ソーシャルメディア利用との関連. 第42回日本看護研究学会, つくば, 2016.8.
53. 神 繁樹, 的場光太郎, 兵頭秀樹, 芳賀早苗, 尾崎倫孝: LC-MS/MSを用いた血中チオ硫酸塩濃度測定法の検討. 第64回質量分析総合討論会, 吹田, 2016.5.
54. 的場光太郎, 神 繁樹, 早川 輝, 寺沢浩一: 硫化水素中毒によって意識を消失した後に溺死した1剖検例. 第100次日本法医学会学術全国集会, 東京, 2016.6.
55. 須貝郁美, 本間涼季, 若生麻弥香, 吉田祐子, 良村貞子: 交代制勤務看護師の疲労蓄積度と睡眠に関する調査. 第20回看護総合科学研究会学術集会, 札幌, 2016.10.
56. 吉田祐子, 本間涼季, 須貝郁美, 若生麻弥香, 良村貞子: 交代制勤務の病棟看護師の疲労状況と休日取得ニーズに関する研究. 第20回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 2016.8.

[地方会]

1. 加納崇裕, 白井慎一, 長沼亮滋, 松島理明, 矢部一郎, 北川まゆみ, 大槻美佳, 笹森徹, 濱内祝嗣, 関 俊隆, 寶金清博, 佐々木秀直: 脳深部刺激療法とそれに先行して実施したバクロフェン髄注療法が有効であった全身性ジストニアの1例. 第17回北海道機能神経外科研究会, 札幌, 2016.11.
2. 白井慎一, 松島理明, 加納崇裕, 矢部一郎, 北川まゆみ, 佐々木秀直, 濱内祝嗣, 笹森徹, 関 俊隆, 寶金清博, 大槻美佳: 脳深部刺激療法術後12か月まで追跡したパーキンソン病11例のまとめ. 第100回日本神経学会北海道地方会, 札幌, 2017.3.
3. 村田恵理, 外丸詩野: 老化及び老化関連疾患と酸化ストレスの影響についてプロテアソーム遺伝子改変動物(β 5t-Tg mouse)におけるKeep-1-Nrf2 pathwayの異常の有無. 第6回基礎科学をもとにしたCo-Medical研究会, 山形, 2016.11.
4. 榊谷佐和子, 田川史穂里, 大久保るみ, 飛内優希, 椎名友章, 鷺見亜紀子, 芳賀真理子, 溝部佳代: 器械出し看護師の手術直前準備におけるiPadの有効性. 日本手術看護学会北海道地区第51回地区学会, 札幌, 2016.5.

■業績

創成看護学分野

A. 学術論文

1. Hikaru Honda, Nobuko Matsuda, Michiyo Hirano, Kazuko Saeki : Relationship-Building Skills of Child-Rearing Mothers in Japanese Communities. *Nursing Research and Practice* 2016: 1-7, 2016.
2. Sasagawa E, Tung R, Horikoshi Y, Takehara K, Noguchi M, Egami Y, Osanai Y, Kita K, Misago C, Matsui M: Discrepancy between the national protocol and healthcare providers' knowledge, attitude, and practice regarding induction and augmentation of labor with oxytocin in Cambodia, *Kokusai Hoken Iryo (Journal of International Health)* 31 (4) : 289-298, 2016.
3. Nakagawa M, Ohta H, Nagaoki Y, Shimabukuro R, Asaka Y, Takahashi N, Nakazawa T, Kaneshi Y, Morioka K, Oishi Y, Azami Y, Ikeuchi M, Takahashi M, Hirata M, Ozawa M, Cho K, Kusakawa I, Yoda H. Daytime nap controls toddlers' nighttime sleep. *Sci Rep.* 9:6, 2016. doi: 10.1038/srep27246.
4. Hiroki Mani, Shih-fen Hsiao, Tomoya Konishi, Tatsuya Izumi, Akiyo Tsuda, Naoya Hasegawa, Kenta Takeda, Noriyo Colley, Tadayoshi Asaka : Adaptation of postural control while standing on a narrow unfixd base of support. *International Journal of Rehabilitation Research* 39:92-95, 2016.
5. Asaka Y, Takada S : Longitudinal evaluation nocturnal sleep behaviors of healthy and well developed children born prematurely. *Open Journal of Pediatrics.* 6: 48-52, 2016
6. 深川 周平, 佐伯 和子 : 未就学児を持つ父親の育児参加とその関連要因 地方都市に公務員として就労する父親に焦点を当てて. *日本公衆衛生看護学会誌* 5:2-10, 2016.
7. 山本 航平, 佐伯 和子, 平野 美千代 : 未成年大学生の飲酒と友人関係・性格特性との関連. *日本公衆衛生看護学会誌* 5:29-36, 2016.
8. 池田 千聖子, 佐伯 和子, 平野 美千代 : 健診機関に勤務する看護職によるストレスチェック実施状況と実施への自信. *産業衛生学雑誌* 58 : 89-99, 2016.
9. 久富沙織, 水野芳子, 仁村優希, 瀧澤莉代, 三宅杏, 佐伯和子 : 大都市の小地域における高齢者の見守り実施に対する高齢者と壮年者の意識. *日本公衆衛生看護学会誌* 5 : 230-238, 2016.
10. 松原芽郁, 大江美優, 太田百香, 秋元彩花, 伊藤由美, 藤田和佳子, 佐川 正 (2016): 英語文献レビューによる先進国の助産師の業務範囲に関する調査. *母性衛生* 57 (1) : 157-165
11. 伊藤由美, 良村貞子, 佐川 正 (2016) : 側臥位を中心としたフリースタイルと背臥碎石位分娩における母児の身体的リスクの比較. *日本助産学会誌* 30 (1) : 47-56
12. 伊藤由美, 秋元彩花, 山川恵里奈, 佐川 正 (2016) : 統合分析を用いた文献レビューからみた助産師による妊娠期の超音波検査の課題. *北海道母性衛生学会誌* 45, 3-10
13. 今野美紀, 田畑久江, 榎木野裕美, 山本真充, 吉川由希子, 小野智美, 清水称喜, 吉本康子, 伊織光恵, 平田美佳, 後藤真千子, 早田典子, 佐藤洋子, 横山佳世, 浅利剛史, 蝦名美智子 : タブレット端末用コンテンツを用いてプレパレーションを行った小児の反応と評価—看護師と保護者に行った質問紙調査自由記述のテキストマイニングによる分析を通して, *札幌保健科学雑誌* 5:53-58, 2016.
14. 常田美和, 新川加奈子, 藤田和佳子, 高橋紀子, 佐藤洋子 : JICA「課題別研修母子保健 (B)」における Project Cycle Management (PCM) 手法学習への介入の成果—3か国の PCM 展開の分析結果から—, *札幌保健医療大学紀要* 2:51-62, 2016.

V. 研究活動

15. 中田亜由美, 宮島直子, 佐藤洋子: 小児の歯科恐怖の影響要因に関する検討 —基本的属性, 歯科や病院での恐怖体験, 歯科受診歴, 特性不安との関係—, 小児保健研究, 804-809, 2016.
16. 渡部舞子, 安積陽子: 妻の妊娠期における夫の抑うつの実態と関連要因. 母性衛生 57 (1) 174-182, 2016.
17. 木村宣哉, 佐伯和子, 平野美千代: 健康増進施策において保健師が重要と認識する地域の栄養・食生活アセスメント項目. 日本公衆衛生看護学会誌 5 (2): 126-135, 2016.
18. 平野美千代, 佐伯和子, 上田泉, 本田光, 水野芳子: 要支援認定を受けた高齢男性の社会活動とその目的, 日本公衆衛生雑誌 64 (1): 14-24, 2017.
19. 上野祐可子, 佐伯和子, 良村貞子: 1歳半児の歯の萌出と15品目の食物摂取状況との関連. 日本公衆衛生学会誌 64 (3): 143-149, 2017.
20. 仁村優希, 水野芳子, 久富沙織, 瀧澤莉代, 三宅杏, 齋藤芳子, 佐伯和子: スマートフォンを活用した高齢者の見守りに対する 大都市の住民の意識. 北海道公衆衛生学雑誌 30 (2): 55-61, 2017.
21. 中谷圭甫, 山本充, 石坂直子, 佐々木香織, 竹田汐里, 水野芳子, 佐伯和子: 増毛町における住民組織活動「ゆうゆうマーシー」の活動報告. 北海道公衆衛生学雑誌 30 (2): 95-100, 2017.
22. 野口真貴子, 村山より子, 久米美代子, 原田通予, 飯塚幸恵: 幼児を育てている母親の食に対する認識, 日本ウーマンズヘルス学会誌, 15 (2), 29-34, 2017.
23. 阿部弥喜, 有田愛莉, 勝藤瞳, 藤平みのり, 齊藤葉月, 山本恵梨子, 平野美千代: 都市部に居住するシニアボランティアの趣味活動と属性との関連. 北海道公衆衛生雑誌 30: 87-94, 2017.
24. 木原真結, 平野美千代: 都市部の胃がん検診要精検者の受診勧奨方法と受診有無の特徴. 北海道公衆衛生雑誌 30: 107-112, 2017.
25. 村上実央, 長山 萌, 高橋真秀, 森 彩緋, 中島彩華, 王 櫻子, 進藤ゆかり, 青柳道子: 看護学生の介護意識の特徴—一般学生との比較—. 北海道公衆衛生学会誌 30 (2): 113-122, 2017.

B. 著書

1. 佐藤洋子 (分担): 第1章5 看護における法律. 33-38, 小児看護学概論 子どもと寄り添う援助 (二宮啓子他編集) 改訂第3版. 南江堂, 東京, 2017年1月.

C. 総説, 解説, 論評

1. 佐伯和子: 【行政保健師の質の保証—卒後教育・CPD】行政保健師に求められる健康政策能力の涵養の現状と課題. 公衆衛生 80: 883-887, 2016.
2. 青柳玲子, 平野かよ子, 佐伯和子, 中板育美: 変革期における保健師のビジョン 求められる役割と人材の育成. 地域保健 47 (4): 6-24, 2016.

D. 報告書

1. 安積陽子, 野口真貴子, 高橋紀子: 北海道農村部で子産み子育てする女性における医療アクセスとソーシャル・キャピタル, 平成28年度 北海道開発協会 開発調査総合研究所 平成28年研究助成成果報告書, 2017.3.
2. 野口真貴子: 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究 (C) 幼児を育てている母親の食生活に関する研究 研究報告書, 2017.3.

V. 研究活動

3. 青柳道子：公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 2015年度(後期)一般公募「在宅医療研究への助成」完了報告書「訪問看護師が感じる実習指導の困難と学習ニーズ」, 2017.3

E. その他

[受賞]

1. 仁村優希, 佐伯和子, 青柳道子：大都市在住の高齢者が見守りを受けたいと思う相手, 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会最優秀ポスター賞,

[学会研究会の主催]

[特許]

[報道]

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

[国内学会]

[地方会]

B) 一般演題

[国際学会]

1. Hisako IZUMI, Kazuko SAEKI, Hiromi IMUTA, Yumi KUWBARA, Mitsuru MORI : Evaluating the use of self-efficacy in health behavior to prevent metabolic syndrome. 第3回日韓合同地域看護学会共同学術集会. 釜山市, 韓国, 2016.7.
2. Michiko Miyazaki, Yukari Watanabe, Yoko Sato, Victims of Sexual Violence and Women's Health Protection, 22st World Congress on Medical Law, LA, USA, 9-12 August, 2016
3. Yoko Sato, Michiko Miyazaki : Children's Decision Making and Information Provision in Pediatric Care - Recognition of Parents, LA, USA, 9-12 August, 2016
4. Michiyo Hirano, Kazuko Saeki, Izumi Ueda, Hikaru Honda, Yoshiko Mizuno : Descriptive research relating to the purpose of social activities for elderly Japanese men who require support. The 4th International Global Network of Public Health Nursing Conference, Billund, Denmark, 2016.9.
5. Saeki K, Hirano M, Honda H, Mizuno Y, Asahara K : Development of interpersonal health care competence among public health nurses in Japan. The 4th International Global Network of Public Health Nursing Conferenc, Billund, Denmark, 2016.9.

V. 研究活動

6. Tomoko Shimoda, Teppei Suzuki, Noriko Takahashi, Mina Samukawa, Kaori Tsutsumi, Katsuhiko Ogasawara, Sadako Yoshimura, A Study on Factors Concerned in the Extension of Healthy Life Expectancy of Elderly People Living in Snowy Areas — Analysis of Bone Density and Muscle Mass —, 5th World Congress of Clinical Safety. USA. Boston, 2016. 9.
7. Tomoko Shimoda, Teppei Suzuki, Noriko Takahashi, Mina Samukawa, Kaori Tsutsumi, Yuji Tani, Teruaki Goto, Katsuhiko Ogasawara, Sadako Yoshimura, Possibility of drugstore-based self-health management in Japan: Study in a provincial city with heavy snowfall, The 4th International Global Network of public health nursing conference. Billund, Denmark. 2016. 9.
8. Honda H, Matsuda N, Saeki K, Hirano M : A framework for assessing the necessity of continuous follow-up of childrearing families: Use of a community-based approach by public health nurses. The 4th International Global Network of Public Health Nursing Conference, Billund, Denmark, 2016.9.
9. Shindo Y, Iwasaki S, Mimura M, Yamakage M: Opioid therapy in Japanese patients with chronic noncancer pain and its everyday impact. 16th world congress on pain, Yokohama, Japan, 2016.9.
10. Noriyo Colley, Noriko Takahashi, Wakako Fujita, Gensei Ishimura, Yukiko Abe, Michitaka Ozaki, Hiroyuki Date: Ultra-aging society and the shortage of nursing in Japan: What can we do to achieve sustainable society?, 9th International Council of Nurses (ICN) International Nurse Practitioner / Advanced Practice Nursing Network (INP/APNN) Conference, Hong Kong, China, 2016. 9.
11. Noriyo Colley, Andrew Cashin: Controlling Medicalization Wins Out Over The Social Need to Create Nurse Practitioner Roles in Japan, 9th International Council of Nurses (ICN) International Nurse Practitioner / Advanced Practice Nursing Network (INP/APNN) Conference, Hong Kong, 2016. 9.
12. Rie Miyata, Michiyo Hirano, Kazuko Saeki : Factors Contributing to a Positive Perception Toward Life in Elderly Participants in Preventative Healthcare classes in a metropolitan city. The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars, Hong Kong, China, 2017. 3.
13. Yuki Nimura, Kazuko Saeki, Michiko Aoyangi : Older residents' intention regarding being monitored in a metropolitan city. The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars, Hong Kong, China, 2017. 3. 9
14. Yujiro Ikeda, Kazuko Saeki, Yoko Asaka : Japanese mothers' satisfaction with fathers' childcare participation and associated factors. The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars, Hong Kong, China, 2017. 3. 9
15. Yuko Tanaka, Kazuko Saeki : Family caregivers of persons with early onset dementia, and the decision about moving home or to facilities after psychiatric hospital discharge. The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars, Hong Kong, China, 2017. 3.
16. Eriko Mimura, Yoko Sato : Examination of Factors Related to the Quality of Life of Mothers of Children with Disabilities, the 20th East Asian Forum of Nursing Scholars, Hong Kong, China, 9 March 2017.
17. Maya Kaneko, Yoko Asaka: A literature review of the assessment methods for nipple fissures caused by breastfeeding. The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars, Hong Kong, China, 2017. 3.
18. Kaori Inuzuka, Yoko Asaka: A literature review of midwifery care for preventing child abuse in Japan, The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars, Hong Kong, China, 2017. 3.
19. Aoyanagi M: Factors related to mental health of family caregivers: Focus on social support and interpersonal stress. 20th East Asian Forum of Nursing Scholars, Hong Kong, 2017. 3.

V. 研究活動

20. Noguchi M, Kume M, Murayama Y, Harada M, Iizuka Y: The importance of a well-balanced diet for Japanese mothers. The 20th East Asia Forum of Nursing Scholars, Hong Kong, 2017. 3.

[国内学会]

1. 野口真貴子, 久米美代子, 村山より子, 原田通予, 飯塚幸恵: 幼児を育てている母親の食習慣, 第86回日本衛生学会学術集会, 旭川, 2016. 5.
2. コリー紀代: 人工知能を搭載したいケア技術とは, JSAI2016 第30回人工知能学会, 小倉, 2016. 5.
3. 中川真知子, 太田英伸, 長沖優子, 島袋林周, 安積陽子, 高橋紀子, 中澤貴代, 兼次洋介, 森岡圭太, 大石芳久, 阿佐美百合子, 池内まり, 高橋真理, 平田倫生, 小澤美和, 長和俊, 草川功, 與田仁志: 幼児の夜間睡眠に対する昼寝の影響について, 第10回子どもの眠り研究会, 東京, 2016. 6.
4. 野口真貴子, 久米美代子, 村山より子, 原田通予, 飯塚幸恵: 幼児を育てている母親の食に対する認識, 第15回日本ウーマンズヘルス学会学術集会, 東京, 2016. 7.
5. 帯野 華, 矢野はな, 三村枝里子, 佐藤洋子: 発達障害児に対する視覚的プレパレーションの効果—電子機器を用いた視覚的情報提供—, 第26回日本小児看護学会学術集会, 別府, 2016. 7.
6. 矢野はな, 帯野 華, 三村枝里子, 佐藤洋子: 電子機器 (iPad, スマイルタッチ) を用いたプレパレーション効果の検討—ツールの違いが対処行動に及ぼす影響—, 第26回日本小児看護学会学術集会, 別府, 2016. 7.
7. 平野美千代, 佐伯和子, 本田光, 水野芳子: 修士課程における公衆衛生看護学実習の構築—実践能力向上を目指した実践現場との協働による実習—. 日本地域看護学会第19回学術集会, 下野, 2016. 8.
8. 吉良千里, 村田和香, 佐伯和子: 介護老人福祉施設で働く介護職員が認知症高齢者と築いている「良好な関係」, 第50回日本作業療法学会, 札幌, 2016. 9.
9. 松井 春菜, 安積 陽子: 生後1ヵ月児の父親の抑うつ傾向と父親意識の関連, 第回母性衛生学会, 東京, 2016. 9.
10. 金子真弥, 安積 陽子: 授乳に関連した乳頭損傷の定義や評価方法に関する文献検討, 第31回日本母乳哺育学会学術集会, 岩手, 2016. 9.
11. 寒川 美奈, 鈴木 哲平, 谷 祐児, 下田 智子, 堤 香織, 高橋 紀子, 良村 貞子, 小笠原 克彦, 積雪寒冷地域在住女性における尿失禁とバランス機能の関連性について, 日本体力医学会, 盛岡. 2016. 9
12. 奥田博子, 宮崎美砂子, 守田孝恵, 佐伯和子, 中板育美, 橘とも子, 福島富士子, 石丸美奈, 水野亮子, 中西信代, 勝又浜子, 橋本結花, 村中峯子, 森永裕美子, 大木幸子: 保健師の人材育成計画策定ガイドラインの開発に関する研究, 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016. 10.
13. コリー紀代: 二人一組制労働による看護師の学習と斜め分業への効果と課題, 日本社会教育学会 第62回研究大会, 東京, 2016. 9.
14. 平野美千代, 佐伯和子, 上田泉, 本田光, 水野芳子: 要支援認定を受けた男性高齢者の社会活動の特徴, 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016. 10.
15. 木原真結, 平野美千代: 都市部の大腸がん検診要精検未受診者への受診勧奨方法と精検受診有無の関連, 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016. 10.
16. 渡部恵子, 武内阿味, 大野稔子, 成田月子, 本田秀子, 進藤ゆかり: 受診中断経験のある HIV 患者の受診行動にまつわる思い, 第30回日本エイズ学会学術集会. 鹿児島, 2016. 11.

V. 研究活動

17. 下田智子, 鈴木哲平, 堤香織, 高橋紀子, 寒川美奈, 後藤輝明, 吉町晶子, 小笠原克彦, 良村貞子, 冬期における豪雪地域住民の年代別体組成および骨密度の実態—高齢者の筋肉量と骨密度に着目して—, 第23回日本未病システム学会学術総会, 福岡, 2016. 11
18. 赤星琴美, 佐伯和子, 平野美千代, 高橋香子, 永田智子, 蔭山正子, 二宮一枝, 佐藤玉枝, 村嶋幸代: 保健師教育における技術項目と卒業時到達度調査(第2報)—保看統合大学と保健師選択大学の違い—, 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会, 仙台, 2017. 1. B123:G135
19. 久富沙織, 水野芳子, 佐伯和子: 地域在住の認知症の疑いのある高齢者への近隣住民によるサポート実施意向, 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会, 仙台, 2017. 1.
20. 大西竜太, 平野美千代, 佐伯和子: 3歳児の養育における統制場面でのスマートフォン利用に関する母親の認識, 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会, 仙台, 2017. 1.
21. 池田雄二郎, 佐伯和子: 父親の育児行動および夫からのソーシャルサポートと母親のウェルビーイングの関連, 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会, 仙台, 2017. 1.
22. 磯野晃照, 本田光, 佐伯和子: 避難所における中学生の役割認識～北海道東部太平洋沿岸部地域における調査～. 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会, 仙台, 2017. 1.
23. 宮田 莉英, 平野 美千代, 佐伯 和子: 都市部在住高齢者の介護予防教室への参加による活動意義と関連する要因, 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会, 仙台, 2017. 1.
24. 仁村優希, 青柳道子, 佐伯和子: 大都市在住の高齢者が見守りを受けたいと思う相手, 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会, 仙台, 2017. 1.
25. 佐伯和子, 水野芳子, 平野美千代, 本田光: 新人保健師の入職4か月間の家庭訪問の実態(第1報)—訪問件数と自己評価—, 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会, 仙台, 2017. 1.
26. 水野芳子, 佐伯和子, 平野美千代, 本田光: 新人保健師の入職4か月間の家庭訪問の実態(第2報)—指導者からの評価—. 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会, 仙台, 2017. 1.
27. 村嶋幸代, 赤星琴美, 佐伯和子, 平野美千代, 高橋香子, 永田智子, 蔭山正子, 二宮一枝, 佐藤玉枝: 大学院修士課程教育で育成する保健師像と目指す能力, 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会, 仙台, 2017. 1.
28. 赤星琴美, 佐伯和子, 平野美千代, 高橋香子, 永田智子, 蔭山正子, 二宮一枝, 佐藤玉枝, 村嶋幸代: 保健師教育における技術項目と卒業時到達度調査(第2報)—保看統合大学と保健師選択大学の違い—, 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会, 仙台, 2017. 1.
29. 青柳道子: がん患者の主介護者である家族の精神的健康の関連要因—ソーシャルサポートと対人ストレスに着目して—. 第31回日本がん看護学会学術集会, 高知, 2017. 2.
30. 石岡明子, 小野塚美香, 林みゆき, 本間美恵, 高橋久美子, 佐藤ひとみ, 青柳道子, 溝部佳代: 院内認定がん看護エキスパートナース連絡会の開催～組織全体で活動を支援する取り組み～. 第31回日本がん看護学会学術集会, 高知, 2017. 2.
31. 野口真貴子, 久米美代子, 村山より子, 原田通予, 飯塚幸恵: 幼児を育てている母親の育児に対する認識, 幼児を育てている母親の食事バランスに関する全国調査, 第87回日本衛生学会学術集会, 宮崎, 2017. 3.

[地方会]

1. 本田光, 水野芳子, 平野美千代, 佐伯和子: 「子育てをしている母親の地域との関係性構築」に関する保健師の認識, 第68回北海道公衆衛生学会, 札幌, 2016. 10.

V. 研究活動

2. 木原真結, 平野美千代: 胃がん検診要精検者の受診勧奨方法と受診有無の特徴～都市部での検討～. 第68回北海道公衆衛生学会, 札幌, 2016. 10.
3. 大川加奈, 藤田和佳子, 伊藤由美, 佐川 正: 助産師の電話トリアージに関する英語文献レビュー. 第20回看護総合科学研究会, 札幌, 2016. 10.
4. 伊藤由美, 良村貞子, 佐川 正: 経膈分娩における産後過剰出血の予防に関する文献レビュー. 第20回看護総合科学研究会, 札幌, 2016. 10.
5. 松浦拓哉, コリー紀代, 福本信幸, 二宮伸治: 気管内吸引トレーニングのための交流インピーダンス測定法を用いた気道粘膜接触検知方法の開発, 第6回中四国臨床工学会, 高知, 2016. 12
6. 福本信幸, コリー紀代, 松浦拓哉, 二宮伸治: 気管内吸引トレーニングのためのPVAゲルの電気化学的薄膜形成法を用いた気道粘膜モデルの開発, 第6回中四国臨床工学会, 高知, 2016. 12
7. コリー紀代, 前川恭子: 特別支援学校看護師研修の実践報告～学校看護師のリカレント教育における課題～, 第5回北海道重症心身障害医療研究会, 札幌, 2017. 1.

■業績

医用生体理工学分野

A. 学術論文

1. Aikawa T, Naya M, Obara M, Manabe O, Tomiyama Y, Magota K, Yamada S, Katoh C, Tamaki N, Tsutsui H. Impaired Myocardial Sympathetic Innervation is Associated with Diastolic Dysfunction in Patients with Heart Failure with Preserved Ejection Fraction: ¹¹C-hydroxyephedrine PET Study. *J Nucl Med.* 2016 Nov 3. pii: jnumed.116.178558. [Epub ahead of print]
2. Masuda A, Yoshinaga K, Naya M, Manabe O, Yamada S, Iwano H, Okada T, Katoh C, Takeishi Y, Tsutsui H, Tamaki N: Accelerated (^{99m}Tc)-sestamibi clearance associated with mitochondrial dysfunction and regional left ventricular dysfunction in reperfused myocardium in patients with acute coronary syndrome. *EJNMMI Res.* 2016 Dec;6 (1) :41. doi: 10.1186/s13550-016-0196-5. Epub 2016 May 12.
3. Ochi N, Yoshinaga K, Ito YM, Tomiyama Y, Inoue M, Nishida M, Manabe O, Shibuya H, Shimizu C, Suzuki E, Fujii S, Katoh C, Tamaki N: Comprehensive assessment of impaired peripheral and coronary artery endothelial functions in smokers using brachial artery ultrasound and oxygen-15-labeled water PET. *J Cardiol.* 68 (4) :316-23.2016
4. Kwon J, Sutherland K, Hashimoto T, Shirato H and Date H: Spatial distributions of dose enhancement around a gold nanoparticle at several depths of proton Bragg peak. *Nuclear Instruments and Methods in Physics Research Section B* 384, 113-120 (2016) <http://dx.doi.org/10.1016/j.nimb.2016.08.013>
5. Matsuya Y, Tsutsumi K, Sasaki K, Yoshii Y, Kimura T and Date H: Modeling of cell survival with change of DNA amount during protracted irradiation. *Journal of Radiation Research* 2016; 14:1-11. doi: 10.1093/jrr/rrw110
6. Matsuya Y, Tsujiguchi T, Yamaguchi M, Kimura T, Mori R, Yamada R, Saga R, Fujishima Y, Date H: Educational Activity for the Radiation Emergency System in the Northern Part of Japan: Meeting Report on "The 3rd Educational Symposium on Radiation and Health (ESRAH) by Young Scientists in 2016". *Radiation Research* (2017) (in press)
7. 溝延数房, 白石祐太, 中野 聡, 福田千晶, 浅沼 治, 原田耕平, 伊達広行: Size-specific dose estimation (SSDE) 算出のための size correction factor の検討. *日本放射線技術学会雑誌*第 72 巻第 9 号 727-734 (2016)
8. Katayama K, Okubo T, Sato T, Kamiya K, Fukai R, Abe S, Ito H, Makino Y, Kamishima T: One-year maintenance with routine assessment of patient index data 3-based remission may inhibit radiographic progression in patients with rheumatoid arthritis treated with routine clinical therapy: A retrospective comparison of radiographic outcome and its prognostic factors between maintained remissions with patient-reported outcome index and physician-oriented disease activity indices. *Mod Rheumatol.* Nov;26 (6) :817-827, 2016.
9. Sakashita T, Kamishima T, Kobayashi Y, Sugimori H, Tang M, Sutherland K, Noguchi A, Kono M, Atsumi T. Accurate quantitative assessment of synovitis in rheumatoid arthritis using pixel-by-pixel, time-intensity curve shape analysis. *Br J Radiol.* 89 (1061) :20151000, 2016.

10. Ono Y, Kashihara R, Yasojima N, Kasahara H, Shimizu Y, Tamura K, Tsutsumi K, Sutherland K, Koike T, Kamishima T. Tomosynthesis can facilitate accurate measurement of joint space width under the condition of the oblique incidence of X-rays in patients with rheumatoid arthritis. *Br J Radiol.* Jun;89 (1062) :20150967, 2016.
11. Sakashita T, Kamishima T, Sugimori H, Tang M, Noguchi A, Kono M, Sutherland K, Atsumi T. Pixel-by-Pixel Arterial Spin Labeling Blood Flow Pattern Variation Analysis for Discrimination of Rheumatoid Synovitis: A Pilot Study. *Magn Reson Med Sci.* 10;16 (1) :78-83, 2017
12. Hatano K, Kamishima T, Sutherland K, Kato M, Nakagawa I, Ichikawa S, Kawauchi K, Saitou S, Mukai M. A reliability study using computer-based analysis of finger joint space narrowing in rheumatoid arthritis patients. *Rheumatol Int.* 37 (2) :189-195, 2017.
13. Sakano R, Saito K, Kamishima T, Nishida M, Horie T, Noguchi A, Kono M, Sutherland K, Atsumi T. Power Doppler signal calibration in the finger joint between two models of ultrasound machine: a pilot study using a phantom and joints in patients with rheumatoid arthritis. *Acta Radiol.* 1:284185116685923, 2017.
14. Ichikawa S, Kamishima T, Sutherland K, Kasahara H, Shimizu Y, Fujimori M, Yasojima N, Ono Y, Kaneda T, Koike T. Semi-Automated Quantification of Finger Joint Space Narrowing Using Tomosynthesis in Patients with Rheumatoid Arthritis. *J Digit Imaging.* 30 (3) :369-375, 20115.
Kono M, Kamishima T, Yasuda S, Sakamoto K, Abe S, Noguchi A, Watanabe T, Shimizu Y, Oku K, Bohgaki T, Amengual O, Horita T, Atsumi T. Effectiveness of whole-body magnetic resonance imaging for the efficacy of biologic anti-rheumatic drugs in patients with rheumatoid arthritis: A retrospective pilot study. *Mod Rheumatol.* 1:1-8, 2017.
15. Kono M, Kamishima T, Yasuda S, Sakamoto K, Abe S, Noguchi A, Watanabe T, Shimizu Y, Oku K, Bohgaki T, Amengual O, Horita T, Atsumi T. Effectiveness of whole-body magnetic resonance imaging for the efficacy of biologic anti-rheumatic drugs in patients with rheumatoid arthritis: A retrospective pilot study. *Mod Rheumatol.* 1:1-8, 2017.
16. Yasuda S, Ohmura K, Kanazawa H, Kurita T, Kon Y, Ishii T, Fujieda Y, Jodo S, Tanimura K, Minami M, Izumiyama T, Matsumoto T, Amasaki Y, Suzuki Y, Kasahara H, Yamauchi N, Kato M, Kamishima T, Tsutsumi A, Takemori H, Koike T, Atsumi T. Maintenance Treatment using Abatacept with Dose Reduction after Achievement of Low Disease Activity in Patients with Rheumatoid Arthritis (MATADOR) - A prospective, multicenter, single arm pilot clinical trial. *Mod Rheumatol.* 2:1-20, 2017.
17. Fukae J, Tanimura K, Isobe M, Kitano A, Henmi M, Nakai M, Aoki Y, Sakamoto F, Narita A, Ito T, Mitsuzaki A, Matsushashi M, Shimizu M, Kamishima T, Atsumi T, Koike T. Active synovitis in the presence of osteitis predicts residual synovitis in patients with rheumatoid arthritis with a clinical response to treatment. *Int J Rheum Dis.* 2017 Feb 3.
18. Saito K, Abe A, Kamishima T, Ishikawa H, Wakaki K, Ishizu A. Relationship between power Doppler grade and the pathological blood vessel features in long-standing rheumatoid arthritis. *Rheumatol Int.* 36 (12) :1689-1690, 2016.

V. 研究活動

19. Hamada T, Sutherland K, Ishikawa M, Miyamoto N, Honma S, Shirato H, Honma K: In vivo imaging of clock gene expression in multiple tissues of freely moving mice. *Nature Communications* Jun 10;7:11705. doi: 10.1038/ncomms11705, 2016.
20. Ogawara R, Ishikawa M: Signal pulse emulation for scintillation detectors using Geant4 Monte Carlo with light tracking simulation. *Review of Scientific Instruments* 87-7, Epub. 075114, 2016.
21. Ishikawa M, Yamamoto T, Matsumura A, Hiratsuka J, Miyatake S, Kato I, Sakurai Y, Kumada H, Shrestha S, Ono K: Early clinical experience utilizing Scintillator with optical fiber (SOF) detector in clinical boron neutron capture therapy: Its Issues and solutions. *Radiation Oncology* 11:105, DOI: 10.1186/s13014-016-0680-0, 2016.
22. Ukon N, Kubo N, Ishikawa M, Zhao S, Tamaki N, Kuge Y: Optimization of helical acquisition parameters to preserve uniformity of mouse whole body using multipinhole collimator in single-photon emission computed tomography. *Results in Physics* 6:659-663, 2016.
23. Hamaguchi H, Tha KK, Sugimori H, Nakanishi M, Nakagawa S, Fujiwara T, Yoshida H, Takamori S, Shirato H: Effect of respiratory and cardiac gating on the major diffusion-imaging metrics. *Neuroradiol J* 29:254-259, 2016.
24. Takagi S, Koyama M, Hayashi K, Kawauchi T: Image Quality Required for the Diagnosis of Skull Fractures Using Head CT: A Comparison of Conventional and Improved Reconstruction Kernels. *AJNR Am J Neuroradiol.* 37: 1992-1995, 2016.

B. 著書

1. 山本 徹(分担):第3章 磁気共鳴画像法. 放射線診断物理学(松本政雄 編). 249-338, 国際文献社, 東京, 2017.
2. 神島 保(分担):画像診断ガイドライン 2016年版 第2版 日本医学放射線学会(編集). 金原出版, 東京, 2016.
3. 杉森博行(分担):診療放射線技師ポケットレビュー帳 3rd edition. 186-240, メジカルビュー社, 東京, 2017.
4. 堤 香織(分担):人体のメカニズムから学ぶ「放射線生物学」(松本義久 編集). 42-55, メジカルビュー社, 東京, 2017.

C. 総説, 解説, 論評

1. 加藤千恵次: II. 検査の実際 2. 上部消化管検査 日本消化器内視鏡学会(監修), 松井敏幸, 赤松泰次, 田村君英 編集, 消化器内視鏡技師のためのハンドブック 改訂第7版, 医学図書出版株式会社. 東京, 2016, pp.94-96.
2. 神島 保:【関節リウマチ早期診断・治療のための必須知識】RA 早期診断のための画像診断の重要性 MRI(解説/特集), *Orthopaedics* 29 巻 7 号, 29-34, 全日本病院出版会, 2016.

D. 報告書

V. 研究活動

E. その他

[受賞]

1. 第72回日本放射線技術学会総会学術大会金賞 Hiroshima Y, Tomiyama Y, Magota K, Manabe O, Tamaki N, Katoh C: Quantification of Myocardial Blood Flow with ¹¹C-hydroxyephedrine Dynamic PET: Evaluation with ¹⁵O-H₂O PET
2. 第59回大会日本放射線影響学会・優秀演題発表賞 Non-Targeted Effect を含めた細胞生存率に対する数理モデルの開発
3. 日本放射線技術学会北海道部会学術大会第72回秋季大会・研究優秀賞(放射線治療) 低線量率長時間照射における細胞周期の動態解析
4. The 3rd Educational Symposium on Radiation and Health by Young Scientists, Poster Prize Winner (1st) A Cell-Killing Model of Targeted and Non-Targeted Effects Based on Microdosimetry and Biological Processes
5. The 22nd International Conference on Medical Physics (ICMP), Anchali Krisanachinda Award (1st) Biophysical modeling for targeted and non-targeted effects on cells after irradiation
6. The 22nd International Conference on Medical Physics (ICMP), Anchali Krisanachinda Award (4th) Optimization of the irradiation scheme in radiotherapy focusing on the dose and dose rate to the tumor and organs at risk

[学会研究会の主催]

1. 伊達広行 「The 3rd Educational Symposium on Radiation and Health by Young Scientists」 大会長, Hokkaido University, Sapporo, Japan, 2016.10.02.
2. 神島 保 骨軟部放射線研究会 第27回骨軟部放射線診断セミナー 2016年8月5日6日 札幌アスティ 45 ACU 研修室

[特許]

1. 発熱分布情報を生成する装置と方法, 磁気共鳴画像装置及びプログラム 山本 徹, 小林勇太 2016.12.7 P6083680 国立大学法人北海道大学
2. 放射線照射計画装置及び臨床判断支援装置 水田正弘, 伊達広行, 白土博樹, 他4名 2016/12/19 PCT/JP2016/087808 小橋啓司

[報道]

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Kamishima T: Imaging approach to arthritis International Skeletal Society (ISS) 18th Regional Outreach Programme (ROP), Asian Series: Special Musculoskeletal Workshop for Young Radiologists Ho Chi Minh City, Vietnam, 16 August 2016

V. 研究活動

2. Kamishima T: Imaging of wrist fractures, Imaging approach to arthritis International Skeletal Society (ISS) 18th Regional Outreach Programme (ROP), Asian Series: Special Musculoskeletal Workshop for Young Radiologists Ho Chi Minh City, Vietnam, 16 August 2016
3. Kamishima T: Imaging approach to hip pain, Imaging approach to arthritis International Skeletal Society (ISS) 18th Regional Outreach Programme (ROP), Asian Series: Special Musculoskeletal Workshop for Young Radiologists Ho Chi Minh City, Vietnam, 17 August 2016

[国内学会]

1. 山本 徹：MRI 装置のハードウェア. 第 21 回講演会「MRI 安全性 安全性 の考え方」, 東京, 2016.3.25.
2. 石川 正純：「特別シンポジウム 1: 医学物理分野における継続的な革新への期待」, 第 75 回日本医学放射線学会学術大会, 横浜, 2016.4.
3. 石川 正純：「特別企画① 医学物理研究の将来展望」, 第 29 回日本放射線腫瘍学会学術大会, 京都, 2016.11.
4. 神島 保：「リウマチ画像の定量評価」日本リウマチ学会主催 JCR 関節超音波検査講習会 アドバンスコース・イブニングセミナー 平成 28 年 10 月 8 日 (土) 御茶ノ水ソラシティ

[地方会]

1. 神島 保：関節リウマチ診療に役立つ画像評価「関節リウマチに特徴的な関節MRI画像」第 6 回 Hokkaido image forum in Rheumatology 平成 28 年 5 月 20 日 京王プラザホテル札幌
2. 神島 保：リウマチ画像セミナー「関節リウマチのMRI: 適応と読影の実践」平成 28 年 6 月 23 日 獨協医科大学病院
3. 神島 保：特別講演「骨軟部疾患の画像診断」苫小牧放射線技師会学術講演会 平成 28 年 11 月 12 日 (土曜日) グランドホテルニュー王子

B) 一般演題

[国際学会]

1. Kikuchi Y, Tang M, Yamamoto T. Positioning to decrease hot spots caused by an intramedullary rod implanted in a forearm. International Society for Magnetic Resonance in Medicine 24th Annual Meeting and Exhibition, Singapore, 2016.5. (Proc. Intl. Soc. Magn. Reson. Med. 24:2214.)
2. Kaneda T, Oshinomi K, Ohno N, Miyati T, Yamamoto T. Quantitative evaluation of mapping of magnetic distortion due to metallic materials. International Society for Magnetic Resonance in Medicine 24th Annual Meeting and Exhibition, Singapore, 2016.5. (Proc. Intl. Soc. Magn. Reson. Med. 24:1872.)
3. Tha KK, Katscher U, Yamaguchi S, Terasaka S, Yamamoto T, Kudo K, Shirato H. Electrical Conductivity Characteristics of Glioma: Noninvasive Assessment by MRI and Its Validity. International Society for Magnetic Resonance in Medicine 24th Annual Meeting and Exhibition, Singapore, 2016.5. (Proc. Intl. Soc. Magn. Reson. Med. 24:274.)

V. 研究活動

4. Tawara N, Ponkanist K, Shiratori S, Krisanachinda A, Yamamoto T. Accuracy evaluation of pulse sequences using inversion recovery pulse for T1 measurement. International Society for Magnetic Resonance in Medicine 24th Annual Meeting and Exhibition, Singapore, 2016.5. (Proc. Intl. Soc. Magn. Reson. Med. 24:4481.)
5. Oshinomi K, Ishizaka K, Tha KK, Yamamoto T, Scanning Parameter Dependence of Crossing Nerve Fiber Depiction Accuracy in Diffusion Spectrum Imaging. Radiological Society of North America 102nd Annual Meeting, Chicago, 2016.12.
6. Matsuya Y, Tsutsumi K, Sasaki K, Yoshii Y, Kimura T, Date H: Mathematical analysis of the cell viability under low dose-rate exposure: the change of DNA amount during the protracted irradiation. 42nd Annual Meeting of the European Radiation Research Society, Royal Tropical Institute, Amsterdam, Netherlands, 2016.9.4-8.
7. Kimura T, Matsuya Y, Date H: Determination of cell surviving fraction for radiotherapy in fractionated irradiation considering dose rates and repopulation of tumor cells. 42nd Annual Meeting of the European Radiation Research Society, Royal Tropical Institute, Amsterdam, Netherlands, 2016.9.4-8.
8. Sasaki K, Matsuya Y, Date H: Estimation of DNA damage kinetics in both targeted and non-targeted cells using a stochastic model with the microdosimetric analysis. The 62nd Radiation Research Society (RRS) Annual Meeting in Waikoloa, Hawaii, 2016.10.16-19.
9. Matsuya Y, Sasaki K, Yoshii Y, Okuyama G, Kimura T, Date H: A Cell-killing Model of Targeted and Non-Targeted Effects Based on Microdosimetry and Biological Processes. The 3rd meeting of educational symposium of radiation and health (ESRAH), Sapporo, Hokkaido, Japan, 2016.10.01-02.
10. Mori R, Matsuya Y, Yoshii Y, Date H: Probability of radiation-induced DNA double-strand breaks in statistical considerations for radiation energy deposition and cell cycle. The 3rd meeting of educational symposium of radiation and health (ESRAH), Sapporo, Hokkaido, Japan, 2016.10.01-02.
11. Yamada R, Matsuya Y, Date H: Uncertainty assessment of OER for reoxygenated tumor. The 3rd meeting of educational symposium of radiation and health (ESRAH), Sapporo, Hokkaido, Japan, 2016.10.01-02.
12. Kimura T, Matsuya Y, Yoshii Y, Date H: Impacts of electron collision cross sections on electron track simulations in liquid water. The 3rd meeting of educational symposium of radiation and health (ESRAH), Sapporo, Hokkaido, Japan, 2016.10.01-02.
13. Matsuya Y, Sasaki K, Yoshii Y, Date H: Biophysical modeling for targeted and non-targeted effects on cells after irradiation. The 22nd International Conference on Medical Physics (ICMP) 2016, Shangri-La Hotel, Bangkok, Thailand, 2016.12.09-12.
14. Yamada R, Matsuya Y, Date H: Optimization of the irradiation scheme in radiotherapy focusing on the dose and dose rate to the tumor and organs at risk. The 22nd International Conference on Medical Physics (ICMP) 2016, Shangri-La Hotel, Bangkok, Thailand, 2016.12.09-12.
15. Mori R, Matsuya Y, Yoshii Y, Date H: Probability estimation of radiation-induced DNA double-strand breaks in the cell nucleus. The 22nd International Conference on Medical Physics (ICMP) 2016, Shangri-La Hotel, Bangkok, Thailand, 2016.12.09-12.

V. 研究活動

16. Ishikawa M, Nakagawa K, Igarashi T, Furuhashi T, Sakuhara Y: Development of scintillator with optical fiber dosimeter for patient skin dose measurement. 2016 International Congress on Medical Physics, Bangkok, 2016.12.
17. Sugimori H, Tha KK, Urushibata Y: Imaging of Pulmonary Ventilation Under Free-Breathing Using Dual-Echo Ultra-Short Echo Time Sequence: A Preliminary Report. European congress of Radiology 2017, vienna, austria, 2017.3.
18. Miyamoto Y, Sugimori H, Sakano R, Mori S, Oda M: Comparison between exposure index for infants showing hip-joint abnormalities with and without Pavlik harness. European congress of Radiology 2017, vienna, austria, 2017.3.
19. Shimoda T, Suzuki T, Takahashi N, Samukawa M, Tsutsumi K, Ogasawara K, Yoshimura S: A Study on Factors Concerned in the Extension of Healthy Life Expectancy of Elderly People Living in Snowy Areas — Analysis of Bone Density and Muscle Mass —. 5th World Congress of Clinical Safety, Boston, USA, 2016.9.
20. Shimoda T, Suzuki T, Takahashi N, Samukawa M, Tsutsumi K, Tani Y, Goto Y, Ogasawara K, Yoshimura Y: Possibility of drugstore-based self-health management in Japan: Study in a provincial city with heavy snowfall. The 4th International Global Network of public health nursing conference, Billund, Denmark, 2016.9.
21. Katoh C, Tomiyama Y, Hirata K, Shiga T, Tamaki N: Iterative factor analysis: Strategy for estimating input function in dynamic 18F-FDG brain PET, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging, San Diego, USA, 2016.6
22. Hiroshima Y, Tomiyama Y, Magota K, Manabe O, Tamak N, Katoh C: Quantification of Myocardial Blood Flow with 11C-hydroxyephedrine Dynamic PET: Evaluation with 15O-H2O PET, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging, San Diego, USA, 2016.6

[国内学会]

1. Oshinomi K, Ishizaka K, Yoshitomi K, Kawaguchi A, Tha KK, Yamamoto T. Scanning parameter dependence of crossing neuronal fiber depiction accuracy in diffusion spectrum imaging. 医学物理. 2016;36S1:170.
2. Kikuchi Y, Yamamoto T. Patient positioning to reduce RF heating of implanted materials. 医学物理. 2016;36S1:173.
3. Kaneda T, Takagi S, Yamamoto T. Quantitative accuracy of magnetic field distortion mapped by MRI. 医学物理. 2016;36S1:172.
4. Kikuchi Y, Haruyama T, Yamamoto T. Electromagnetic simulation of an accidental case of RF burning during MRI examination. 医学物理. 2016;36S2:107.
5. Kawahira S, Tang M, Yamamoto T. Torque abnormality of a Ti alloy implant in a static magnetic field of MRI. 医学物理. 2016;36S2:108.
6. 菊地侑, 春山卓哉, 唐明輝, 山本徹. RF熱傷事故例の電磁界シミュレーション解析. 第43回日本磁気共鳴医学会大会, 大宮, 2016.9.

V. 研究活動

7. 金田貴彦, 山本徹. 磁場歪みマッピングの定量的評価. 第43回日本磁気共鳴医学会大会, 大宮, 2016.9.
8. 川平慎悟, 唐明輝, 金田貴彦, 山本徹. Ti合金材料の静磁場中でのトルク異常性: 磁化率異方性効果. 第43回日本磁気共鳴医学会大会, 大宮, 2016.9.
9. Masuyama K, Shioda M, Akimoto S, Akiyoshi K, Aoki H, Inoko Y, Adachi H, Yamamoto T. T1 relaxation time measurement using ultra-short echo-time imaging with inversion recovery pulse. 第43回日本磁気共鳴医学会大会, 大宮, 2016.9.
10. 加藤千恵次: 「ダイナミック医用画像から入力関数抽出を行う繰返し因子分析法の開発」. 生体医工学シンポジウム, 旭川, 2016.9.
11. 加藤千恵次: 「繰返し因子分析法の開発: ダイナミックFDG脳PETにおける動脈血流放射能曲線抽出への応用」. 第75回日本医学放射線学会総会, 横浜, 2016.4.
12. Hiroshima Y, Tomiyama Y, Magota K, Manabe O, Tamak N, Katoh C: Quantification of Myocardial Blood Flow with ¹¹C-hydroxyephedrine Dynamic PET: Evaluation with ¹⁵O-H₂O PET, 72th. Japanese Society of Radiological Technology, Yokohama, 2016.4
13. 眞野晃次, 富山勇輝, 広島裕治, 志賀徹, 平田健司, 玉木長良, 加藤千恵次: 「繰返し因子分析法の開発: デジタルファントム実験による有用性の検証」. 第56回日本核医学会学術総会, 名古屋, 2016.11
14. 川内敬介, 富山勇輝, 相川忠夫, 眞鍋治, 納谷昌直, 小原雅彦, 孫田恵一, 吉永恵一郎, 丸尾彩花, 加藤千恵次, 玉木長良: 「¹⁵O-H₂O心筋血流PETにおける撮像時間短縮の検討: 局所病変検出能の評価」. 第56回日本核医学会学術総会, 名古屋, 2016.11
15. Matsuya Y, Tsutsumi K, Sasaki K, Yoshii Y, Date H: Estimation of cell-killing based on the probability density of DNA contents in cell population. 第111回日本医学物理学会学術大会, パシフィコ横浜, 横浜, 2016.4.14-17.
16. 山田亮太, 松谷悠佑, 木村堯朗, 伊達広行. 「Determination of the cell survival curve considering the lethal lesion number per nucleus after irradiation」. 第111回日本医学物理学会学術大会, パシフィコ横浜, 横浜, 2016.4.14-17.
17. Matsuya Y, Sasaki K, Yoshii Y, Kimura T, Mori R, Date H: Evaluation of the dose-rate effects on cell viability for various dose rates considering G2 accumulation of cell cycle. 第112回日本医学物理学会学術大会, 沖縄コンベンションセンター, 沖縄, 2016.9.8-10.
18. Yoshii Y, Matsuya Y, Mori R, Sasaki K, Date H: A calculation model of radiation-induced complex DNA double-strand break based on clustering properties of the electron processes. 第112回日本医学物理学会学術大会, 沖縄コンベンションセンター, 沖縄, 2016.9.8-10.
19. 山田亮太, 木村堯朗, 松谷悠佑, 伊達広行. 「A revisional study of the cell survival curve after irradiation: influences of the survival model and determination method of parameters」. 第112回日本医学物理学会学術大会, 沖縄コンベンションセンター, 沖縄, 2016.9.8-10.
20. 森諒輔, 松谷悠佑, 吉井勇治, 伊達広行. 「Estimation of DNA double-strand breaks based on DNA amount per cell nucleus」. 第112回日本医学物理学会学術大会, 沖縄コンベンションセンター, 沖縄, 2016.9.8-10.

V. 研究活動

21. 松谷悠佑, 佐々木恒平, 吉井勇治, 伊達広行. 「Non-Targeted Effect を含めた細胞生存率に対する数理モデルの開発」. 日本放射線影響学会第 59 回大会, JMS アステールプラザ, 広島, 2016.10.26-28.
22. 森諒輔, 松谷悠佑, 吉井勇治, 伊達広行. 「放射線誘発核内 DNA 二本鎖切断の発生確率分布の推定」. 日本放射線影響学会第 59 回大会, JMS アステールプラザ, 広島, 2016.10.26-28.
23. 佐々木恒平, 松谷悠佑, 吉井勇治, 伊達広行. 「照射・非照射細胞混在環境を模擬した確率的モデルによる細胞応答に関する研究」. 日本放射線影響学会第 59 回大会, JMS アステールプラザ, 広島, 2016.10.26-28.
24. 森諒輔, 松谷悠佑, 吉井勇治, 伊達広行. 「細胞周期依存性ならびに線量依存性を組み込んだ DNA 二本鎖切断発生数推定モデル」. 第 73 回日本放射線技術学会総会学術大会, パシフィコ横浜, 横浜, 2016.4.13-16.
25. Yamada R, Matsuya Y, Date H: Evaluation of oxygen enhancement ratio calculated by the cell survival curves based on microdosimetric-kinetic model. 第 113 回日本医学物理学会学術大会, パシフィコ横浜横浜, 2016.4.13-16.
26. 石川 正純, 奈良 一志, 佐藤 智之, Kenneth Sutherland: 「Gradient 法を用いたフィルム線量分布解析における潜在的な誤差の評価方法」, 第 111 回日本医学物理学会学術大会, 横浜, 2016.4.
27. 石川 正純, 不破 端宏, 奈良 一志, Kenneth Sutherland, 鈴木 隆介, 宮本 直樹: 「フィルムを用いた線量分布解析における画像フィルタの影響に関する考察」, 第 112 回日本医学物理学会学術大会, 沖縄, 2016.9.
28. 石川 正純, 奈良 一志, 檜山 悠字, 佐藤 智之: 「患者 QA のための線量分布解析における Gradient 法の有用性に関する考察」, 第 29 回日本放射線腫瘍学会学術大会, 京都, 2016.11.
29. 加藤 扶美, 工藤 興亮, 三村 理恵, 藪崎 哲史, 坂本 圭太, 宮本 憲幸, 真鍋 徳子, 藤原 太郎, 杉森 博行, 山下 啓子, 細田 充主, Wang Jeff, 白土 博樹: 3T 乳腺 MRI における拡散尖度画像の検討. 第 75 回日本医学放射線学会総会, 横浜, 2016.4.
30. 石坂 欣也, 原田 邦明, 白猪 亨, 藤原 太郎, 杉森 博行, 工藤 興亮: 3Tesla 胸腰椎撮像～腕位置の変更による画質改善～. 第 72 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2016.4.
31. 加藤 扶美, 工藤 興亮, 藤原 太郎, Wang Jeff, 杉森 博行, 山下 啓子, 細田 充主, 真鍋 徳子, 三村 理恵, 白土 博樹: 3T 乳腺 MRI における拡散尖度画像を用いた浸潤性乳癌の評価 バイオマーカーおよび腋窩リンパ節転移との比較. 第 24 回日本乳癌学会学術総会, 東京, 2016.6.
32. Fujima N, Okuaki T, Aoike T, Aoike S, Sugimori H: Evaluation of water permeability for ischemic lesion in the brain using DW-ASL. 第 43 回日本磁気共鳴医学会大会, 大宮, 2016.9.
33. 奥貫拓実, 越野裕太, 遠山晴一, 堤 香織, 生田亮平, 佐橋健人, 横山美翔, 江沢侑也, 寒川美奈, 齊藤展士, 山中正紀: 「Medial tibial stress syndrome 症例における走行時の後・前足部 kinematics および内側縦アーチの動態の検討」. 日本理学療法学会, 札幌, 2016.5.
34. 石田優子, 寒川美奈, 谷 祐児, 堤 香織, 大場健裕, 鈴森雄貴, 鶴喰 涼, 三上兼太郎, 山中正紀, 遠山晴一: 「二次元画像を用いた脊柱アライメント評価法の妥当性検証」. 第 27 回日本臨床スポーツ医学会, 幕張, 2016.11.
35. 奥貫拓実, 越野裕太, 遠山晴一, 堤 香織, 五十嵐将斗, 江沢侑也, 寒川美奈, 山中正紀: 「Medial tibial stress syndrome 症例におけるトレッドミル走行時の膝および股関節運動に対する前・後足部運動の比率」. 第 27 回日本臨床スポーツ医学会, 幕張, 2016.11.

V. 研究活動

36. 寒川美奈, 鈴木哲平, 谷 祐児, 下田智子, 堤 香織, 高橋紀子, 良村貞子, 小笠原克彦:「積雪寒冷地域在住女性における両失禁とバランス機能の関連性について」. 第 71 回日本体力医学会, 盛岡, 2016.9.
37. 下田智子, 鈴木哲平, 堤 香織, 高橋紀子, 寒川美奈, 後藤輝明, 吉町晶子, 小笠原克彦, 良村貞子:「冬期における豪雪地域住民の年代別体組成および骨密度の実態－高齢者の筋肉量と骨密度に着目して－」. 第 23 回日本未病システム学会学術総会, 福岡, 2016.11.
38. Okino T, Kamishima T, Sutherland K, Fukae J, Tanimura K: Comparison between Computer-based Analysis and Conventional Scoring Methods for Radiographic Progression of Finger Joint Space Narrowing Related with Ultrasonographic Synovitis in Rheumatoid Arthritis Patients. The 72th Annual Scientific Congress of JSRT, Yokohama, 2016.4.
39. Ichikawa S, Kamishima T, Sutherland K, Okubo T, Katayama K: Reliability of Computer-Based Roentgenographic Approach for Assessing Joint Space Narrowing Progression in Rheumatoid Arthritis Wrist. The 72th Annual Scientific Congress of JSRT, Yokohama, 2016.4.
40. Hatano K, Kamishima T, Ichikawa S, Sutherland K, Saito S, Kawauchi K, Mukai M: Computer-based Analysis of Finger Joint Space Narrowing in Rheumatoid Arthritis Patients: A Reliability Study. The 72th Annual Scientific Congress of JSRT, Yokohama, 2016.4.
41. Kobayashi Y, Kamishima T, Sakashita T, Sugimori H, Tang M, Noguchi A, Kouno K, Atsumi T: Pixel-by-pixel Time-intensity Curve (TIC) Shape Analysis of Finger Joint Synovitis in Rheumatoid Arthritis Patients. The 72th Annual Scientific Congress of JSRT, Yokohama, 2016.4.
42. Saito K, Kamishima T, Ishikawa H, Abe A, Wakaki K: Correlations Between Power Doppler Ultrasonography and Pathology in the Clinically Advanced Rheumatoid Arthritis. The 72th Annual Scientific Congress of JSRT, Yokohama, 2016.4.
43. Kamishima T, Kono M, Yasuda S, Sakamoto K, Noguchi A, Watanabe T, Shimizu Y, Oku K, Bohgaki T, Amengual O, Horita H, Atsumi T: Effectiveness of whole-body MRI for the evaluation of patients with rheumatoid arthritis receiving biologic agents: a retrospective study 第 44 回日本磁気共鳴医学会大会 2016 年 9 月 9 日 (金) ～ 11 日 (日) 大宮ソニックシティ

[地方会]

1. 松谷悠佑, 佐々木恒平, 吉井勇治, 木村堯朗, 伊達広行. 「標的・非標的効果を考慮した低線量 X 線被ばく後の細胞生存率モデル」. 日本放射線技術学会 第 72 回北海道部会秋季大会, とかちプラザ, 帯広, 2016.11.19-20.
2. 松谷悠佑, 堤香織, 佐々木恒平, 吉井勇治, 森諒輔, 及川青亮, 伊達広行. 「放射線の長時間照射中における細胞周期と放射線感受性の解析」. 日本放射線技術学会 第 72 回北海道部会秋季大会, とかちプラザ, 帯広, 2016.11.19-20.
3. 吉井勇治, 松谷悠佑, 佐々木恒平, 森諒輔, 伊達広行. 「診断用 X 線によって生じる複雑な DNA 二本鎖切断の推定」. 日本放射線技術学会 第 72 回北海道部会秋季大会, とかちプラザ, 帯広, 2016.11.19-20.
4. 木村堯朗, 松谷悠佑, 吉井勇治, 伊達広行. 「水中電子線トラック解析における電子衝突断面積の影響」. 日本放射線技術学会 第 72 回北海道部会秋季大会, とかちプラザ, 帯広, 2016.11.19-20.
5. 森諒輔, 松谷悠佑, 吉井勇治, 伊達広行. 「細胞核内 DNA 量と二次電子エネルギー付与を考慮した放射線影響モデル」. 日本放射線技術学会 第 72 回北海道部会秋季大会, 2016.11.19-20.

V. 研究活動

6. 山田亮太, 松谷悠佑, 伊達広行. 「再酸素化腫瘍に対する酸素増感比の不確定性の評価」. 日本放射線技術学会 第72回北海道部会秋季大会, とかちプラザ, 帯広, 2016.11.19-20.
7. 國分墨, 木村堯朗, 松谷悠佑, 伊達広行. 「放射線治療計画におけるLQモデルパラメータの不確定性評価」. 日本放射線技術学会 第72回北海道部会秋季大会, とかちプラザ, 帯広, 2016.11.19-20.
8. 及川青亮, 松谷悠佑, 森諒輔, 伊達広行. 「低線量率長時間照射における細胞周期の動態解析」. 日本放射線技術学会 第72回北海道部会秋季大会, とかちプラザ, 帯広, 2016.11.19-20.
9. 杉森博行: 心筋T1-mappingの撮像基礎と臨床例. 第4回循環器イメージングを学ぶ会, 札幌, 2016.7.
10. 濱口裕行, 高森清華, 藤原太郎, 葛西克彦, 杉森博行: 頭部の1H-MR spectroscopyにおける解析ソフトウェアの違いによる結果への影響の検討. 日本放射線技術学会 第72回北海道支部秋季大会, 帯広, 2016.11.
11. 沼田直人, 石坂欣也, 杉森博行: Phase-contrast法を用いた腎動脈血流解析における基礎的検討. 日本放射線技術学会 第72回北海道支部秋季大会, 帯広, 2016.11.
12. 宮本佳史子, 森静香, 坂野稜典, 小田まこと, 杉森博行: 小児股関節撮影におけるExposure Indexの検討. 日本放射線技術学会 第72回北海道支部秋季大会, 帯広, 2016.11.
13. 川崎智博, 石坂欣也, 杉森博行: 2D-Phase contrast法におけるVENC (velocity encoding)の違いによる頸部血管のWSS (Wall Shear Stress) 評価. 日本放射線技術学会 第72回北海道支部秋季大会, 帯広, 2016.11.

■業績

病態解析学分野

A. 学術論文

1. Fukumoto T, Matsuo J, Okubo T, Nakamura S, Miyamoto K, Oka K, Takahashi M, Akizawa K, Shibuya H, Shimizu C, Yamaguchi H: Acanthamoeba containing endosymbiotic chlamydia isolated from hospital environments and its potential role in inflammatory exacerbation. *BMC Microbiol* 16:292, 2016.
2. Fukuda A, Usui M, Okubo T, Tamura Y: Horizontal Transfer of Plasmid-Mediated Cephalosporin Resistance Genes in the Intestine of Houseflies (*Musca domestica*) . *Microb Drug Resist* 4:336-341, 2016.
3. Usui M, Tagaki C, Fukuda A, Okubo T, Boonla C, Suzuki S, Seki K, Takada H, Tamura Y: Use of *Aeromonas* spp. as General Indicators of Antimicrobial Susceptibility among Bacteria in Aquatic Environments in Thailand. *Front Microbiol* 7:710, 2016.
4. Hayasaka T, Fuda H, Hui SP, Chiba H: Imaging Mass Spectrometry Reveals a Decrease of Cardiolipin in the Kidney of NASH Model Mice. *Anal Sci* 32:473-476, 2016.
5. Ma YS, Yoshida S, Kobayashi Y, Kawanishi N, Furukawa T, Fuda H, Hui SP, Chiba H: Improvement of Mitochondrial Function and Lipid Utilization by 3, 5-dihydroxy-4-methoxybenzyl Alcohol, an Oyster-derived polyphenol, in Oleate-loaded C2C12 Myotubes. *Journal of Food and Nutrition Research* 4:498-507, 2016.
6. Furukawa T, Fuda H, Miyanaga S, Watanabe C, Chiba H, Hui SP: Rapid tin-mediated access to a lysophosphatidylethanolamine (LPE) library: Application to positional LC/MS analysis for hepatic LPEs in non-alcoholic steatohepatitis model mice. *Chem Phys Lipids* 200:133-138, 2016.
7. Kawakami T, Yoon SY, Takeuchi S, Soma Y, Kuroha S, Yoshida S, Shida H, Nakazawa D, Tomaru U, Ishizu A: Novel monoclonal antibodies that recognize both rat and mouse phosphatidylserine/prothrombin complexes. *Mod Rheumatol* 26:470-471, 2016.
8. Miyoshi A, Yamada M, Shida H, Nakazawa D, Kusunoki Y, Nakamura A, Miyoshi H, Tomaru U, Atsumi T, Ishizu A: Circulating neutrophil extracellular trap levels in well-controlled type 2 diabetes and pathway involved in their formation induced by high-dose glucose. *Pathobiology* 83:243-251, 2016.
9. Masuda S, Nakazawa D, Shida H, Miyoshi A, Kusunoki Y, Tomaru U, Ishizu A: NETosis markers: Quest for specific, objective, and quantitative markers. *Clin Chim Acta* 459:89-93, 2016.
10. Kusunoki Y, Nakazawa D, Shida H, Hattanda F, Miyoshi A, Masuda S, Nishio S, Tomaru U, Atsumi T, Ishizu A: Peptidylarginine deiminase inhibitor suppresses neutrophil extracellular trap formation and MPO-ANCA production. *Front Immunol* 7:227, 2016.
11. Sada KE, Harigai M, Amano K, Atsumi T, Fujimoto S, Yuzawa Y, Takasaki Y, Banno S, Sugihara T, Kobayashi M, Usui J, Yamagata K, Homma S, Dobasi H, Tsuboi N, Ishizu A, et al.: Comparison of severity classification in Japanese patients with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis in a nationwide, prospective, inception cohort study. *Mod Rheumatol* 26:730-737, 2016.

12. Saito K, Abe A, Kamishima T, Ishikawa H, Wakaki K, Ishizu A: Relationship between power doppler grade and the pathological blood vessel features in clinically advanced rheumatoid arthritis. *Rheumatol Int* 36:1689-1690, 2016.
13. Shida H, Nakazawa D, Tateyama Y, Miyoshi A, Kusunoki Y, Hattanda F, Masuda S, Tomaru U, Kawakami T, Atsumi T, Ishizu A: The presence of anti-lactoferrin antibodies in a subgroup of eosinophilic granulomatosis with polyangiitis patients and their possible contribution to enhancement of neutrophil extracellular trap formation. *Front Immunol* 7:636, 2016.
14. Hayashi T, Yamada S, Iwano H, Nakabachi M, Sakakibara M, Okada K, Murai D, Nishino H, Kusunose K, Watanabe K, Ishizu T, Wakami K, Yamada H, Dohi K, Seo Y, Ohte N, Mikami T, Tsutsui H: Left ventricular global strain for estimating relaxation and filling pressure: a multicenter study. *Circ J* 80:1163-1170, 2016.
15. Mizukami M, Yamada M, Fukui S, Fujimoto N, Yoshida S, Kaga S, Obata K, Jin S, Miwa K, Masauzi N: Semiautomated Segmentation and Measurement of Cytoplasmic Vacuoles in a Neutrophil With General-Purpose Image Analysis Software. *J Clin Lab Anal* 30:918-923, 2016.
16. Huang M, Furukawa T, Retailleau P, Crich D, Bohé L: Further studies on cation clock reactions in glycosylation: observation of a configuration specific intramolecular sulfenyl transfer and isolation and characterization of a tricyclic acetal. *Carbohydr Res* 427:21-28, 2016
17. Matsushita S, Masaki N, Sato K, Hayasaka T, Sugiyama E, Hui SP, Chiba H, Mase N, Setou M: Selective improvement of peptides imaging on tissue by supercritical fluid wash of lipids for matrix-assisted laser desorption/ionization mass spectrometry. *Anal Bioanal Chem* 409:1475-1480, 2017.
18. Okubo T, Matsushita M, Ohara Y, Matsuo J, Oguri S, Fukumoto T, Hayasaka K, Akizawa K, Shibuya H, Shimizu C, Yamaguchi H: Ciliates promote the transfer of a plasmid encoding bla (NDM-5) from *Escherichia coli*, isolated from a hospital in Japan, to other human pathogens. *Int J Antimicrob Agents* 49:387-388, 2017.
19. Nishioka Y, Yamaguchi M, Kawakami A, Munehiro M, Masuda S, Tomaru U, Ishizu A: Type II natural killer T cells that recognize sterol carrier protein 2 are implicated in vascular inflammation in the rat model of systemic connective tissue diseases. *Am J Pathol* 187:176-186, 2017.
20. Okano T, Takeuchi S, Soma Y, Suzuki K, Tsukita S, Ishizu A, Suzuki K, Kawakami T: Presence of anti-phosphatidylserine-prothrombin complex antibodies and anti-moesin antibodies in patients with polyarteritis nodosa. *J Dermatol* 44:18-22, 2017.
21. Kiuchi S, Tomaru U, Ishizu A, Imagawa M, Kiuchi T, Iwasaki S, Suzuki A, Otsuka N, Deguchi T, Shimizu T, Marukawa K, Matsuno Y, Kasahara M: Expression of cathepsins V and S in thymic epithelial tumors. *Hum Pathol* 60:66-74, 2017.
22. Kaga S, Mikami T, Murayama M, Okada K, Masauzi N, Nakabachi M, Nishino H, Yokoyama S, Nishida M, Hayashi T, Murai D, Iwano H, Sakakibara M, Yamada S, Tsutsui H: A new method to estimate pulmonary vascular resistance using diastolic pulmonary artery-right ventricular pressure gradients derived from continuous-wave Doppler velocity measurements of pulmonary regurgitation. *Int J Cardiovasc Imaging* 33: 31-38, 2017.

V. 研究活動

23. Sugano K, Hashi K, Goto M, Nishi K, Maeda R, Kono K, Yamamoto M, Okada K, Kaga S, Miwa K, Mikami T, Masauzi N: Semi-automatic rating method for neutrophil alkaline phosphatase activity. *J Clin Lab Anal* 31:e22022, 2017
24. Sakurai T, Sakurai A, Chen Y, Vaisman BL, Amar MJA, Pryor M, Thacker SG, Zhang X, Wang X, Zhang Y, Zhu J, Yang ZH, Freeman LA, Remaley AT : Dietary α -cyclodextrin reduces atherosclerosis and modifies gut flora in apolipoprotein E- deficient mice. *Mol Nutr Food Res* (In press) .
25. Kono K, Hayata R, Murakami S, Yamamoto M, Kuroki M, Nanato K, Takahashi K, Miwa K, Tsutsumi Y, Okada K, Kaga S, Mikami T, Masauzi N: Quantitative distinction of the morphological characteristic of erythrocyte Precursor cells with texture analysis using gray level co-occurrence matrix. *J Clin Lab Anal* doi: 10.1002/jcla.22175. 2017. (Epub ahead of print)
26. Maita C, Matushita M, Okubo T, Matsuo J, Miyake M, Nagai H, Yamaguchi H: Draft Genome Sequences of *Legionella pneumophila* JR32 and Lp01 Laboratory Strains Domesticated in Japan. *Genome Announc* 4:e00791-16, 2016.
27. Matsuda Y, Hamayasu H, Seki A, Nonaka K, Wang T, Matsumoto T, Hamano Y, Sumikura H, Kumasaka T, Murayama S, Ishizu A, Shimizu A, Sugihara T, Arai T: Presence of citrullinated histone H3-positive neutrophils in microscopic polyangiitis from the early phase: An autopsy proven case. *Pathol Int* 66:466-471, 2016.
28. Yokoyama S, Iwano H, Yamada S, Takeda M, Kaga S, Nakabachi M, Nishino H, Ichikawa A, Abe A, Okada K, Murai D, Hayashi T, Nishida M, Shibuya H, Kahata K, Shimizu C, Mikami T, Tsutsui H: Long-term echocardiographic evaluation of valvular lesions in a patients with nonbacterial thrombotic endocarditis associated with advanced uterine cancer. *J Cardiol Cases* 14:82-86, 2016.
29. 佐々木淳, 森田曜江, 若山亜由美, 山田遥子, 青木葉香, 成田 唯, 政氏伸夫, 森下清文: 技術講座 細胞治療 step up 編 末梢血幹細胞関連業務への臨床検査技師のかかわり. *検査と技術* 45:124-129, 2017.
30. 高橋一人, 齋藤泰智, 小笠原愛美, 中河知里, 佐藤多嘉之, 森川知世, 秋田隆司, 政氏伸夫: ISO 15189 における事務作業の効率化を目的とした独自支援システムの開発. *医学検査* 66:117-124, 2017.

B. 著書

1. 石津明洋, 外丸詩野, 堀田哲也 (分担): 顕微鏡的多発血管炎の再燃に対するリツキシマブ投与後に, 呼吸不全で死亡した女性. *臨床病理検討会の進め方・活かし方 CPC の作法* (青笹克之, 菅野祐幸編). 17-24, 中山書店, 東京, 2016.
2. 加賀早苗: 僧帽弁狭窄症. *JAMT 技術教本シリーズ 超音波検査症例集* (日本臨床衛生検査技師会監修). 2-5, じほう, 東京, 2016.
3. 石津明洋, 平橋淳一 (分担): Part 2. ANCA 関連血管炎の基礎と臨床 III. 病態. *ANCA 関連血管炎診療ガイドライン 2017*. 66-70, 診断と治療社, 東京, 2017.
4. 石津明洋 (分担): III. 筋骨格系 7. 脈管 (血管・リンパ管). *病理診断に直結した組織学. 病理と臨床 臨時増刊号* 35: 54-60, 文光堂, 東京, 2017.

C. 総説, 解説, 論評

1. 石津明洋: ANCA 関連血管炎の病態メカニズム. *日本臨床免疫学会会誌* 39:491-496, 2016.

V. 研究活動

2. 益田紗季子, 石津明洋: 特集 /ANCA 関連血管炎—最近の話題— 好中球細胞外トラップ. アレルギーの臨床 36:419-423, 2016.
3. 加賀早苗, 岩野弘幸, 三神大世: カラー M モードドプラ法. 心エコー. 17:974-980, 2016.
4. 石津明洋: ノロウイルス胃腸炎を契機に発症した上腸間膜静脈血栓症. Modern Physician 37:96, 2017.
5. 楠 由宏, 益田紗季子, 外丸詩野, 石津明洋: 自己免疫疾患と NETosis. リウマチ科 57:437-442, 2017.

D. 報告書

1. 石津明洋, 川上民裕, 菅野祐幸, 高橋 啓, 土屋尚之, 宮崎龍彦, 池田栄二, 岩月啓氏, 小川弥生, 鬼丸満穂, 黒川真奈絵, 中沢大悟, 平橋淳一, 武曾恵理, 吉田雅治: 臨床病理分科会報告. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業 難治性血管炎に関する調査研究 平成 27 年度総括・分担研究報告書 56-57, 2016.
2. 石津明洋: ANCA 関連血管炎性中耳炎の中耳貯留液中の MPO-DNA 複合体. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業 難治性血管炎に関する調査研究 平成 27 年度総括・分担研究報告書 58-61, 2016.

E. その他

[受賞]

1. Kono K, Hayata R, Murakami S, Yamamoto M, Kuroki M, Nanato K, Takahashi K, Miwa K, Tsutsumi Y, Okada K, Kaga S, Masauzi N: Texture Analysis for Quantitative Distinction of Erythrocyte Precursor Cell Stages, International Symposium on Technological Innovations in Laboratory Hematology 2017, ISLH2017 Trainee Travel Award, 2017.3.
2. 古川貴之: 脂質アルデヒド類の新規分析法—グライコブロットティング法によるアプローチ: 合成標品からリポソームまで, 第 56 回日本臨床化学会年次学術集会, YIA 賞 (Young Investigator's award), 2016.12.
3. 古川貴之: リゾリン脂質の新たな可能性: リゾホスファチジルエタノールアミンの合成とフッ素アナログへの展開, 第 56 回日本臨床化学会年次学術集会, 若手シンポジスト選出, 2016.12.
4. 大久保寅彦: 北海道大学病院にて分離されたニューデリー・メタロβラクタマーゼ NDM-5 産生大腸菌の性状解析, 第 83 回日本細菌学会北海道支部学術総会, 優秀賞, 2016.9.

[学会研究会の主催]

[特許]

[報道]

V. 研究活動

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Shrestha R, Hui SP, Takeda S, Fuda H, Chiba H: Detection and Identification of Phosphatidylcholine Hydroperoxides in Plasma and Triglyceride-rich Lipoproteins using Orbitrap Mass Spectrometry. 68th AACC Annual Scientific Meeting & Clinical Lab Expo, Philadelphia, USA, 2016.8.
2. Shrestha R, Hui SP, Chiba H: Analysis of Phosphatidylcholine Hydroperoxides in Plasma and Triglyceride-rich Lipoproteins using Orbitrap-Mass Spectrometry. 14th Asia-Pacific Federation for Clinical Biochemistry and Laboratory Medicine Congress, Taipei, Taiwan, 2016.11.

[国内学会]

1. 石津明洋:(シンポジウム「血管炎の病理学」)「ANCA 関連血管炎の臨床病理学的特徴と好中球細胞外トラップ NETs」. 第 105 回日本病理学会総会, 仙台, 2016.5.
2. 石津明洋:(教育講演「血管炎の新分類と皮膚血管炎の位置づけ」)「血管炎新分類(CHCC2012)と皮膚血管炎の位置づけ—病理医の視線で」. 第 115 回日本皮膚科学会総会, 京都, 2016.6.
3. 布田博敏, 惠 淑萍, 千葉仁志:「マガキ由来抗酸化物質による機能性食品としての可能性」. 第 67 回日本電気泳動学会総会, 釧路, 2016.8.
4. 山口博之:「環境クラミジア Overview: 環境細菌それとも病原体?」. 第 34 回日本クラミジア研究会, 東京, 2016.9.
5. 布田博敏, 渡邊 貢, 惠 淑萍, 千葉仁志:「マガキ抽出物による抗肥満作用, インスリン抵抗性改善作用, 及び肝臓保護作用」. 第 23 回日本未病システム学会総会, 福岡, 2016.11.
6. 石津明洋:(シンポジウム「血管炎の診断と治療の未来像」)「皮膚科領域でみる血管炎の病理組織像からのアプローチ」. 第 46 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 東京, 2016.11.
7. 惠 淑萍:(教育講演)「質量分析による分子レベルの脂質研究」. 第 56 回日本臨床化学学会年次学術集会, 熊本, 2016.12.
8. 松尾淳司, 中村真二, 大久保寅彦, 山口博之:(S22 マイクロブトランスファー)「ヒトの移動に伴い院内に持ち込まれるアメーバ共生細菌とヒトへのリスク」. 第 90 回日本細菌学会総会, 仙台, 2017.3.
9. 大久保寅彦, 松下瑞江, 松尾淳司, 山口博之:(S22 マイクロブトランスファー)「北海道大学病院にて分離された NDM 産生大腸菌の性状解析と繊毛虫を介したによるプラスミド伝達の促進」. 第 90 回日本細菌学会総会, 仙台, 2017.3.

[地方会]

1. 加賀早苗, 岡田一範, 三神大世: 外来診療に役立つ心エコーハンズオンセミナー. GE healthcare 外来診療に役立つ心エコーハンズオンセミナー, 札幌, 2016.6.
2. 加賀早苗, 岡田一範, 三神大世: 外来診療に役立つ心エコーハンズオンセミナー. GE healthcare 外来診療に役立つ心エコーハンズオンセミナー, 札幌, 2016.11.
3. 岡田一範: 知っておきたい右心系評価の注意点. 札幌臨床検査技師会 2016 年度第 2 回臨床検査セミナー, 札幌, 2016.11.

- 山口博之: 招聘講演「原生動物と細菌との闘ぎ合いから紐解くパラダイム」札幌微生物学系合同セミナー, 札幌, 2016.12.

B) 一般演題

[国際学会]

- Kono K, Murakami S, Hayata R, Yamamoto M, Okada K, Kaga S, Mikami T, Masauzi N: Numerical definitions of morphological characteristics (MCs) of granulocyte precursor cells (GPCs) with texture analysis (TxA) using gray level co-occurrence matrix (GLCM) . International Symposium on Technological Innovations in Laboratory Hematology, Milano, Italy, 2016.5.
- Sugano K, Hashi K, Goto M, Nishi K, Maeda R, Kohno K, Yamamoto M, Okada K, Kaga S, Mikami T, Masauzi N: Semi-automatic rating and scoring method for neutrophil alkaline phosphatase (NAP) activity and index. International Symposium on Technological Innovations in Laboratory Hematology, Milano, Italy, 2016.5.
- Hayasaka T, Sugawara M, Kudo M, Chiba H, Hui SP: Imaging Mass Spectrometry Revealed Distributions of Anthocyanin Species in Haskap. 64th ASMS Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics, San Antonio, USA, 2016.6.
- Matsushita S, Masaki N, Sato K, Hayasaka T, Sugiyama E, Hui SP, Chiba H, Mase N, Setou M: Selective improvement of peptides imaging on tissue by supercritical fluid wash of lipids for matrix-assisted laser sorption/ionization mass spectrometry. 64th Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics, San Antonio, USA, 2016.6.
- Matsuo J, Fukumoto T, Okubo T, Nakamura S, Akizawa K, Shibuya H, Shimizu C, Yamaguchi H: Amoebal endosymbiont Protochlamydia isolated from a hospital can induce IL-8 in human immortal HEp-2 cells. ASM Microbe 2016, Boston, USA, 2016.6.
- Maita C, Yamazaki T, Matsuo J, Nakamura S, Okubo T, Nagai H, Yamaguchi H: Impact of amoebal endosymbiont Neochlamydia on host defense against harmful Legionella infection and its defense mechanism. ASM Microbe 2016, Boston, USA, 2016.6.
- Horioka K, Masauzi N: Correlation between the strength of agglutination and plasma IgM and IgG levels in ABO reverse grouping. The 32nd World Congress of Biomedical Laboratory Science, Kobe, Japan, 2016.9.
- Kaga S, Okada K, Masauzi N, Nakabachi M, Nishino H, Yokoyama S, Nishida M, Mikami T: Novel echocardiographic method to estimate pulmonary vascular resistance based on measurements of pulmonary regurgitant velocities. The 32nd World Congress of Biomedical Laboratory Science, Kobe, Japan, 2016.9.
- Okada K, Abiko R, Kaga S, Nakabachi M, Nishino H, Yokoyama S, Nishida M, Mikami T: Novel echocardiographic method to assess left ventricular chamber stiffness and end-diastolic pressure: usefulness of time-velocity integral measurements of pulmonary venous and transmitral flows. The 32nd World Congress of Biomedical Laboratory Science, Kobe, Japan, 2016.9.

V. 研究活動

10. Ma YS, Yoshida S, Kobayashi Y, Kawanishi N, Furukawa T, Fuda H, Hui SP, Chiba H: Food-derived polyphenols enhance muscle mitochondrial function and lipid utilization. International Symposium on Redox Biology and Mitochondrial Medicine and 2016 Cross-Strait Free Radical Symposium, Taipei, Taiwan, 2016.10.
11. Yamada S, Ichikawa A, Iwano H, Okada K, Yokoyama S, Nishino H, Nakabachi M, Abe A, Hayashi T, Murai D, Kaga S, Mikami T, Tsutsui H: Single beat determination of measurements of echocardiographic left ventricular diastolic parameters in patients with atrial fibrillation. AHA Scientific sessions 2016, New Orleans, LA, USA, 2016.11.
12. Hui SP, Okabe H, Shimizu C, Yamamoto M, Kikuchi R, Minami A, Imai H, Chen YF, Chiba H: Weaker seasonal variation in serum 25-hydroxyvitamin D levels in Japanese females in association with growing interests to skin whitening. 14th Asia-Pacific Federation for Clinical Biochemistry and Laboratory Medicine Congress, Taipei, Taiwan, 2016.11.
13. Kawakami T, Okano T, Takeuchi S, Soma Y, Suzuki K, Tsukita S, Ishizu A, Suzuki K: Relationship of anti-phosphatidylserine-prothrombin complex antibodies and anti-moesin antibodies in patients with polyarteritis nodosa. The 18th International Vasculitis and ANCA Workshop, Tokyo, 2017.3.
14. Nishioka Y, Yamaguchi M, Kawakami A, Munehiro M, Masuda S, Tomaru U, Ishizu A: Rat type II NKT cell clone pathogenic for small vessel vasculitis recognizes sterol carrier protein 2. The 18th International Vasculitis and ANCA Workshop, Tokyo, 2017.3.
15. Ogawa Y, Joh K, Muso E, Kondo N, Takagi Y, Ishizu A. Pathological analysis on the role of small vessel vasculitis and tubule-interstitial lesions in ANCA-associated nephritis. The 18th International Vasculitis and ANCA Workshop, Tokyo, 2017.3.
16. Kawakami T, Okano T, Takeuchi S, Soma Y, Ito F, Ishizu A, Arimura Y, Suzuki K: Moesin mRNA level in formalin-fixed paraffin-embedded skin biopsy specimen of patients with polyarteritis nodosa on real time RT-PCR. The 18th International Vasculitis and ANCA Workshop, Tokyo, 2017.3.
17. Ogawa Y, Kondo N, Takagi Y, Ishizu A: Pathological analysis of anti-GBM glomerulonephritis. The 18th International Vasculitis and ANCA Workshop, Tokyo, 2017.3.
18. Iwasaki S, Tsuji T, Ishii Y, Yanai M, Akimoto M, Kataoka H, Ishizu A, Fukazawa Y: An autopsy case of Sjögren syndrome presented renal and CNS involvement of suspected cryoglobulinemic vasculitis. The 18th International Vasculitis and ANCA Workshop, Tokyo, 2017.3.
19. Yamada M, Kawakami T, Takashima K, Nishioka Y, Nishibata Y, Masuda S, Yoshida S, Tomaru U, Ishizu A: Establishment of anti-rat phosphatidylserine/prothrombin monoclonal antibodies and a thrombotic rat model induced by intravenous injection of the antibody. The 18th International Vasculitis and ANCA Workshop, Tokyo, 2017.3.
20. Kusunoki Y, Nakazawa D, Shida H, Hattanda F, Miyoshi A, Masuda S, Nishio S, Tomaru U, Atsumi T, Ishizu A: The effect of peptidylarginine deiminase inhibitor on NET formation and MPO-ANCA production in mouse model. The 18th International Vasculitis and ANCA Workshop, Tokyo, 2017.3.

V. 研究活動

21. Sada KE, Harigai M, Usui J, Tsuboi N, Dobashi H, Ishizu A, Sugiyama H, Yamagata K, Homma S, Okada Y, Arimura Y: Usefulness of concomitant cyclophosphamide for treatment of generalized or severe patients with microscopic polyangiitis or granulomatosis with polyangiitis in Japan. The 18th International Vasculitis and ANCA Workshop, Tokyo, 2017.3.
22. Furukawa T: Chemicalbiology on phospholipids. Joint symposium of Hokkaido university and Jilin university, Changchun, China, 2017.3.
23. Furukawa T: From chemistry to clinical chemistry. Joint symposium of Hokkaido university and Northeast normal university, Changchun, China, 2017.3.

[国内学会]

1. 大久保寅彦, 松尾淳司, 山口博之: 流通生鮮鶏肉表面上における食中毒菌と原生動物のせめぎ合いの検証. 第90回日本感染症学会学術講演会, 仙台, 2016.4.
2. 小栗 聡, 松尾淳司, 大久保寅彦, 秋沢宏次, 渋谷 斉, 清水 力, 花輪智子, 神谷 茂, 山口博之: 繊毛虫に捕食された大腸菌は食胞内でクオラムセンシング分子 AI-2 を誘発する: 原生動物と病原細菌の相互作用モデル. 第90回日本感染症学会学術講演会, 仙台, 2016.4.
3. 志田玄貴, 中沢大悟, 八反田文彦, 楠 由宏, 益田紗季子, 外丸詩野, 川上民裕, 渥美達也, 石津明洋: 抗ラクトフェリン抗体は好酸球性多発血管炎性肉芽腫症において好中球細胞外トラップの形成を促進し, 疾患活動性に関与する. 第60回日本リウマチ学会総会・学術集会, 横浜, 2016.4. 21-24
4. 楠 由宏, 中沢大悟, 志田玄貴, 八反田文彦, 益田紗季子, 外丸詩野, 西尾妙織, 渥美達也, 石津明洋: Peptidylarginine deiminase 4 阻害薬は好中球細胞外トラップの形成阻害を介して MPO-ANCA 産生を抑制する. 第60回日本リウマチ学会総会・学術集会, 横浜, 2016.4.
5. 川上民裕, 石津明洋: 皮膚動脈炎から結節性多発動脈炎への移行と血中抗モエシン抗体の関連. 第60回日本リウマチ学会総会・学術集会, 横浜, 2016.4.
6. 佐田憲映, 針谷正祥, 白井丈一, 山縣邦弘, 本間 栄, 土橋浩章, 石津明洋, 杉山 斉, 岡田保典, 有村義宏, 榎野博史: 前向きコホート研究 RemIT-JAV-RPGN における抗好中球細胞質抗体 (ANCA) 関連血管炎の寛解に関する検討. 第60回日本リウマチ学会総会・学術集会, 横浜, 2016.4.
7. 加賀早苗, 三神大世, 岡田一範, 村山迪史, 樋岡拓馬, 阿部 歩, 市川絢子, 中鉢雅大, 西野久雄, 横山しのぶ, 西田 睦, 村井大輔, 林 大知, 岩野弘幸, 榊原 守, 山田 聡, 筒井裕之: 肺動脈弁逆流速度計測に基づく新しい肺血管抵抗の推定法. 第27回日本心エコー図学会学術集会, 大阪, 2016.4.
8. 岡田一範, 三神大世, 安彦里佳, 加賀早苗, 阿部 歩, 中鉢雅大, 西野久雄, 横山しのぶ, 市川絢子, 西田 睦, 村井大輔, 林 大知, 岩野弘幸, 榊原 守, 山田 聡, 筒井裕之: 肺静脈血流と経僧帽弁血流の時間速度積分値計測に基づく新しい左室硬さ指標の有用性. 第27回日本心エコー図学会学術集会, 大阪, 2016.4.
9. 西野久雄, 岩野弘幸, 山田 聡, 林 大知, 中鉢雅大, 横山しのぶ, 市川絢子, 村井大輔, 岡田一範, 加賀早苗, 西田 睦, 渋谷 斉, 加畑 馨, 三神大世, 清水 力, 筒井裕之: 肺動脈弁拡張期開放の意義を圧データとの対比に基づいて検討し得た心不全の3例. 第27回日本心エコー図学会学術集会, 大阪, 2016.4.

V. 研究活動

10. 市川絢子, 山田 聡, 岡田一範, 岩野弘幸, 横山しのぶ, 西野久雄, 中鉢雅大, 阿部 歩, 林 大知, 村井大輔, 加賀早苗, 西田 睦, 澁谷 斉, 加畑 馨, 清水 力, 三神大世, 筒井裕之: 心房細動患者における左室拡張機能障害: 時短時代に代表的心拍をいかに選ぶか? 第 27 回日本心エコー図学会学術集会, 大阪, 2016.4.
11. 喜田真由子, 三神大世, 加賀早苗, 岡田一範, 村山迪史, 横山しのぶ, 西野久雄, 中鉢雅大, 林 大知, 村井大輔, 岩野弘幸, 榊原 守, 山田 聡, 辻野一三, 筒井裕之: 心エコー法による収縮期と急速充満期の肺動脈圧推定と左房容積計測は肺高血圧症の診断と病型分類に有用である. 第 27 回日本心エコー図学会学術集会, 大阪, 2016.4.
12. 村山迪史, 三神大世, 加賀早苗, 岡田一範, 樋岡拓馬, 中鉢雅大, 西野久雄, 横山しのぶ, 市川絢子, 阿部 歩, 西田 睦, 村井大輔, 林 大知, 岩野弘幸, 榊原 守, 山田 聡, 筒井裕之: 肺動脈拡張期圧の推定における心房収縮直前時相での肺動脈弁逆流速度計測の有用性. 第 27 回日本心エコー図学会学術集会, 大阪, 2016.4.
13. 西岡佑介, 山口まどか, 川上 愛, 宗廣真矢, 山田真衣, 益田紗季子, 外丸詩野, 石津明洋: 自己血管内皮細胞反応性小型血管炎惹起性 type II NKT 細胞が認識する分子の同定. 第 105 回日本病理学会総会, 仙台, 2016.5.
14. 小川弥生, 高木芳武, 石津明洋, 近藤信夫: 抗糸球体基底膜抗体腎炎の病理組織学的検討. 第 105 回日本病理学会総会, 仙台, 2016.5.
15. 岡田一範, 山田 聡, 岩野弘幸, 村井大輔, 西野久雄, 中鉢雅大, 林 大知, 加賀早苗, 三神大世, 筒井裕之: 左室肥大における心筋機能と心腔機能の関連. 日本超音波医学会第 89 回学術集会, 京都, 2016.5.
16. 米田球士, 三神大世, 加賀早苗, 岡田一範, 政氏伸夫, 横山しのぶ, 西田 睦, 岩野弘幸, 山田 聡, 筒井裕之: 心不全患者における低心拍出量と静脈圧上昇の肝・腎障害との関係. 日本超音波医学会第 89 回学術集会, 京都, 2016.5.
17. 山田 聡, 岡田一範, 西野久雄, 岩野弘幸, 加賀早苗, 横山しのぶ, 中鉢雅大, 村井大輔, 林 大知, 三神大世, 筒井裕之: 高血圧性心疾患, 肥大型心筋症における左室壁動態, 心腔機能と合併症. 心筋会 + 血流会 2016 in Sapporo, 札幌, 2016.7.
18. 黒木麻衣子, 河野圭吾, 山本麻衣, 岡田一範, 加賀早苗, 三輪佳子, 三神大世, 政氏伸夫: 凝固検査用検体の遠心条件と保管に関する検討. 第 17 回日本検査血液学会学術集会, 福岡, 2016.8.
19. 河野圭伍, 村上 悟, 早田瑠架, 黒木麻衣子, 山本麻衣, 岡田一範, 加賀早苗, 三神大世, 政氏伸夫: テクスチャ識別指標を用いた骨髓球系幼若細胞形態の定量的定義の試み. 第 17 回日本検査血液学会学術集会, 福岡, 2016.8.
20. 山本麻衣, 黒木麻衣子, 河野圭伍, 岡田一範, 加賀早苗, 三輪佳子, 三神大世, 政氏伸夫: 凝固検査用検体の遠心条件と保管に関する検討 Fib, Ca 再加時間. 第 17 回日本検査血液学会学術集会, 福岡, 2016.8.
21. 櫻井俊宏, 武田晴治, Suchin Trirongjitmoah, 清水孝一, 恵 淑萍, 千葉仁志: 血中リポタンパク質の粒子径及び硬さの評価系開発. 第 11 回遺伝子栄養学研究会, 北海道北広島市, 2016.9.
22. 布田博敏, 渡邊 貢, 岡部浩昭, 上甲紗愛, 三浦佑介, 恵 淑萍, 伊 敏, 濱岡直裕, 三木恵美子, 千葉仁志: NASH モデルマウスにおけるマガキ抽出物の抗肥満作用及びインスリン抵抗性改善作用. 第 11 回遺伝子栄養学研究会, 北広島, 2016.9.

V. 研究活動

23. 惠 淑萍, 八木亜希子, 宮永 賢, Shrestha R, 武田晴治, 神谷博文, 千葉仁志: LC/MS を用いたヒト胚培養後の培養液における脂肪酸分析. 第 41 回日本医用マススペクトル学会年会, 名古屋, 2016.9.
24. 古川貴之, 惠 淑萍, 宮永 賢, 渡邊千夏, 布田博敏, 千葉仁志: スズを用いたリゾホスファチジルエタノールアミンの短工程合成法の開発とタンデム質量分析法における脱水シグナルに基づく位置異性体の簡便判別法. 日本分析化学会第 65 年会, 札幌, 2016.9.
25. 山田 聡, 岡田一範, 筒井裕之: 肥大型心筋症の心エコー法による評価: 心筋線維化や合併症との関連を含めて. 第 20 回日本心不全学会学術集会, 札幌, 2016.10.
26. 布田博敏, 渡邊 貢, 岡部浩昭, 上甲紗愛, 三浦佑介, 惠 淑萍, 伊 敏, 濱岡直裕, 三木恵美子, 千葉仁志: NASH モデルマウスによるマガキ抽出物の肝臓保護作用. 第 23 回日本未病システム学会総会, 福岡, 2016.11.
27. 岡野達郎, 竹内そら, 相馬良直, 鈴木浩也, 月田早智子, 石津明洋, 鈴木和男, 川上民裕: 皮膚動脈炎(皮膚型結節性多発動脈炎) 難治症例における血中マーカーの検討. 第 46 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 東京, 2016.11.
28. Takeda S, Subagyo A, Hui SP, Fuda H, Shrestha R, Sueoka K, Chiba H: Physical properties of low-density lipoprotein after oxidation or enzyme treatment. 第 54 回日本生物物理学会年会, つくば市, 2016.11.
29. 古川貴之, 惠 淑萍, 比能 洋, 西村紳一郎, 千葉仁志: 脂質アルデヒド類の新規分析法—グライコプロッティング法によるアプローチ: 合成標品からリポソームまで. 第 56 回日本臨床化学会年次学術集会, 熊本, 2016.12.
30. 高橋遼地, 古川貴之, 三浦佑介, 惠 淑萍, 千葉仁志: 内部標準物質及び標品として用いるカルジオリピンの合成研究と定量分析へ向けた基礎的検討. 第 56 回日本臨床化学会年次学術集会, 熊本, 2016.12.
31. 小林 悠, 馬 逸興, 中島進吾, 惠 淑萍, 千葉仁志: 脂肪滴と酸化ストレスが骨格筋に及ぼす影響に関する研究. 第 56 回日本臨床化学会年次学術集会, 熊本, 2016.12.
32. 古川貴之, 惠 淑萍, 山本祐輔, 樫田紘之, 小路明日香, 布田博敏, 千葉仁志: リゾリン脂質の新たな可能性: リゾホスファチジルエタノールアミンの合成とフッ素アナログへの展開. 第 56 回日本臨床化学会年次学術集会, 熊本, 2016.12.
33. Nishioka Y, Yamaguchi M, Kawakami A, Sonoda T, Yamada M, Masuda S, Tomaru U, Ishizu A.: Type II NKT cells that recognize sterol carrier protein 2 are implicated in vascular inflammation in the rat model of systemic connective tissue diseases. 第 45 回日本免疫学会総会・学術集会, 沖縄, 2016.12.
34. Yamada M, Takashima K, Kawakami T, Nishioka Y, Nishibata Y, Masuda S, Yoshida S, Tomaru U, Ishizu A.: Establishment of a rat model of thrombosis using the anti-phosphatidylserine/prothrombin monoclonal antibody. 第 45 回日本免疫学会総会・学術集会, 沖縄, 2016.12.
35. 布田博敏, 渡邊 貢, 岡部浩昭, 上甲紗愛, 三浦佑介, 惠 淑萍, 伊 敏, 濱岡直裕, 三木恵美子, 千葉仁志: マガキ抽出物は NASH モデルマウスの肝臓において脂肪肝, 炎症, アポトーシス, 線維化を抑制する. 日本農芸化学会 2017 年度大会, 京都, 2017.3.
36. 瀧 圭介, 松尾淳司, 大久保寅彦, 山口博之: 生殖器スワブを用いた性器クラミジアを上向性へ感染拡大させる要因探索: 炎症の程度とクラミジアの感染頻度. 第 90 回日本細菌学会総会, 仙台, 2017.3.

V. 研究活動

37. 米田千夏, 松尾淳司, 大久保寅彦, 中村眞二, 永井宏樹, 山口博之: アメーバ共生細菌 *Neochlamydia S13* はアクチンの安定化を介して宿主アメーバの貪食能を制限している. 第90回日本細菌学会総会, 仙台, 2017.3.
38. 山川和也, 松尾淳司, 大久保寅彦, 中村眞二, 山口博之: 唐辛子の辛味成分 Capsaicin による *Chlamydia trachomatis* の HeLa 細胞内増殖抑制効果とその機序について. 第90回日本細菌学会総会, 仙台, 2017.3.
39. 山口博之, 山崎すみれ, 松尾淳司, 大久保寅彦: 巨大ウイルスの存在がクラミジアの適応進化に与えたインパクト. 第90回日本細菌学会総会, 仙台, 2017.3.
40. 酒井昂平, 松尾淳司, 山川和也, 大久保寅彦, 中村眞二, 山口博之: 低酸素環境における *Chlamydia trachomatis* 感染細胞の遺伝子発現解析. 第90回日本細菌学会総会, 仙台, 2017.3.
41. 松下瑞江, 松尾淳司, 大久保寅彦, 山口博之: 共生細菌に依存したアメーバによるヒト病原細菌の運搬現象について. 第90回日本細菌学会総会, 仙台, 2017.3.

[地方会]

1. 黒木麻衣子, 山本麻衣, 河野圭吾, 岡田一範, 加賀早苗, 三神大世, 政氏伸夫: 凝固検査用検体の保管条件による検査への影響. 第14回日本検査血液学会北海道支部学術集会総会, 札幌, 2016.6.
2. 山本麻衣, 河野圭吾, 黒木麻衣子, 岡田一範, 加賀早苗, 三神大世, 政氏伸夫: 画像処理(テクスチャ解析)による赤芽球系前駆細胞形態の定量的意義, 第14回日本検査血液学会北海道支部学術集会総会, 札幌, 2016.6.
3. 櫻井俊宏: 研究留学を振り返って. 保健科学セミナー, 札幌, 2016.6.
4. 松尾淳司, 中村眞二, 大久保寅彦, 山口博之: *Chlamydia trachomatis* 低酸素培養モデルの構築. 第83回日本細菌学会北海道支部学術総会, 札幌, 2016.9.
5. 大久保寅彦, 松尾淳司, 山口博之: 北海道大学病院にて分離されたニューデリー・メタロベータラクタマーゼ NDM-5 産生大腸菌の性状解析. 第83回日本細菌学会北海道支部学術総会, 札幌, 2016.9.
6. 瀧 圭介, 大久保寅彦, 松尾淳司, 山口博之: メタゲノム解析による鶏肉表面細菌叢の経時的变化の検出. 第83回日本細菌学会北海道支部学術総会, 札幌, 2016.9.
7. 米田千夏, 松尾淳司, 大久保寅彦, 中村眞二, 永井宏樹, 山口博之: アメーバに共生する *Neochlamydia S13* による宿主アメーバのアクチンの修飾について. 第83回日本細菌学会北海道支部学術総会, 札幌, 2016.9.
8. 山川和也, 松尾淳司, 大久保寅彦, 中村眞二, 山口博之: 唐辛子の辛味成分 Capsaicin による *Chlamydia trachomatis* の細胞内増殖抑制効果について. 第83回日本細菌学会北海道支部学術総会, 札幌, 2016.9.
9. 山崎すみれ, 松尾淳司, 大久保寅彦, 山口博之: 巨大ウイルス Mimivirus の蛋白間相互作用に關与するアンキリンリピートをコードする遺伝子とクラミジアの進化. 第83回日本細菌学会北海道支部学術総会, 札幌, 2016.9.
10. 酒井昂平, 大久保寅彦, 松尾淳司, 山口博之: 札幌地下歩行空間での空气中浮遊細菌の調査. 第83回日本細菌学会北海道支部学術総会, 札幌, 2016.9.
11. 松下瑞江, 米田千夏, 松尾淳司, 大久保寅彦, 三宅正紀, 永井宏樹, 山口博之: DNA マイクロアレイを用いたトランスクリプトーム解析による *Neochlamydia S13* 共生アメーバのレジオネラ撃退に關わる遺伝子の探索. 第83回日本細菌学会北海道支部学術総会, 札幌, 2016.9.

V. 研究活動

12. 山崎すみれ, 松尾淳司, 大久保寅彦, 中村眞二, 山口博之: 巨大ウイルス Mimivirus はアンキリンリピートユニット遺伝子の水平伝播を介してクラミジアの進化に影響を与えた. 第34回日本クラミジア研究会, 東京, 2016.9.
13. 米田千夏, 松下瑞江, 松尾淳司, 大久保寅彦, 中村眞二, 永井広樹, 山口博之: DNA マイクロアレイを用いたトランスクリプトーム解析による原始クラミジア Neochlamydia 共生アメーバのレジオネラ撃退現象の探索: Neochlamydia はレジオネラの T4ASS を感知する. 第34回日本クラミジア研究会, 東京, 2016.9.
14. 工藤悠輔, 三神大世, 西田 睦, 表原里実, 岩井孝仁, 高杉莉佳, 岡田一範, 澁谷 斉, 加畑 馨, 清水 力: ドプラ法による糖尿病患者における腎静脈系の血流異常の検討. 日本超音波医学会第46回北海道地方会学術集会, 札幌, 2016.10.
15. 市川絢子, 山田 聡, 岡田一範, 岩野弘幸, 横山しのぶ, 西野久雄, 澁谷 斉, 清水 力, 三神大世, 筒井裕之: 心房細動時の左室拡張機能評価のための効率的な代表心拍選択法の検討. 日本超音波医学会第46回北海道地方会学術集会, 札幌, 2016.10.
16. 鳴海菜月, 三神大世, 岡田一範, 加賀早苗, 阿部 歩, 中鉢雅大, 西野久雄, 西田 睦, 岩野弘幸, 山田 聡: 健常人の長軸方向と円周方向の左房心筋動態の差異: 3次元スペクトラッキング法による検討. 日本超音波医学会第46回北海道地方会学術集会, 札幌, 2016.10.
17. 田中純那, 加賀早苗, 村山迪史, 岡田一範, 市川絢子, 横山しのぶ, 岩野弘幸, 榊原 守, 山田 聡, 三神大世: 心房細動患者における拡張早期肺動脈弁逆流速度計測に基づく平均肺動脈圧の推定: 先々行および先行 RR 間隔が近似した1心拍における計測の有用性. 日本超音波医学会第46回北海道地方会学術集会, 札幌, 2016.10.
18. 小川帆貴, 加賀早苗, 村山迪史, 岡田一範, 市川絢子, 横山しのぶ, 岩野弘幸, 榊原 守, 山田 聡, 三神大世: 心房細動患者における拡張早期肺動脈弁逆流速度計測に基づく肺動脈楔入圧推定: 最長 RR 間隔の1心拍における計測の有用性. 日本超音波医学会第46回北海道地方会学術集会, 札幌, 2016.10.
19. 平田有沙, 加賀早苗, 岡田一範, 黒壁大貴, 村山迪史, 喜田真由子, 米田球士, 横山しのぶ, 山田 聡, 三神大世: 心エコーによる下大静脈計測に基づく右房圧推定の問題点: 健常者での検討. 日本超音波医学会第46回北海道地方会学術集会, 札幌, 2016.10.
20. 黒壁大貴, 加賀早苗, 三神大世, 岡田一範, 喜田真由子, 政氏伸夫, 榊原 守, 山田 聡, 辻野一三, 筒井裕之: 幅広い対象に適用可能な肺血管抵抗の非侵襲的推定法. 日本超音波医学会第46回北海道地方会学術集会, 札幌, 2016.10.
21. 村山迪史, 三神大世, 加賀早苗, 岡田一範, 中鉢雅大, 西野久雄, 横山しのぶ, 西田 睦, 岩野弘幸, 山田 聡: 心房収縮期における肺動脈弁逆流流速波形の窪みと三尖弁輪移動距離の計測に基づく右室拡張末期圧の推定. 日本超音波医学会第46回北海道地方会学術集会, 札幌, 2016.10.
22. 前田祥子, 加賀早苗, 三神大世, 岡田一範, 喜田真由子, 黒壁大貴, 政氏伸夫, 山田 聡, 辻野一三, 筒井裕之: 両心室心筋ストレイン計測に基づく前毛細管性肺高血圧症と後毛細管性肺高血圧症との鑑別診断. 日本超音波医学会第46回北海道地方会学術集会, 札幌, 2016.10.
23. 石津明洋: ウェブ版血管炎病理アトラスの作成について. 第21回血管病理研究会, 東京, 2016.10.
24. 川上民裕, 山田真衣, 高島滉平, 西岡佑介, 西端友香, 益田紗季子, 吉田 繁, 外丸詩野, 石津明洋: 抗 PSPT 抗体は, 正常ラットに血栓を発症させる. 第21回血管病理研究会シンポジウム「血管炎の実験動物モデル」, 東京, 2016.10.

V. 研究活動

25. 古川貴之, 惠 淑萍, 比能 洋, 西村紳一郎, 千葉仁志: グライコブロッティング法に基づく脂質アルデヒドの新規解析法の開発. 第 50 回日本臨床検査医学会北海道支部例会・第 26 回日本臨床化学会北海道支部例会, 旭川, 2016.11.
26. 楠 由宏, 中沢大悟, 志田玄貴, 八反田文彦, 三次有奈, 益田紗季子, 西尾妙織, 外丸詩野, 渥美達也, 石津明洋: Peptidylarginine deiminase (PAD) 阻害薬は生体内における好中球細胞外トラップの形成ならびに MPO-ANCA 産生を抑制する. 第 22 回 MPO 研究会, 京都, 2016.12.
27. 益田紗季子, 西端友香, 松尾淳司, 外丸詩野, 石津明洋: フローサイトメトリーによる定量的好中球細胞外トラップ測定法. 第 22 回 MPO 研究会, 京都, 2016.12.
28. 川上民裕, 岡野達郎, 竹内そら, 相馬良直, 伊藤吹夕, 石津明洋, 有村義宏, 鈴木和男: 結節性多発動脈炎の皮膚生検標本ではモエシン mRNA レベルが亢進. 第 22 回 MPO 研究会, 京都, 2016.12.

■業績

機能回復学分野

A. 学術論文

1. Koshino Y, Ishida T, Yamanaka M, Ezawa Y, Okunuki T, Kobayashi T, Samukwa M, Saito H, Tohyama H: Kinematics and muscle activities of the lower limb during a side-cutting task in subjects with chronic ankle instability. *Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc* 24:1071-1080, 2016.
2. Chiba T, Yamanaka M, Samukawa M, Saito H, Sabashi K, Tohyama H: The relationship between the load on the knee joint during walking and the biomechanical characteristics of single-leg standing. *J Phys Ther Sci* 28:2199-2203, 2016.
3. Miyagishima S, Asaka T, Kamatsuka K, Kozuka N, Kobayashi M, Igarashi R, Hori T, Yoto Y, Tsutsumi H: Characteristics of antigravity spontaneous movements in preterm infants up to 3 months of corrected age. *Infant Behav Dev* 44:227-239, 2016.
4. Ito K, Tomata Y, Kogure M, Sugawara Y, Watanabe T, Asaka T, Tsuji I: Housing type after the Great East Japan Earthquake and loss of motor function in elderly victims: A prospective observational study. *BMJ Open* 6 DOI: 10.1136/bmjopen-2016-012760, 2016.
5. Tadano S, Takeda R, Sasaki K, Fujisawa T, Tohyama H: Gait characterization for osteoarthritis patients using wearable gait sensors (H-Gait systems) . *J Biomech* 49:684-90, 2016.
6. Wang Y, Watanabe K, Asaka T, Aging effect on muscle synergies in stepping forth during a forward perturbation. *Eur J Appl Physiol* 117:201-211, 2017.
7. Takahashi K, Maejima H, Ikuta G, Mani H, Asaka T: Exercise combined with low-level GABAA receptor inhibition up-regulates the expression of neurotrophins in the motor cortex. *Neurosci Letters* 636:101-107, 2017.
8. Koshino Y, Ishida T, Yamanaka M, Samukwa M, Kobayashi T, Tohyama H: Toe-in landing increases the ankle inversion angle and moment during single leg landing. *J Sports Rehabil*, in press.
9. Okimoto A, Toriyama M, Deie M, Maejima H: Decline of hip joint movement relates to over-estimation of maximum forward reach in elderly persons. *J Mot Behav*, in press.
10. Shimoda T, Suzuki T, Takahashi N, Tsutsumi K, Samukawa M, Yoshimachi S, Goto T, Enomoto H, Kise N, Ogasawara K, Yoshimura S: Nutritional status and body composition of independently living older adults in a snowy region of Japan. *Gerontol Geriatr Med*, in press.
11. 生田亮平, 石田知也, 山中正紀, 谷口翔平, 上野 亮, 越野裕太, 寒川美奈, 遠山晴一: Drop vertical jump におけるハムストリングスの着地前筋活動と着地中の膝関節外反角度および外反モーメントとの関係. *日本臨床スポーツ医学会誌* 24:71-77, 2016.
12. 萬井太規, 長谷川直哉, 武田賢太, 伊吹愛梨, 佐久間萌, 石川啓太, 前島 洋, 浅賀忠義: クロスステップ反復練習による片脚立位動作時の姿勢安定性への効果, *理学療法科学* 31:601-607, 2016.
13. 憲 克彦, 金子明義, 細川吉博, 池田 聡, 遠山晴一, 生駒一憲: 回復期リハビリテーション病棟に入院し, 退院後外来フォローが可能であった骨粗鬆症性椎体骨折連鎖の検討. *J Clin Rehabil* 25:1125-1128, 2016.

V. 研究活動

14. 寒川美奈, 石塚利光, 岡橋優子: 骨盤底筋群に対する感覚フィードバックが骨盤底挙上量に及ぼす影響. 日本女性骨盤底学会誌 13: 163-166, 2016.
15. 笠原敏史, 湊恵里子, 齊藤展士, 秋山 新: 異なる足関節肢位による立位バランス制御への影響. 理学療法科学 31: 257-260, 2016.
16. 奥貫拓実, 越野裕太, 山中正紀, 江沢侑也, 寒川美奈, 遠山晴一: 足部 multi-segment model を用いた歩行時の足部内側縦アーチの動的変化と足部 kinematics の相関性の検討. 日本臨床スポーツ医学会誌, 印刷中.

B. 著書

1. Tohyama H, Yasuda K: Growth factors and other new methods for graft-healing enhancement. The anterior cruciate ligament: Reconstruction and Basic Science, 2e, Chadwick Prodromos edited, Elsevier, ISBN: 9780323389624
2. Samukawa M, Tohyama H, Yasuda K: Future challenges of anterior cruciate ligament reconstruction biological modulation using a growth factor application for enhancement of graft healing. ACL injury and its treatment (edited by Ochi M, Shino K, Yasuda K, Kurosaka M. 523-536, Springer, Tokyo, 2016.
3. 浅賀忠義: 環境の調整. 運動療法ガイド (内山靖・奈良勲編). 870-877, 文光堂, 東京, 2017.

C. 総説, 解説, 論評

1. 前島 洋: 運動と認知機能—運動による神経栄養因子の発現とシナプス修飾—. 理学療法学 35: 35-37, 2016.
2. 上野 亮, 山中正紀, 遠山晴一: 膝前十字靭帯損傷の受傷機序に関するバイオメカニクス. 関節外科 36:212-219, 2017.

D. 報告書

E. その他

[受賞]

1. 奥貫拓実, 越野裕太, 遠山晴一, 堤 香織, 生田 亮平, 佐橋健人, 横山美翔, 江沢侑也, 寒川美奈, 齊藤展士, 山中正紀: Medial tibial stress syndrome 症例における走行時の後・前足部 kinematics および内側縦アーチの動態の検討. 第3回日本スポーツ理学療法学会学術集会奨励賞. 2016.5.
2. 田中晨太郎, 長谷川直哉, 武田賢太, 呉瑕, 浅賀忠義: 予測的な反復後方ステップ練習による非予測的外乱時の即時効果. 日本健康行動科学会第15回学術大会長優秀発表賞. 2016.9.
3. 呉 瑕, 武田賢太, 長谷川直哉, 田中晨太郎, 浅賀忠義: 足圧中心と体重心の同時視覚フィードバック練習による静的立位バランスの効果. 日本健康行動科学会第15回学術大会長優秀発表賞. 2016.9.

[学会研究会の主催]

[特許]

[報道]

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

[国内学会]

1. 前島 洋：運動と認知機能. 第 51 回日本理学療法学会学術大会・日本基礎理学療法学会学術集会. 札幌, 2016.5.
2. 萬井太規：バランスボード上における姿勢制御の順応効果について. 第 51 回日本理学療法学会学術大会, 札幌, 2016.5.
3. 寒川美奈: ストレッチングに関する科学的レビュー. 第 4 回日本アスレティックトレーニング学会, 東京, 2016.7.
4. 遠山晴一: 膝複合靭帯損傷の治療 2016 膝複合靭帯損傷の受傷メカニズム. 第 8 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 福岡, 2016.7.
5. 中嶋耕平, 土肥美智子, 中山修一, 真鍋知宏, 鈴木 岳, 寒川美奈: リオデジャネイロ・オリンピックのメディカルサポート リオ・オリンピック日本代表選手団の医学サポート. 第 28 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 千葉, 2016.11.

[地方会]

B) 一般演題

[国際学会]

1. Maejima H, Takahashi K, Ikuta G: Inhibition of GABAergic synapses up-regulate the expression of neurotrophins and NMDA receptor subunits in the motor cortex. Neuroscience 2016, The 39th annual meeting of the Japan neuroscience society, Yokohama, 2016.7.
2. Shimoda T, Suzuki T, Takahashi N, Samukawa M, Tsutsumi K, Tani Y, Goto T, Ogasawara K, Yoshimura S: Possibility of drugstore-based self-health management in Japan: Study in a provincial city with heavy snowfall. The 4th International global network of public health nursing conference, Billund, Denmark, 2016.9.
3. Shimoda T, Suzuki T, Takahashi N, Samukawa M, Tsutsumi K, Ogasawara K, Yoshimura S: A study on factors concerned in the extension of healthy life expectancy of elderly people living in snowy areas. Analysis of bone density and muscle mass. The 5th World congress of clinical safety, Boston, USA, 2016.9.
4. Maejima H, Takahashi K, Ikuta G: Exercise in the presence of slight inhibition of GABAergic synapses up-regulate the synthesis of neurotrophin in the motor cortex. The society for neuroscience 45th annual meeting (Neuroscience 2016), San Diego, USA, 2016.11. (not attended, abstract publication only)

V. 研究活動

5. Mani H, Takeda K, Hasegawa N, Sato Y, Tanaka S, Suda Y, Maejima H, Asaka T: Effects of visual feedback training using center of gravity along with center of pressure for static postural balance. The society for neuroscience 45th annual meeting (Neuroscience 2016), San Diego, USA, 2016.11.
6. Hasegawa N, Sakuma M, Tanaka S, Sato Y, Takeda K, Mani H, Maejima H, Asaka T: Different learning effects of dynamic postural control by visual or auditory feedback training. The society for neuroscience 45th annual meeting (Neuroscience 2016), San Diego, USA, 2016.11.
7. Takeda K, Nishi Y, Mani H, Hasegawa N, Ishigaki T, Takamura Y, Osumi M, Nobusako S, Maejima H, Morioka S, Asaka T: Cortical processes to predict timing gait initiation through visual information. The society for neuroscience 45th annual meeting (Neuroscience 2016), San Diego, USA, 2016.11.
8. Ueno R, Ishida T, Yamanaka M, Taniguchi S, Samukawa M, Saito H, Tohyama H: Peak times of quadriceps force and anterior tibial force are significantly later than that of vertical ground reaction force during single leg landing, The 63th orthopaedic research society annual meeting San Diego, USA, 2017.3.
9. Kataoka Y, Homan K, Takeda R, Tadano R, Chiba T, Tohyama H: The effects of unweighting by a lower body positive pressure treadmill on 3-D gait kinematics. The 63th orthopaedic research society annual meeting San Diego, USA, 2017.3.
10. Saito Y, Yamanaka M, Miura T, Ino T, Kataoka Y, Osuka S, Samukawa M, Saito H, Tohyama H: The comparison of the thickness of abdominal muscle between traditional motor control exercise and sling exercise. The 63th orthopaedic research society annual meeting, San Diego, USA, 2017.3.

[国内学会]

1. 齊藤展士, 山中正紀, 笠原敏史, 千葉 健: 膝関節可動域制限による股関節・足関節運動と姿勢筋の筋活動への影響. 第51回日本理学療法学会大会, 東京, 2016.5.
2. 萬井太規, 長谷川直哉, 武田賢太, 佐久間萌, 伊吹愛梨, 石川啓太, Shi-Fen Hsiao, 浅賀忠義: バランスボード上における姿勢制御の順応効果について. 第51回日本理学療法学会大会, 札幌, 2016.5.
3. 奥貫拓実, 越野裕太, 遠山晴一, 堤 香織, 生田亮平, 佐橋健人, 横山美翔, 江沢侑也, 寒川美奈, 齊藤展士, 山中正紀: Medial tibial stress syndrome 症例における走行時の後・前足部 kinematics および内側縦アーチの動態の検討. 第51回日本理学療法学会大会, 札幌, 2016.05.
4. 大場健裕, 寒川美奈, 石田優子, 鶴喰 涼, 鈴森雄貴, 三上兼太郎, 山口瑞輝, 横山美翔, 齊藤展士, 山中正紀, 遠山晴一: 足関節底屈筋筋腱複合体スティフネスとストレッチング効果の関連性について. 第51回日本理学療法学会大会, 札幌, 2016.05.
5. 馬場 周, 山中正紀, 石田知也, 谷口翔平, 上野亮, 生田亮平, 齊藤展士, 寒川美奈, 遠山晴一: 下腿側方傾斜角度を用いた drop vertical jump 着地時の膝関節外反角度の評価の試み. 第51回日本理学療法学会大会, 札幌, 2016.05.
6. 石田優子, 寒川美奈, 大場健裕, 鶴喰 涼, 山口瑞輝, 横山美翔, 齊藤展士, 山中正紀, 遠山晴一: ハムストリングスの柔軟性が sit and reach テスト時の骨盤傾斜および脊柱可動性に与える影響. 第51回日本理学療法学会大会, 札幌, 2016.05.

V. 研究活動

7. 佐久間萌, 長谷川直哉, 武田賢太, 伊吹愛梨, 石川啓太, 田中晨太郎, 佐藤祐樹, 呉 瑕, 萬井太規, 前島洋, 浅賀忠義: 口頭指示の違いが姿勢安定性と姿勢戦略に与える影響. 第51回日本理学療法学会, 札幌, 2016.5.
8. 伊吹愛梨, 長谷川直哉, 武田賢太, 石川啓太, 佐久間萌, 佐藤祐樹, 田中晨太郎, 萬井太規, 前島洋, 浅賀忠義: クラシックバレエ経験者と非経験者における立位姿勢制御の比較. 第51回日本理学療法学会, 札幌, 2016.5.
9. 笠原敏史, 齊藤展士, 福田昂平: 体重心高が高齢者の動的立位平衡能力に与える影響. 第16回日本抗加齢医学会総会, 横浜, 2016.5.
10. 松尾雄一郎, 井口大暢, 大森紅己子, 安彦かがり, 千葉春子, 磯山浩孝, 池田 聡, 遠山晴一, 生駒一憲: ポリオ生存者の体成分分析について. 第53回日本リハビリテーション医学会学会, 京都, 2016.6.
11. 飯田有紀, 井口大暢, 大森紀巳子, 安彦かがり, 千葉春子, 磯山浩孝, 新明史江, 松尾雄一郎, 池田 聡, 遠山晴一, 生駒一憲: MRI で脳外傷が認められる高次脳機能障害者の就労と神経心理学的検査の関係. 第53回日本リハビリテーション医学会学会, 京都, 2016.6.
12. 憲 克彦, 金子明義, 細川吉博, 池田 聡, 遠山晴一, 生駒一憲: 回復期リハビリテーション病棟に入院し外来フォローが可能であった骨粗鬆症性椎体骨折連鎖の検討. 第53回日本リハビリテーション医学会学会, 京都, 2016.6.
13. 千葉春子, 井口大暢, 大森紅己子, 安彦かがり, 磯山浩孝, 松尾雄一郎, 遠山晴一, 池田 聡, 生駒一憲: 脳深部刺激療法(DBS)がパーキンソン病患者の嚥下機能に与える影響. 第53回日本リハビリテーション医学会学会, 京都, 2016.6.
14. 鈴森雄貴, 齊藤展士, 寒川美奈, 山中正紀, 遠山晴一: 繰り返しのリーチ動作における高齢者の運動パフォーマンスの改善と姿勢制御の変化. 第39回日本神経科学大会, 横浜, 2016.7.
15. 藤堂 愛, 石田知也, 松本 尚, 山中正紀, 遠山晴一, 青木喜満: 膝前十字靭帯再建術後の大腿四頭筋筋力はdrop vertical jumpにおける膝関節運動の非対称性と関連するか. 第8回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 福岡, 2016.7.
16. 上野 亮, 山中正紀, 石田知也, 谷口翔平, 生田亮平, 遠山晴一: Drop vertical jump と片脚着地課題における垂直床反力と脛骨前方引き出し力の相関性の検討. 第8回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 福岡, 2016.7.
17. 佐橋健人, 山中正紀, 千葉健, 遠山晴一, 齊藤展士: Knee sleeve 着用が静止立位における変形性膝関節症例の重心保持機能に与える影響. 第28回日本運動器科学会, 会津若松, 2016.7.
18. 石田知也, 藤堂 愛, 松本 尚, 山中正紀, 遠山晴一, 青木喜満: 膝前十字靭帯再建術後のdrop vertical jumpにおける膝関節外反運動の性差. 第8回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 福岡, 2016.7.
19. 笠原敏史, 齊藤展士, 福田昂平: 体重心高が高齢者の動的立位平衡能力に与える影響. 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016.9.
20. 寒川美奈, 鈴木哲平, 谷 祐児, 下田智子, 堤 香織, 高橋紀子, 良村貞子, 小笠原克彦: 積雪寒冷地域在住女性における尿失禁とバランス機能の関連性について. 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016.9.
21. 中村賢太郎, 三上兼太郎, 大場健裕, 鶴喰 涼, 石田優子, 小野将尚, 鈴森雄貴, 寒川美奈: ストレッチング時間の違いが神経系興奮性に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016.9.

V. 研究活動

22. 小野将尚, 大場健裕, 鶴喰 涼, 石田優子, 三上兼太郎, 鈴森雄貴, 中村賢太郎, 寒川美奈: 足関節底屈筋への振動刺激が筋腱複合体スティフネスへ与える影響と刺激部位による効果の差異. 第71回日本体力医学学会大会, 盛岡, 2016.9.
23. 長谷川直哉, 武田賢太, 田中晨太郎, 呉 瑕, 萬井太規, 浅賀忠義: 周期的な動作課題における視覚と聴覚フィードバック練習の学習効果の違い. 第15回日本健康行動科学学会, 大阪, 2016.9.
24. 武田賢太, 長谷川直哉, 田中晨太郎, 呉 瑕, 浅賀忠義: 視覚情報を用いたタイミング予測下における歩行開始時の皮質処理. 第15回日本健康行動科学学会, 大阪, 2016.9.
25. 田中晨太郎, 長谷川直哉, 武田賢太, 呉 瑕, 浅賀忠義: 予測的な反復後方ステップ練習による非予測的外乱時の即時効果. 第15回日本健康行動科学学会, 大阪, 2016.9.
26. 下田智子, 鈴木哲平, 堤 香織, 高橋紀子, 寒川美奈, 後藤輝明, 吉町昌子, 小笠原克彦, 良村貞子: 冬期における豪雪地域住民の年代別体組成および骨密度の実態. 高齢者の筋肉量と骨密度に着目して. 第23回日本未病システム学会学術総会, 福岡, 2016.10.
27. 千田周也, 越野裕太, 遠山晴一, 五十嵐将斗, 奥貫拓実, 佐藤冨香, 寒川美奈, 山中正紀: 膝屈曲位における足部回内が下腿・大腿へ及ぼす影響. 第28回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 千葉, 2016.11.
28. 奥貫拓実, 越野裕太, 遠山晴一, 堤 香織, 五十嵐将斗, 江沢侑也, 寒川美奈, 山中正紀: Medial tibial stress syndrome 症例におけるトレッドミル走行時の膝および股関節運動に対する前・後足部運動の比較. 日本臨床スポーツ医学会学術集会, 千葉, 2016.11.
29. 石田優子, 寒川美奈, 谷 祐児, 堤 香織, 大場健裕, 鶴喰 涼, 三上兼太郎, 山中正紀, 遠山晴一: 足関節底屈筋筋腱複合体スティフネスとストレッチング効果の関連性について. 第28回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 千葉, 2016.11.
30. 越野裕太, 山中正紀, 江沢侑也, 奥貫拓実, 石田知也, 寒川美奈, 井上雅之, 遠山晴一: 後足部と膝および股関節で生じる coupling motion の検討. 動作および関節による比較. 第28回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 千葉, 2016.11.
31. 奥貫拓実, 越野裕太, 遠山晴一, 堤 香織, 五十嵐将斗, 江沢侑也, 寒川美奈, 山中正紀: Medial tibial stress syndrome 症例におけるトレッドミル走行時の膝および股関節運動に対する前・後足部運動の比較. 第27回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 幕張, 2016.11.
32. 三上兼太郎, 寒川美奈, 山中正紀, 遠山晴一, 伊藤 雄, 石田知也, 大場健裕, 石田優子, 鶴喰 涼, 松本尚, 青木喜満: 収縮様式および角速度が膝関節屈曲トルク-角度特性に与える効果. 第28回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 千葉, 2016.11.
33. 齋藤優輝, 山中正紀, 井野拓実, 片岡義明, 寒川美奈, 遠山晴一: 超音波画像診断装置を用いたドロインと腹臥位腰部セッティングの体幹筋筋厚変化率の比較. 第28回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 千葉, 2016.11.
34. 佐藤祐樹, 長谷川直哉, 成田雅, 武田賢太, 石川啓太, 大橋哲朗, 田中晨太郎, 呉 瑕, 丸谷孝史, 金 雪梅, 加藤新司, 萬井太規, 中山恭秀, 浅賀忠義: 傾斜台上立位がパーキンソン病患者の静的立位保持と安定性限界に与える即時効果. 第14回日本神経理学療法学会学術集会, 宮城, 2016.11.
35. 石川啓太, 萬井太規, 浅賀忠義, 釘本 充, 杉山俊一, 金子貞男: 脳卒中片麻痺患者の起立動作方法の違いによる身体重心と足圧中心の特徴. 第14回日本神経理学療法学会学術集会, 宮城, 2016.11.

[地方会]

1. 萬井太規：バランスボード練習の姿勢戦略の順応効果について—足関節と股関節の関節運動の関連性に着目して—. 第二回身体運動制御学とニューロリハビリテーション研究会, 奈良, 2016.7.

■業績

生活機能学分野

A. 学術論文

1. Suzuki Y, Hirayama K, Uchiyama M, Shimomura T, Fujii H, Mori E, Nishio Y, Iizuka O, Inoue R, Otsuki M, Sakai S: Changes in pupil diameter are correlated with the occurrence of pareidolias in patients with dementia with Lewy bodies. *NeuroReport* 28:187-192, 2017 (IF 1.343)
2. Ito A, Fujii T, Abe N, Kawasaki I, Hayashi A, Ueno A, Yoshida K, Sakai S, Mugikura S, Takahashi S, Mori E: Gender differences in ventromedial prefrontal cortex activity associated with valuation of faces. *Neuroscience* 328:194-200, 2016 (IF 3.231)
3. Takashima R, Waka Murata W, Saeki K: Movement changes due to hemiplegia in stroke survivors: A hermeneutic phenomenological study. *Disabil Rehabil.*; 38 (16) :1578-91. 2016.8. (IF 1.985)
4. Kim K, Hirayama K, Yoshida K, Yano R, Abe M, Otsuki M, Sakuraba S, Sakai S: Effect of exposure to short-wavelength light on susceptibility to motion sickness. *NeuroReport*. 5; 28 (10) :584-589. 2017. (IF 1.343)
5. Miyajima M, Omiya H, Yamashita K, Miyata T, Yambe K, Matsui M, Denda K: The effects of cognitive remediation therapy using the frontal/executive program for autism spectrum disorder. *Int J Psychiatry Med.*; 51 (3) :223-35. 2016.4 (IF 0.824)
6. Omiya H, Yamashita K, Miyata T, Hatakeyama Y, Miyajima M, Yambe K, Matsumoto I, Matsui M, Toyomaki A, Denda K: Pilot study of the effects of cognitive remediation therapy using the frontal/executive program for treating chronic schizophrenia. *The Open Psychology Journal*, 9: 121-128, 2016.
7. Hoshi Y, Sasaki C, Yoshida K, Sato Y, Kato M, Sakuraba S, Sawamura D, Sakai S: Milestones for communication development in Japanese children with spinal muscular atrophy Type I. *Journal of Health Sciences*, in press
8. 湯浅充, 村田和香: 生活の場における作業従事が認知症超高齢者の社会参加に結び付いた一事例. *北海道作業療法* 33 : 36-41, 2016.
9. 武井早紀, 清水祐輔, 豊島邦義, 成田学, 國田幸治, 佐藤なるみ, 井上貴雄: NEAR と精神障害作業療法プログラムによって家事遂行と言語コミュニケーションが改善された双極性障害の事例. *北海道作業療法* 34:24-29, 2016.
10. 土本望生, 森本隆文, 高島理沙, 池田宮司: 精神科作業療法士の臨床場面での同性愛者との接触, および同性愛者に対する態度に関連する要因の検討. *北海道作業療法* 33 (4) :193-200, 2016.
11. 傳田健三: 「子どものうつ病」再考. *児童青年精神医学とその近接領域*, 57 (3) : 415-424, 2016.
12. 傳田健三: 自閉スペクトラム症 (ASD) の特性理解. *Japanese Journal of Psychosomatic Medicine*, 57: 19-26, 2017.
13. 新井言加, 武田直樹, 阿部正之, 浮田徳樹, 金内惇, 井上貴雄, 傳田健三: 慢性疼痛の心理社会的因子に関する臨床的研究. *最新精神医学*, 22 (2) : 169-175, 2017.

V. 研究活動

B. 著書

1. 村田和香(分担): 高齢期分野における作業療法実践過程. 作業療法概論(二木淑子編), 205-219, 医学書院, 東京, 2016.

C. 総説, 解説, 論評

1. 高島理沙: 作業形態を用いた認知症を有する高齢者の「なじみの作業」の再構築. 北海道作業療法 33(3):133-142, 2016.

D. 報告書

1. 傳田健三(分担): 児童・思春期うつ病の薬物治療ガイドライン作成に関する研究, 研究事業: 長寿・障害総合研究事業. 障害者対策総合研究開発事業(発達障害を含む児童・思春期精神疾患の薬物治療ガイドライン作成と普及) 2016.

E. その他

[受賞]

1. 村田和香: 日本作業療法士協会奨励賞, 意味ある作業への支援が役割獲得をもたらす習慣の変化に至った一症例. 2016.
2. 傳田健三: 優秀ポスター賞, Clinical Studies of chronic pain related to psychological and sociological factors. (The 17th Asian Congress on Psychosomatic Medicine, Fukuoka, Japan, 2016.8.)

[学会研究会の主催]

1. 境信哉: 第4回全国作業療法学系大学院ゼミナール. 2016.

[特許]

[報道]

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

[国内学会]

[地方会]

B) 一般演題

[国際学会]

1. Sasaki C, Sakai S, Imura T, Takada M, Morimoto S, Nojiri A, Sakamoto Y, Isaji T: Remote training support for communication aid use in children with spinal muscular atrophy Type I.10th ISPRM World Congress, Kuala Lumpur, Malaysia, 2016.5.
2. Arai K, Abe M, Ukita A, Takeda N, Denda K: Clinical studies of chronic pain related to psychological and sociological factors. The 17th Asian Congress on Psychosomatic Medicine, Fukuoka, Japan, 2016.8.
3. Denda K, Arai K, Inoue T: Eating disorders in childhood and adolescence and comorbidities: from the viewpoints of depression and ASD. The 22nd International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Profession World Congress, Calgary, Canada, 2016.9.
4. Koch J, Takashima R: Special-needs EFL teaching & occupational therapy. Japan association for language teaching (JALT) 2016, Nagoya, 2016.11.
5. Yoshida K, Ogawa K, Mototani T, Inagaki Y, Sawamura D, Ikoma K, Sakai S: Correlation between flow state and the effects of attention training: randomized controlled trial of patients with traumatic brain injury. The 12th world congress on brain injury, New Orleans, USA, 2017.3.

[国内学会]

1. 斎藤耕子, 村田和香, 雲杉, 吉良千里: 高齢者ボランティアにおける活動の意味づけと活動満足度との関係. 第50回日本作業療法学会, 札幌, 2016.9.
2. 湯浅充, 村田和香: 認知症高齢者と離れて生活する家族の繋がりを支援した一事例. 第50回日本作業療法学会, 札幌, 2016.9.
3. 澤村大輔, 境 信哉, 小川圭太, 生駒一憲: 外傷性脳損傷後高次脳機能障害患者における就労の可否判断に貢献する因子. 第50回日本作業療法学会, 札幌, 2016.9.
4. 吉良千里, 村田和香, 佐伯和子: 介護老人福祉施設で働く介護職員が認知症高齢者と築いている「良好な関係」. 第50回日本作業療法学会, 札幌, 2016.9.
5. 藤 なるみ, 豊島邦義, 富永 巧, 武井早紀, 井上貴雄: 作業療法と認知リハビリテーションを導入し認知機能障害と社会生活機能の改善が見られた双極性障害の事例. 第50回日本作業療法学会, 札幌, 2016.9.
6. 桜庭 聡, 境 信哉, 平山和美: 視覚背側経路における傍中心視と文字処理との関係—Continuous Flash Suppressionを用いた検討—. 第40回日本高次脳機能障害学会学術総会, 松本, 2016.11.
7. 高島理沙, 坂上真理: 作業形態の再考. 第20回作業科学セミナー, 東海市, 2016.12.

[地方会]

1. 雲杉, 村田和香, 斎藤耕子, 吉良千里: アジア地域における健康増進のためのライフスタイルに関する研究動向. 第47回北海道作業療法学会, 札幌, 2016.6.2.
2. 井上貴雄: 精神障害領域の支援技法及び事例の紹介 認知機能リハビリテーション. 第47回北海道作業療法学会, 札幌, 2016.6.
3. 高島理沙, 沼崎佳奈, 坂上真理: 「もう一度日本舞踊を披露したい」—作業形態の再現を重視した実践—.

V. 研究活動

- 第 47 回北海道作業療法学会, 札幌市, 2016.6.
4. 井上貴雄, 青木 楓, 松寄由莉, 新井言加, 大宮秀淑, 傳田健三: 小・中・高校生の抑うつ症状, 躁症状, 自閉傾向と自己効力感. 北海道児童青年精神保健学会第 41 回例会, 札幌, 2017.2.
 5. 佐藤祐基, 井上貴雄, 田実潔, 傳田健三: 大学生の抑うつ症状および自閉傾向に関する調査研究. 第 41 回北海道児童青年精神保健学会, 札幌市, 2017.2.
 6. 青木楓, 松崎由莉, 井上貴雄, 傳田健三: 大学生の気分・気質と自殺・死生観との関連. 第 41 回北海道児童青年精神保健学会, 札幌市, 2017.2.
 7. 井上貴雄, 青木 楓, 松寄由莉, 新井言伽, 大宮秀淑, 傳田健三: 小・中・高校生の抑うつ症状, 躁症状, 自閉傾向と特性的自己肯定感. 第 41 回北海道児童青年精神保健学会, 札幌市, 2017.2.
 8. 松寄由莉, 井上貴雄, 青木楓, 新井言加, 大宮秀淑, 傳田健三: 北海道の小・中・高校生の心の健康調査 2011 年度と 2016 年度の比較. 第 41 回北海道児童青年精神保健学会, 札幌市, 2017.2.

■業績

健康科学分野

A. 学術論文

1. Hayasaka T, Fuda H, Hui SP, Chiba H: Imaging Mass Spectrometry Reveals a Decrease of Cardiolipin in the Kidney of NASH Model Mice. *Anal Sci* 32:473-476, 2016.
2. Suchin Trirongjitmoah, Kazuya Iinaga, Toshihiro Sakurai, Hitoshi Chiba, Mana Sriyudthsak, and Koichi Shimizu: Practical technique to quantify small, dense low-density lipoprotein cholesterol using dynamic light scattering. *Optical Review* 23: 265-272, 2016.
3. Ma YS, Yoshida S, Kobayashi Y, Kawanishi N, Furukawa T, Fuda H, Hui SP, Chiba H: Improvement of Mitochondrial Function and Lipid Utilization by 3, 5-dihydroxy-4-methoxybenzyl Alcohol, an Oyster-derived polyphenol, in Oleate-loaded C2C12 Myotubes. *Journal of Food and Nutrition Research* 4:498-507, 2016.
4. Furukawa T, Fuda H, Miyanaga S, Watanabe C, Chiba H, Hui SP: Rapid tin-mediated access to a lysophosphatidylethanolamine (LPE) library: Application to positional LC/MS analysis for hepatic LPEs in non-alcoholic steatohepatitis model mice. *Chem Phys Lipids* 200:133-138, 2016.
5. Matsushita S, Masaki N, Sato K, Hayasaka T, Sugiyama E, Hui SP, Chiba H, Mase N, Setou M: Selective improvement of peptides imaging on tissue by supercritical fluid wash of lipids for matrix-assisted laser desorption/ionization mass spectrometry. *Anal Bioanal Chem* 409:1475-1480, 2017.
6. Liu C, Sun Y, Song Y, Saito T, Kurasaki M: Nonylphenol Diethoxylate Inhibits Apoptosis Induced in PC12 Cells *Environmental Toxicology*, 31 (11) :1389-1398, 2016.
7. Tajuddin Sikder, Zakir Hossain, Priangka Bhattacharya Pingki, Jussi Dayna Biswas, Mostafizur Rahman, Shakhaoat Hossain, Takeshi Saito and Masaaki Kurasaki: Development of Low-cost indigenous filtration system for urban sullage: assessment of reusability. *Future Cities and Environment*, 2: e5 (8pages), 2016.
8. Kimura K, Chitose R, Yokosawa K: Alpha-band amplitude during memory encoding is an index of memory performance. *Advanced Biomedical Engineering* 5: 43-48, 2016.
9. Mizobe K, Yokosawa K, Shimojo A, Ozaki M: Does fasting modulate physio-psychological responses to emotional pictures? An analysis by MEG, VAS and peripheral physiological markers. *Advanced Biomedical Engineering* 5: 88-93, 2016.
10. Yokosawa K, Kimura K, Chitose R, Momiki T, Kuriki S: Alpha-band rhythm suppression during memory recall reflecting memory performance. *Conf Proc IEEE Eng Med Biol Soc*: 4539-4542, 2016.
11. Toyomura A, Yokosawa K, Kuriki S: Fluctuation of lower limb movement in the MRI Bore: Different contributions of the cortical and subcortical locomotor region. *Advanced Biomedical Engineering* 6: 15-20, 2017.
12. Suzuki T, Tani Y, Ogasawara K: Behavioral Analysis of a Medical Institution's Website Visitor by Markov Chain Monte Carlo Methods. *J Med Internet Res* 18:e199. doi:10.2196/jmir.5139, 2016.

V. 研究活動

13. Terashita T, Tamura N, Kisa K, Kawabata H, Ogasawara K: Problem-based learning for radiological technologists: a comparison of student attitudes toward plain radiography. *BMC Med Educ* 16:236, 2016.
14. Nishimoto N, Ota M, Yagahara A, Ogasawara K: Estimating duration of public concern after the Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Station accident from the occurrence of radiation exposure related terms on Twitter: a retrospective data analysis. *JMIR Public health and surveillance. JMIR Public Health Surveill* 2:e168, 2016.
15. Furusawa T, Naka I, Yamauchi T, Natsuhara K, Eddie R, Kimura R, et al: Polymorphisms associated with a tropical climate and root crop diet induce susceptibility to metabolic and cardiovascular diseases in Solomon Islands. *PLoS ONE*, 12 (3) :e0172676, 2017.
16. Naka I, Furusawa T, Kimura R, Natsuhara K, Yamauchi T, Nakazawa M, Ataka Y, Ishida T, Inaoka T, Matsumura Y, Ohtsuka R, Ohashi J: A missense variant, rs373863828-A (p.Arg457Gln), of CREBRF and body mass index in Oceanic populations. *Journal of Human Genetics*, 2017.
17. Nagahori C, Kinjo Y, Tchuani JP, Yamauchi T: Malnutrition among Vaccinated Children Aged 0-5 Years in Batouri, Republic of Cameroon: Convenience samples from five health centers and two villages in the health district of Batouri, *Journal of General and Family Medicine*, 2017.
18. Yagi A, Miyanaga S, Shrestha S, Takeda S, Kobayashi S, Chiba H, Kamiya H, Hui S-P: A fatty acid profiling method using liquid chromatography-high resolution mass spectrometry for improvement of assisted reproductive technology. *Clinica Chimica Acta* 456: 100-106, 2016.
19. Miura Y, Hui S-P, Shrestha R, Hiruma T, Takeda S, Fuda H, Ikegawa S, Hirano K, Chiba H: Synthesis of (2b, 3a, 6-2H3) cholesteryl linoleate and cholesteryl oleate as internal standards for mass spectrometry. *Steroids* 107:1-9, 2016.
20. S Tsuji, A Yagahara, Y Wakabayashi, K Horita, K Fujita, K Ogasawara: Developing and Evaluating Radiotherapy Ordering System applied JJ1017 Codes. *J. Med. Imaging Health Inf.* 7 (1) :64-72, 2017.
21. 蔵崎正明, 齋藤 健: 銅の輸送と代謝, *日本臨床* 74 (7), 1103-1110, 2016.
22. 谷川原綾子, 辻真太郎, 福田晋久, 西本尚樹, 小笠原克彦: 放射線技術学に関する用語集の日本語表記と意味記述に関する比較. *日本放射線技術学会雑誌* 72: 203-208, 2016.
23. 藤原健祐, 谷川原綾子, 谷川琢海, 谷祐児, 大場久照, 小笠原克彦: 北海道における放射線診療資源の地理的分布の経年比較—ジニ係数とハーフィンダール・ハーシュマン指数を用いた分析—. *日本放射線技術学会雑誌* 72: 970-977, 2016.
24. 佐々木健太, 石川智基, 藤原健祐, 谷祐児, 小笠原克彦: 制限領域法による自治体病院の経営効率性評価. *医療情報学* 37: 81-86, 2017.
25. 山内太郎・佐藤香苗・菅野未奈子・松村康弘: 北海道上川地区に居住する幼児の体型評価および評価方法の検討. *日本生理人類学会誌*, 22 (1), 3-6, 2017.
26. 佐藤香苗・菅野未奈子・山内太郎・松村康弘・中山祥嗣・新田裕史: 北海道上川地区 3 歳児の栄養摂取ならびに主要食品のポーションサイズ. *日本生理人類学会誌*, 22 (1), 7-23, 2017.

V. 研究活動

B. 著書

1. Yustiawati, Kazuto Sazawa, M. Suhaemi Syawal, Hideki Kuramitz, Takeshi Saito, Toshiyuki Hosokawa, Masaaki Kurasaki and Shunitz Tanaka: Chapter 18: Peat fire impact on water quality and organic matter in peat soil. pp. 281-296, In “Tropical peatland ecosystems” (Eds. Mitsuru Osaki and Nobuyuki Tsuji), (p651) Springer, Tokyo, Japan, 2016.
2. Yamauchi T: Body Growth and Life History of Modern Humans and Neanderthals from the Perspective of Human Evolution. In: H Terashima, BS Hewlett (eds.), Social Learning and Innovation in Contemporary Hunter-Gatherers: Evolutionary and Ethnographic Perspectives. Springer, pp. 285-291, 2016.
3. Hagino I, Yamauchi T: High Motivation and Low Gain: Food Procurement from Rainforest Foraging by Baka Hunter-Gatherer Children. In: H Terashima, BS Hewlett (eds.), Social Learning and Innovation in Contemporary Hunter-Gatherers: Evolutionary and Ethnographic Perspectives. Springer, pp. 135-144, 2016.
4. 小笠原克彦, 西本尚樹(分担): 核医学に必要な統計学. 核医学検査技術学(改訂3版)(編集:大西英雄, 市原隆, 山本智朗). 14-19. オーム社, 東京, 2016.
5. 杉森博行, 小笠原克彦(分担): 撮影システム・超音波検査. 診療放射線技師ポケットレビュー帳第3版(編集:福士政広). 167-176, メジカルビュー社, 東京, 2017.

C. 総説, 解説, 論評

1. Yamauchi T: Contrasting lifestyles of contemporary hunter-gatherers in African rainforest: village camp vs. forest camp. Symposium proceedings. Seeking the Human Landscape: Archaeology, Anthropology and Indigenous Studies, 2016.
2. Yamauchi T, Hayashi K, Kawamura K, Sato H: Nutritional Adaptation of Modern Hunter-gatherers in African Rainforests. Symposium proceedings. Landscapes in the anthropocene, France-Japan joint symposium, 2016.
3. Yamauchi T, Ushijima K, Sintawardani N, Funamizu N: Future Sanitation Based on the Insight and Participation of Children: A Collaboration between Schoolchildren in Indonesia and Japan. Symposium proceedings. The 1st International Symposium on Green Technology for Value Chain, 2016.
4. Yamauchi T: Children living in the era of obesity and low physical fitness: intergenerational changes in Japanese children. Symposium Proceedings. Joint conference by the Japan Society for Physiological Anthropology and the Human Biology Association, MHAPR, 2016.
5. Nyambe S, Serpell R, Yamauchi T: Equity in Health and Health Promotion: An adolescent Deaf-hearing substance abuse peer education project in Lusaka, Zambia. Conference proceedings. International Society of Environmental Epidemiology and International Society of Exposure Science- Asia Chapter Conference, 2016.
6. Hao M, Jia LH, Yamauchi T: Effect of education and exercise intervention among overweight children in Northeast China. Conference proceedings. International Society of Environmental Epidemiology and International Society of Exposure Science- Asia Chapter Conference, 2016.

V. 研究活動

7. Hasegawa J, Yamauchi T: Factors associated with stunting among children in Sinazongwe district, Zambia; a case control study. Conference proceedings. International Society of Environmental Epidemiology and International Society of Exposure Science- Asia Chapter Conference, 2016.
8. Nyambe S and Yamauchi T: When youth take action: Incorporation of youth in Zambia's health care system. Seminar Proceedings. Zambia Research Seminar, 2016.
9. Umetsu C, Sakurai T, Yamauchi T, Miyazaki H, Mwale M: Climate Change, Agricultural Production and Nutrition: Towards Integrated Policy Design for Food Security. Conference proceedings. Japan Geoscience Union Meeting, 2016.
10. Wang P, Han W, Yamauchi T: The association between breastfeeding practices and children's growth in suburban area of Northeast China. Congress proceedings. The 31st Japan Association for International Health Congress, 2016.
11. Nyambe S, Hyashi K, Zulu J, Yamauchi T: Saitation, health and children and youth civic participation in peri-urban Lusaka, Zambia: Assessing social values and quality of life. Congress proceedings. The 31st Japan Association for International Health Congress, 2016.
12. Hao M, Han W, Yamauchi T: Effect of intervention program on obesity among obese rural school children in Northeast China: a one year follow up study. Congress proceedings. The 31st Japan Association for International Health Congress, 2016.
13. Otsuka Y, Ushijima K, Sintawardani N, Yamauchi T: The relationship between child health, nutritional status and mother's awareness on hygiene in urban Indonesia. Congress proceedings. The 31st Japan Association for International Health Congress, 2016.
14. Hagihara J, Yamauchi T, Nakazawa M: Quality of life for children at lowland Papua New Guinea. Congress proceedings. The 31st Japan Association for International Health Congress, 2016.
15. 山内太郎: すべての人に健康と福祉を一肥満化・体力低下時代を生きる子どもたち. 日本学術会議学術講演会「持続可能な世界にむけて, 国連が採択した目標(SDGs)に貢献する北海道の知」講演要旨集, 2017.
16. 横澤宏一: 生体医工学シンポジウム2016論文の掲載に当たって. 279, 生体医工学 54, 2017.
17. 小笠原克彦: 教育講座-放射線技術学における研究倫理-1. 放射線技術科学における研究倫理の必要性. 日本放射線技術学会雑誌 72:352-358, 2016.
18. 小笠原克彦: 教育講座-放射線技術学における研究倫理-4. 利益相反(conflict of interest: COI). 日本放射線技術学会雑誌 72:923-929, 2016.
19. 西本尚樹, 小笠原克彦: 教育講座-放射線技術学における研究倫理-6. 臨床研究における倫理(1). 日本放射線技術学会雑誌 72(12):1268-1276, 2016.
20. 西本尚樹, 小笠原克彦: 教育講座-放射線技術学における研究倫理-6. 臨床研究における倫理(2). 日本放射線技術学会雑誌 73:69-77, 2017.
21. 小笠原克彦: 超高齢社会での産学官連携によるICTを活用した健康支援. J-LIS 13: 23-27, 2016.
22. 山内太郎: 肥満化・体力低下時代を生きる子どもたち. 民族衛生 82, 付録 pp. 28-29, 2016.
23. 山内太郎: 人類たずねて三千里～異文化フィールドワーカー 幸せを考える～第91回サイエンス・カフェ札幌. 講演要旨, 2016.

V. 研究活動

24. 郝明, 韓威, 山内太郎: 中国東北部の農村小学生に対する肥満改善プログラムの効果の持続性—食育および運動介入1年間後のフォローアップ調査. 第31回日本国際保健医療学会要旨集, 2016.
25. 大塚裕美子, 牛島健, 池見真由, SINTAWARDANI Neni, 山内太郎: インドネシア都市部に居住する子どもの健康・栄養状態と母親の衛生意識. 第31回日本国際保健医療学会要旨集, 2016.
26. 長堀智香子, 金城芳秀, Jean Paul TCUANI, 山内太郎: カメルーンの子どもの栄養不良と離乳食開始時期の関連. 民族衛生, 82 付録, pp. 110-111, 2016.
27. 佐藤香苗, 長谷川めぐみ, 神明子, 鈴木みずえ, 山内太郎: 認知症高齢者の安静時エネルギー消費量～認知機能別の比較と推定～. 日本生理人類学会第74回大会要旨集, 2016.
28. 郝明, 贾丽红, 山内太郎: 中国東北部の農村小学生における栄養教育と運動介入による肥満改善の検証. 日本生理人類学会第73回大会要旨集, 2016.
29. 萩原潤, 山内太郎, 中澤港: パプアニューギニア低地居住の子どものQOL. 第31回日本国際保健医療学会要旨集, 2016.

D. 報告書

E. その他

[受賞]

1. 千葉 仁志: アメリカ臨床化学会(AACC)が与えるリポタンパク質・脂質・血管疾患の領域において大きな貢献のあった者への賞. Cooper Award (クーパー賞).
2. 小笠原克彦: 北海道大学研究総長賞(奨励賞).

[学会研究会の主催]

1. 千葉 仁志: 第11回遺伝子栄養学研究会, 会長, 北広島市, 平成28年9月9日.
2. 小笠原克彦: 第72回日本放射線技術学会北海道支部学術大会春季大会(札幌医科大学臨床教育研究棟, 札幌市), 2016.4.23-24.
3. 小笠原克彦: 第72回日本放射線技術学会北海道支部学術大会秋季大会(とちぎプラザ, 帯広市), 2016.11.19-20.
4. 山内太郎: 第1回日本アフリカ学会北海道支部研究会, 札幌, 2016年5月20日.
5. 山内太郎: 第2回日本アフリカ学会北海道支部研究会, 札幌, 2016年5月27日.
6. 山内太郎: 第3回日本アフリカ学会北海道支部研究会, 札幌, 2016年10月11日.
7. 山内太郎: 第4回日本アフリカ学会北海道支部研究会, 札幌, 2017年1月5日.

[特許]

国内(取得): 1件

[報道]

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Hitoshi Chiba: Two topics from my lab: ApoE-containing HDL and Lipid droplets. AAC C2016, Philadelphia, PA, USA, 2016.8. 受賞記念講演.
2. Yokosawa K: An investigation of brain activity using magnetoencephalography during the performance of a sequential memory task. NTU-Meiji Neurobiology and Cognitive Neuroscience Symposium, Kawasaki, 2016. 7.
3. Yokosawa K: Analysis of spontaneous brain rhythms reveals age-based memory decline. Non-invasive brain research for cognitive/developmental impairments, Research Exchange seminar Hokkaido-Helsinki, Helsinki, Finland, 2017. 3.
4. Yokosawa K: Analysis of spontaneous brain rhythms reveals age-based memory decline. Non-invasive brain research for cognitive/developmental impairments, Research Exchange seminar Hokkaido-Jyväskylä, Jyväskylä, Finland, 2017. 3.
5. Ogasawara K: Current status and future Japanese: Society of Radiological Technology- Asian Advanced Imaging Technology Academic Forum. Chinese Congress of Radiology 2016-24th Chinese Society of Imaging technology. Suzhou (China), 2016.10.
6. Ogasawara K: Medical Imaging technologist education in Japan - Expert Forum of Imaging Technology Education and Nursing. Chinese Congress of Radiology 2016-24th Chinese Society of Imaging technology. Suzhou (China), 2016.10.
7. Yamauchi T: Field Research in Human Ecology: Bottom-Up Approach in Developing Countries. Nitobe College Special Lecture, University of Oxford, 2017.03.14.
8. Yamauchi T: Contrasting lifestyles of contemporary hunter-gatherers in African rainforest: village camp vs. forest camp. Seeking the Human Landscape: Archaeology, Anthropology and Indigenous Studies, University of Helsinki, 2017.03.02-03.
9. Yamauchi T, Hayashi K, Kawamura K, Sato H: Nutritional Adaptation of Modern Hunter-gatherers in African Rainforests. Landscapes in the anthropocene, France-Japan joint symposium, EHES, Paris, 2016.12.5-8.
10. Yamauchi T, Ushijima K, Sintawardani N, Funamizu N: Future Sanitation Based on the Insight and Participation of Children: A Collaboration between Schoolchildren in Indonesia and Japan, The 1st International Symposium on Green Technology for Value Chain 2016, Indonesia Convention Exhibition, BSD, 2016.10.3-5.
11. Yamauchi T: Children living in the era of obesity and low physical fitness: intergenerational changes in Japanese children. Joint conference by the Japan Society for Physiological Anthropology and the Human Biology Association, MHAPR 2016, University of Hawaii, Hilo, 2016.8.19-20.

[国内学会]

1. 布田博敏, 惠淑萍, 千葉仁志: マガキ由来抗酸化物質による機能性食品としての可能性. 第67回日本電気泳動学会総会, 釧路, 2016.8.

V. 研究活動

2. 布田博敏, 渡邊 貢, 恵 淑萍, 千葉仁志: マガキ抽出物による抗肥満作用, インスリン抵抗性改善作用, 及び肝臓保護作用. 第23回 日本未病システム学会総会, 福岡市, 2016.11.
3. 千葉仁志: 細胞内脂質・脂肪滴代謝と組織傷害. 第29回腎と脂質研究会, 広島市, 2017.3. モーニングセミナー.
4. 横澤宏一, 木村裕一, 杉町勝: 論文を投稿しよう—論文執筆のポイントと投稿のルール—. 第55回日本生体医工学会大会, 富山市, 2016. 4.
5. 横澤宏一: 生体医工学領域での論文の書き方—執筆のポイントと査読対応—. 生体医工学シンポジウム2016, 旭川市, 2016. 9.
6. 小笠原克彦: 未病・健康を支える情報 - 未病と情報 - 標準化・ビックデータ・人工知能. 第23回日本未病システム学会学術総会, 福岡, 2016.11.
7. 山内太郎: 肥満化・体力低下時代を生きる子どもたち. 第81回日本民族衛生学会総会, 女子栄養大学, 東京, 2016.11.26-27.

[地方会]

1. 小笠原克彦: 放射線技術学研究を進めるための研究倫理について. 日本放射線技術学会北海道支部学術大会第72回春季学術大会. 札幌, 2016.4.
2. 小笠原克彦: 学会の国際化に向けて. 日本放射線技術学会北海道支部学術大会第72回秋季学術大会. 帯広, 2016.11.
3. 山内太郎: すべての人に健康と福祉を一肥満化・体力低下時代を生きる子どもたち, 日本学術会議北海道地区会議学術講演会「持続可能な世界にむけて, 国連が採択した目標(SDGs)に貢献する北海道の知」, 北海道大学, 札幌, 2017.02.11.
4. 山内太郎: 地域住民の Value の可視化と Value Chain の創発. SIP インフラ維持管理・更新・マネジメント技術「地域自律型の次世代型・水インフラマネジメントシステムへの転換」拡大キックオフ会合, 道総研プラザ, 札幌, 2016.12.16.
5. 山内太郎: 人類たずねて三千里～異文化フィールドワーカー 幸せを考える～ 第91回サイエンス・カフェ札幌, 北海道大学, 札幌, 2016.11.4.
6. 山内太郎: 伝統社会で暮らす人々のライフスタイルと健康. 北海道大学保健科学研究所公開講座2016「ようこそ!ヘルスサイエンスの世界へ」, 北海道大学, 札幌, 2016.11.3.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Shrestha R, Hui SP, Takeda S, Fuda H, Chiba H: Detection and Identification of Phosphatidylcholine Hydroperoxides in Plasma and Triglyceride-rich Lipoproteins using Orbitrap Mass Spectrometry. 68th AACC Annual Scientific Meeting & Clinical Lab Expo, Philadelphia, USA, 2016.8.
2. Shrestha R, Hui SP, Chiba H: Analysis of Phosphatidylcholine Hydroperoxides in Plasma and Triglyceride-rich Lipoproteins using Orbitrap-Mass Spectrometry. 14th Asia-Pacific Federation for Clinical Biochemistry and Laboratory Medicine Congress, Taipei, Taiwan, 2016.11.

V. 研究活動

3. Hayasaka T, Sugawara M, Kudo M, Chiba H, Hui SP: Imaging Mass Spectrometry Revealed Distributions of Anthocyanin Species in Haskap. 64th Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics, San Antonio, USA, 2016.6.
4. Matsushita S, Masaki N, Sato K, Hayasaka T, Sugiyama E, Hui SP, Chiba H, Mase N, Setou M: Selective improvement of peptides imaging on tissue by supercritical fluid wash of lipids for matrix-assisted laser sorption/ionization mass spectrometry. 64th Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics, San Antonio, USA, 2016.6.
5. Hui SP, Okabe H, Shimizu C, Yamamoto M, Kikuchi R, Minami A, Imai H, Chen YF, Chiba H: Weaker seasonal variation in serum 25-hydroxyvitamin D levels in Japanese females in association with growing interests to skin whitening. 14th Asia-Pacific Federation for Clinical Biochemistry and Laboratory Medicine Congress, Taipei, Taiwan, 2016.11.
6. Tae Kawahara, Yukako Ueno, Tomomi Kita, Shojiro Yamasaki, Toshiyuki Hosokawa, Masaaki Kurasaki, Takeshi Saito: Changes of antioxidant enzymes related to acceleration of aging in the liver of Senescence-Accelerated Mice P10, 2016年6月27日札幌 ISEE-ISES AC 2016.
7. Yukako Ueno, Miki Komori, Tomomi Kita, Tae Kawahara, Shojiro Yamasaki, Masaaki Kurasaki, Takeshi Saito: Different effects of treatment with resveratrol on the metabolism of reactive oxygen species in normal and tumor cells, 2016年6月28日札幌 ISEE-ISES AC 2016.
8. Takeshi Saito, Masato Tanaka, Tomomi Kita, Yukako Ueno, Tae Kawahara, Shojiro Yamasaki, Toshiyuki Hosokawa, Shin Sato: Resveratrol intake during lactation attenuates lipogenesis in the liver of adult male rat offspring, 2016年6月29日札幌 ISEE-ISES AC 2016.
9. Shojiro Yamasaki, Go Kimura, Mai Ono, Yukie Sugii, Tomomi Kita, Tae Kawahara, Yukako Ueno, Shin Sato, Masaaki Kurasaki, Takeshi Saito: Effect of resveratrol administration to lactating mother rats on cholesterol metabolism in the mature phase of male rat offspring, 2016年6月29日札幌 ISEE-ISES AC 2016.
10. Tomomi Kita, Yukako Ueno, Tae Kawahara, Toshiyuki Hosokawa, Masaaki Kurasaki, Takeshi Saito: Study on the changes of autophagy in the heart of Streptozotocin-induced type 1 diabetes model rat and the improvement effect by azuki bean extract. 2016年6月29日札幌 ISEE-ISES AC 2016.
11. Takeshita Y, Higashihara M, Suzuki A, Boasen J, Yokosawa K: Temporal changes in brain activation during a rhythm perception. 31st International Congress of Psychology, Yokohama, 2016. 7.
12. Yokosawa K, Kimura K, Chitose R, Momiki T, Kuriki S: Alpha-band rhythm suppression during memory recall reflecting memory performance. Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC), 38th Annual International Conference of IEEE, Orland, FL, USA, 2016. 8.
13. Yokosawa K, Kimura K: Alpha-band modulation in sequential short-term memory encoding: comparison in young and aged participants. The 20th International Conference on Biomagnetism, Seoul, Korea, 2016.10.
14. Murakami Y, Satou H, Tamada K, Pihko E, Hari R, Yokosawa K: Appearance of the 8-10 Hz temporal-lobe tau rhythm during drowsiness. The 20th International Conference on Biomagnetism, Seoul, Korea, 2016.10.

V. 研究活動

15. Boasen J, Takeshita Y, Jousmäki V, Yokosawa K: Greater desynchronization of upper alpha during improvisational music performance planning. The 20th International Conference on Biomagnetism, Seoul, Korea, 2016.10.
16. Nyambe S, Serpell R, Yamauchi T: Equity in Health and Health Promotion: An adolescent Deaf-hearing substance abuse peer education project in Lusaka, Zambia. International Society of Environmental Epidemiology and International Society of Exposure Science- Asia Chapter Conference 2016, Hokkaido University, Sapporo, 2016.6.26-29. Poster Presentation.
17. Hao M, Jia LH, Yamauchi T: Effect of education and exercise intervention among overweight children in Northeast China. International Society of Environmental Epidemiology and International Society of Exposure Science- Asia Chapter Conference 2016, Hokkaido University, Sapporo, 2016.6.26-29.
18. Hasegawa J, Yamauchi T: Factors associated with stunting among children in Sinazongwe district, Zambia; a case control study. International Society of Environmental Epidemiology and International Society of Exposure Science- Asia Chapter Conference 2016, Hokkaido University, Sapporo, 2016.6.26-29.
19. Nyambe S and Yamauchi T: When youth take action: Incorporation of youth in Zambia's health care system. Zambia Research Seminar, Hokkaido University, 2016.5.27.
20. Umetsu C, Sakurai T, Yamauchi T, Miyazaki H, Mwale M: Climate Change, Agricultural Production and Nutrition: Towards Integrated Policy Design for Food Security. Japan Geoscience Union Meeting 2016, Makuhari Messe, 2016.5.22-26.

[国内学会]

1. 高橋遼地, 古川貴之, 三浦佑介, 恵 淑萍, 千葉仁志: 内部標準物質及び標品として用いるカルジオリピンの合成研究と定量分析へ向けた基礎的検討. 第56回日本臨床化学会年次学術集会, 熊本, 2016.12.
2. 古川貴之, 恵 淑萍, 比能 洋, 西村紳一郎, 千葉仁志: 脂質アルデヒド類の新規分析法—グライコブロッティング法によるアプローチ: 合成標品からリポソームまで. 第56回日本臨床化学会年次学術集会, 熊本, 2016.12.
3. 小林 悠, 馬 逸興, 中島進吾, 恵 淑萍, 千葉仁志: 脂肪滴と酸化ストレスが骨格筋に及ぼす影響に関する研究. 第56回日本臨床化学会年次学術集会, 熊本, 2016.12.
4. 古川貴之, 恵 淑萍, 山本祐輔, 榎田紘之, 小路明日香, 布田博敏, 千葉仁志: リゾリン脂質の新たな可能性: リゾホスファチジルエタノールアミンの合成とフッ素アナログへの展開. 第56回日本臨床化学会年次学術集会若手シンポジウム, 熊本, 2016.12.
5. 古川貴之, 恵 淑萍, 宮永 賢, 渡邊千夏, 布田博敏, 千葉仁志: スズを用いたリゾホスファチジルエタノールアミンの短工程合成法の開発とタンデム質量分析法における脱水シグナルに基づく位置異性体の簡便判別法. 日本分析化学会第65年会, 札幌, 2016.9.
6. 恵 淑萍, 八木亜希子, 宮永 賢, Shrestha R, 武田晴治, 神谷博文, 千葉仁志: LC/MSを用いたヒト胚培養後の培養液における脂肪酸分析. 第41回日本医用マススペクトル学会年会, 名古屋, 2016.9.
7. 布田博敏, 渡邊 貢, 岡部浩昭, 上甲紗愛, 三浦佑介, 恵淑萍, 伊 敏, 濱岡直裕, 三木恵美子, 千葉仁志: NASHモデルマウスによるマガキ抽出物の肝臓保護作用. 第23回日本未病システム学会総会, 福岡, 2016.11.

V. 研究活動

8. 布田博敏, 渡邊 貢, 岡部浩昭, 上甲紗愛, 三浦佑介, 惠淑萍, 伊 敏, 濱岡直裕, 三木恵美子, 千葉仁志: マガキ抽出物は NASH モデルマウスの肝臓において脂肪肝, 炎症, アポトーシス, 線維化を抑制する. 日本農芸化学会 2017 年度大会, 京都, 2017.3.
9. Takeda S, Subagyo A, Hui SP, Fuda H, Shrestha R, Sueoka K, Chiba H: Physical properties of low-density lipoprotein after oxidation or enzyme treatment. 第 54 回日本生物物理学会年会, つくば市, 2016.11.
10. 川原妙, 上野祐可子, 北朋美, 山崎尚二郎, 中西美貴, 細川敏幸, 藏崎正明, 齋藤健: 老化促進モデルマウス SAMP10 の肝臓における抗酸化酵素系の加齢に伴う変動, 2016 年 5 月 13 日 旭川 第 86 回日本衛生学会学術総会.
11. 上野祐可子, 小森幹育子, 北朋美, 川原妙, 山崎尚二郎, 藏崎正明, 齋藤健: PC12 細胞におけるレスベラトロールによる活性酸素代謝機能のメカニズムについて, 2016 年 5 月 14 日 旭川 第 86 回日本衛生学会学術総会.
12. 北朋美, 上野祐可子, 川原妙, 山崎尚二郎, 藏崎正明, 佐藤伸, 細川敏幸, 齋藤健: STZ 誘導 1 型糖尿病ラット心臓でのオートファジーの変化および小豆抽出物による改善効果, 2016 年 5 月 15 日 旭川 第 86 回日本衛生学会学術総会.
13. 山崎尚二郎, 小野舞, 木村豪, 杉井志衣, 上野祐可子, 川原妙, 北朋美, 細川敏幸, 佐藤伸, 齋藤健: 授乳期のレスベラトロール投与が成熟期の仔ラットの肝臓中脂肪酸合成に及ぼす影響仔ラットのコレステロール代謝に及ぼす影響, 2016 年 5 月 16 日 旭川 第 86 回日本衛生学会学術総会.
14. 川原妙, 上野祐可子, 北朋美, 山崎尚二郎, 中西美貴, 細川敏幸, 藏崎正明, 齋藤健: 老化促進モデルマウス SAMP10 における肝臓中の抗酸化酵素の加齢による変動.
15. 豊村暁, 横澤宏一, 下條暁司, 藤井哲之進, 栗城眞也: MRI 用非磁性装置を用いた下肢運動に関わる脳活動の評価. 第 55 回日本生体医工学会大会, 富山市, 2016. 4.
16. 竹下悠哉, 横澤宏一: 連続音列中に配したリズム逸脱知覚の性別・音楽経験による差異. 音楽知覚認知学会 平成 28 年度春季研究発表会, 福岡市, 2016. 5.
17. 松永理恵, 安田利典, Michelle Johnson-Motoyama, 杉野祐太, 竹下悠也, Pitoyo Hartono, 横澤宏一, 阿部純一: 調性スキーマの文化差: 日本人, 中国人, ベトナム人, インドネシア人, 北米人の比較. 音楽知覚認知学会 平成 28 年度春季研究発表会, 福岡市, 2016. 5.
18. Boasen J, Takeshita Y, Jousmäki V, Yokosawa K: An MEG compatible MIDI instrument for music performance experimentation. 第 31 回日本生体磁気学会大会, 金沢市, 2016. 6.
19. 村上優衣, 佐藤浩章, 劉青子, 千年涼太, Elina Pihko, Riitta Hari, 横澤宏一: α 波帯域の聴覚性脳律動 (τ 波) の抽出と情動による変調. 第 31 回日本生体磁気学会大会, 金沢市, 2016. 6.
20. 横澤宏一, 木村勁介, 市川辰也, 福原知樹, 高倉祐樹, 大槻美佳: 軽度認知症傾向と短期記憶成績及び α 波脳磁場律動変調の相関. 第 33 回日本脳電磁図トポグラフィー (JSBET2016), 第 15 回釧路ニューロサイエンスワークショップ (KNSW2016), 釧路市, 2016. 7.
21. 竹下悠哉, 横澤宏一: 楽曲中のリズム変化に対する聴取印象変化と脳応答の性差. 第 16 回日本音楽療法学会学術大会, 仙台市, 2016. 9.
22. Toyomura A, Yokosawa K, Kuriki S: Fluctuation of lower limb movement in the MRI bore: Different contributions of the cortical and subcortical locomotor region. 生体医工学シンポジウム 2016, 生体医工学シンポジウム 2016, 旭川市, 2016. 9.

V. 研究活動

23. 福田晋久, 谷川原綾子, 辻真太郎, 西本尚樹, 谷川琢海, 小笠原克彦: χ^2 値を用いた放射線技術学分野に関する特徴語抽出の試み. 第 72 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2016.4.
24. 辻真太郎, 福田晋久, 谷川原綾子, 川眞田実, 西本尚樹, 小笠原克彦: 放射線技術学用語集と教科書の重複調査. 第 72 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2016.4.
25. 谷川原綾子, 辻真太郎, 福田晋久, 谷川琢海, 小笠原克彦: 放射線技術学用語集構築に向けた領域間の重複語抽出と定義付与について. 第 72 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2016.4.
26. 長谷川慎, 青木智大, 花井敬里, 神田玲子, 小笠原克彦: Twitter における放射線と地域の関心度に関する分析. 第 20 回日本医療情報学会春季学術大会, 松江, 2016.6.
27. 谷川原綾子, 辻真太郎, 福田晋久, 西本尚樹, 小笠原克彦, 横井英人: 医用機器不具合用語集のハンドリングツール構築に向けた同意語候補の同定に関する検討. 第 20 回日本医療情報学会春季学術大会, 松江, 2016.6.
28. 小川美弥子, 山部秀子, 金子裕子, 小泉栄子, 長谷川久美子, 小笠原克彦: 病院給食業務におけるトラブル要因の ISM 法を用いた構造化. 第 54 回日本医療・病院管理学会学術総会, 東京, 2016.9.
29. 小川美弥子, 山部秀子, 金子裕子, 小泉栄子, 長谷川久美子, 小笠原克彦: ISM 法の病院給食提供業務リスクマネジメントへの適用. 第 12 回日本給食経営管理学会学術総会, 兵庫, 2016.11.
30. 谷 祐児, 藤原健佑, 鈴木哲平, 小笠原克彦: 中小規模民間病院における病院経営での医療情報システムの役割—アンケート調査およびヒアリング調査からの考察—. 第 44 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 大宮, 2016.10.
31. 北川 剛, 井上 剛, 藤原健祐, 谷川原綾子, 福田晋久, 西本尚樹, 小笠原克彦: コンジョイント分析による診療放射線技師を対象とした就労環境の選好に関する調査: 個人属性. 第 44 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 大宮, 2016.10.
32. 寺下貴美, 田村菜穂美, 小笠原克彦: 問題解決型学習に参加した学生の X 線撮影に対する概念の変化: Semantic differential 法. 第 44 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 大宮, 2016.10.
33. 藤原健祐, 谷川原綾子, 北川剛, 井上剛, 小笠原克彦: コンジョイント分析による診療放射線技術系学生の就労環境の選好に関する調査. 第 36 回医療情報学連合大会, 横浜, 2016.11.
34. 寺下貴美, 田村菜穂美, 浜田宏道, 小笠原克彦: 多変量解析における遺伝的アルゴリズムを利用した変数選択法: 社会人口統計から健康寿命に関連する因子発見の試み. 第 36 回医療情報学連合大会, 横浜, 2016.11.
35. 青木智大, 鈴木哲平, 辻真太郎, 小笠原克彦: 原発関連 Tweet における ReTweet と印象度の関係性分析. 第 36 回医療情報学連合大会, 横浜, 2016.11.
36. 谷祐児, 藤原健佑, 鈴木哲平, 小笠原克彦, 廣川博之: 中小規模民間病院経営改善における病院情報システムの役割に関する 考察—中小規模病院経営改善アンケート調査結果およびヒアリング調査 結果より—. 第 36 回医療情報学連合大会, 横浜, 2016.11.
37. 福田晋久, 辻真太郎, 鈴木哲平, 谷川原綾子, 上杉正人, 小笠原克彦: Convolutional Neural Network におけるマンモグラフィ装置品質管理用 ファントムを用いた画像認識. 第 36 回医療情報学連合大会, 横浜, 2016.11.
38. 谷川原綾子, 西本尚樹, 辻真太郎, 福田晋久, 谷川琢海, 上杉正人, 小笠原克彦, 横井英人: 医療機器不具合用語集における同義語抽出に向けた異義語除外法の検討. 第 36 回医療情報学連合大会, 横浜, 2016.11.

V. 研究活動

39. 鈴木哲平, 加我論志, 東川文博, 榎本尚司, 森山広行, 黄瀬信之, 谷祐児, 小笠原克彦: テレビとインターネットを活用した新たな健康見守りサービスの普及に関する調査—地域におけるアンケート調査結果より—. 第36回医療情報学連合大会, 横浜, 2016.11.
40. 森井康博, 石川智基, 鈴木哲平, 辻真太郎, 小笠原克彦: システムダイナミクスを用いた日本における理学療法士数の将来予測. 第36回医療情報学連合大会, 横浜, 2016.11.
41. 加我論志, 鈴木哲平, 東川文博, 榎本尚司, 森山広行, 黄瀬信之, 谷祐児, 小笠原克彦: 地上デジタル放送を利用した高齢者遠隔見守りサービスに対する支払意思額の分析. 第36回医療情報学連合大会, 横浜, 2016.11.
42. 土井俊祐, 小笠原克彦, 矢口浩平, 谷川琢海, 中村敦, 小林大介: 医療情報学における地理情報システム(GIS)の利活用. 第36回医療情報学連合大会, 横浜, 2016.11.
43. 下田智子, 鈴木哲平, 堤香織, 高橋紀子, 寒川美奈, 後藤輝明, 吉町昌子, 小笠原克彦, 良村貞子: 冬期における豪雪地域住民の年代別体組成および骨密度の実態—高齢者の筋肉量と骨密度に着目して—. 第23回日本未病システム学会学術総会, 福岡, 2016.11.
44. Peipei Wang, Wei Han, Taro Yamauchi: The association between breastfeeding practices and children's growth in suburban area of Northeast China. 31st Japan International Health Society, Kurume City Plaza, Fukuoka, 2016.12.3-4.
45. Sikopo Nyambe, Koji Hyashi, Joseph Zulu, Taro Yamauchi: Saitation, health and children and youth civic participation in peri-urban Lusaka, Zambia: Assessing social values and quality of life. 31st Japan International Health Society, Kurume City Plaza, Fukuoka, 2016.12.3-4.
46. 郝明, 韩威, 山内太郎: 中国東北部の農村小学生に対する肥満改善プログラムの効果の持続性—食育および運動介入1年間後のフォローアップ調査—. 第31回日本国際保健医療学会, 久留米シティプラザ, 福岡, 2016.12.3-4.
47. 大塚裕美子, 牛島健, 池見真由, SINTAWARDANI Neni, 山内太郎: インドネシア都市部に居住する子どもの健康・栄養状態と母親の衛生意識. 第31回日本国際保健医療学会, 久留米シティプラザ, 福岡, 2016.12.3-4.
48. 長堀智香子, 金城芳秀, Jean Paul TCUANI, 山内太郎: カメルーンの子どもの栄養不良と離乳食開始時期の関連. 第81回日本民族衛生学会総会, 女子栄養大学, 東京, 2016.11.26-27. 民族衛生 82 付録 pp. 110-111.
49. 佐藤香苗, 長谷川めぐみ, 神明子, 鈴木みずえ, 山内太郎: 認知症高齢者の安静時エネルギー消費量～認知機能別の比較と推定～. 日本生理人類学会第74回大会, 和倉温泉観光会館, 七尾, 2016.10.22-23.
50. 郝明, 贾丽红, 山内太郎: 中国東北部の農村小学生における栄養教育と運動介入による肥満改善の検証. 日本生理人類学会第73回大会, 大阪市立大学, 大阪, 2016.6.4-5.
51. Takeda S, Subagyo A, Hui S-P, Fuda H, Shrestha R, Sueoka K, Chiba H: Physical properties of low-density lipoprotein after oxidation or enzyme treatment 第54回日本生物物理学会年会, つくば市, 2016.11.

[地方会]

1. 古川貴之, 惠 淑萍, 比能 洋, 西村紳一郎, 千葉仁志: グライコブロットィング法に基づく脂質アルデヒドの新規解析法の開発. 第50回日本臨床検査医学会北海道支部総会, 旭川, 2016.11.

V. 研究活動

2. 布田博敏, 渡邊 貢, 岡部浩昭, 上甲紗愛, 三浦佑介, 惠 淑萍, 伊 敏, 濱岡直裕, 三木恵美子, 千葉仁志: NASH モデルマウスにおけるマガキ抽出物の抗肥満作用及びインスリン抵抗性改善作用. 第 11 回遺伝子栄養学研究, 北広島, 2016.9.
3. 櫻井俊宏, 武田晴治, Suchin Trirongjitmoah, 清水孝一, 惠 淑萍, 千葉仁志: 血中リポタンパク質の粒子径及び硬さの評価系開発. 第 11 回遺伝子栄養学研究会, 北海道北広島市, 2016.9.
4. 小川美弥子, 山部秀子, 金子裕子, 小泉栄子, 長谷川久美子, 小笠原克彦: 病院給食提供業務における問題構造図の解釈－ISM による構造図の MICMAC 分析による解釈－. 第 10 回日本医療情報学会北海道支部学術大会, 札幌, 2016.2.
5. 加我論志, 鈴木哲平, 東川文博, 榎本尚司, 森山広行, 黄瀬信之, 谷祐児, 小笠原克彦: インターネットと地上デジタル放送を活用した高齢者遠隔見守りサービスの経済性評価. 第 10 回日本医療情報学会北海道支部学術大会, 札幌, 2016.2.
6. 小林永一, 藤原健祐, 谷川琢海, 辻真太郎, 鈴木哲平, 小笠原克彦: 地理情報システムを用いた診療科毎の医療重心の算出－人口重心とし医療重心を比較した医療偏在の可視化－. 第 10 回日本医療情報学会北海道支部学術大会, 札幌, 2016.2.
7. 森井康博, 石川智基, 辻真太郎, 鈴木哲平, 小笠原克彦: 北海道における理学療法士数の地域偏在評価. 第 10 回日本医療情報学会北海道支部学術大会, 札幌, 2016.2.
8. 福田晋久, 辻真太郎, 鈴木哲平, 谷川原綾子, 上杉正人, 小笠原克彦: Convolutional Neural Network におけるマンモグラフィ装置品質管理用ファントムを用いた形態認識の試み. 第 10 回日本医療情報学会北海道支部学術大会, 札幌, 2016.2.
9. 山内太郎: 途上国都市部に居住する学童の体格と身体活動量, 2016 年度ヴィエンチャン調査科研会議, 帝京大学医学部, 東京, 2017.02.20.
10. 山内太郎, 萩原潤, 中澤港: パプアニューギニア狩猟採集民調査 2011-2016 の振り返りと今後の展開, 2016 年度狩猟採集民研究会, 北海道大学東京オフィス, 東京, 2017.02.14.
11. 萩原潤, 中澤港, 山内太郎: ギデラ住民の生活の現状, 2016 年度狩猟採集民研究会, 北海道大学東京オフィス, 東京, 2017.02.14.
12. 中澤港, 萩原潤, 山内太郎: 健康観の視点からみたギデラの伝統医療とその変容, 2016 年度狩猟採集民研究会, 北海道大学東京オフィス, 東京, 2017.02.14.
13. 大塚裕美子, 山内太郎: 調査報告と今後の展望 -Indonesia Bandung-. 総合地球環境学研究所 PR 研究ワークショップ, 北海道大学, 2016.12.10-11.
14. Sikopo Nyambe, Koji Hyashi, Taro Yamauchi: Saitation Value Chain Zambia Fieldsite 2016-2017. Research Institute For Humanity And Nature (RIHN) End of Year Meeting, Hokkaido University, 2016.12.10-11.
15. 山内太郎: 2016 年度研究報告, 子どもと地元団体のアクション・リサーチ. 総合地球環境学研究所 PR 研究ワークショップ, 北海道大学, 2016.12.10-11.
16. Nyambe S and Yamauchi T: Zambia: An Overview. Research Institute For Humanity And Nature (RIHN) Feasibility Study Workshop, Hokkaido University, 2016.5.21.
17. 山内太郎, 林耕次: 子どもので学校・地域のサニテーションを変える: アフリカ都市スラムの挑戦 (Field Research in Lusaka 2016). 総合地球環境学研究所 FS 研究ワークショップ, 北海道大学, 2016.5.21.

18. Yamauchi T: History of the concept and research of quality of life (QOL) and WHOQOL-BREF. Research Institute for Humanity and Nature (RIHN) feasibility study Workshop, Hokkaido University, 2015.4.22-23.

V. 研究活動

ii 外部資金等の獲得及び受入状況(平成28年度～平成30年度)

外部資金等の獲得状況

科学研究費補助金交付一覧

(単位:千円)

研究種目	新規 継続	研究代表者	研究課題名	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
				直接経費	間接経費	直接経費	間接経費	直接経費	間接経費
基盤研究(B)	継続	山内 太郎	狩猟採集社会の子どもの身体とフィットネス:人類進化の視座から子どもの健康を見直す	1,900	570				
基盤研究(B)	継続	石津 明洋	顕微鏡的多発血管炎の克服に向けた基礎・臨床包括的アプローチ	3,600	1,080				
基盤研究(B)	継続	石川 正純	線量勾配を考慮した新しい線量分布解析法の確立	7,700	2,310	2,400	0		
基盤研究(B)	継続	矢野 理香	脳卒中手浴ケアプログラムのランダム化試験による長期的効果の実証とガイドライン作成	1,400	420	1,300	0		
基盤研究(B)	継続	良村 貞子	病院と連携する在宅遠隔相談看護師のアセスメント能力向上プログラムの開発と検証	3,900	1,170	4,000	0		
若手研究(A)	継続	芳賀 早苗	分子標的治療薬の非侵襲的・時空間的モニタリングに向けた革新的イメージング技術開発	3,900	1,170	3,800	0	3,900	0
基盤研究(B)	新規	山口 博之	腔菌叢とメタボローム:クラミジア卵管線維化機構とPID診断バイオマーカーの探索	5,300	1,590	3,900	0	4,600	0
基盤研究(B)	新規	結城 美智子	福島原子力災害による長期避難者への健康支援と評価:アクションリサーチ	3,300	990	3,000	0	3,300	0
特別研究員 奨励費	新規	齋藤 健	妊娠期低栄養による母体への健康影響の細菌代謝物による改善	600	0	1,100	0		
特別研究員 奨励費	新規	松谷 悠佑	低線量率被ばく時における放射線感受性のモデル解析	700	0	600	0		
研究活動 スタート支援	新規	平山 憲吾	分子標的治療を受ける非小細胞肺癌患者の皮膚障害と生活行動困難及びQOLとの関連	700	360	0	0		
基盤研究(C)	継続	齊藤 展士	運動学習に寄与する姿勢制御の学習メカニズムと加齢の影響の解明	700	210	600	180		
基盤研究(C)	継続	堤 香織	ポリリン酸によって骨芽細胞の石灰化が促進する情報伝達分子メカニズムの解明	1,100	330	1,300	390		
基盤研究(C)	継続	武田 晴治	酸化によるLDL粒子の硬さの分布の変化と加齢の関係	1,700	510	1,000	300		
基盤研究(C)	継続	早坂 孝宏	質量分析イメージングを用いた慢性腎臓病の脂質定量解析	1,300	390				
基盤研究(C)	継続	松尾 淳司	クラミジア感染によって誘導される炎症応答の制御システムの探索	1,400	420	1,200	360		
基盤研究(C)	継続	加藤 千恵次	ダイナミックCTによる虚血性心疾患の定量評価と被ばく量軽減の試み	1,100	330	1,100	330		
基盤研究(C)	継続	進藤 ゆかり	長期にオピオイド鎮痛薬治療を受けている難治性非がん性慢性疼痛患者の生活体験の軌跡	1,200	360	700	210		
基盤研究(C)	継続	青柳 道子	終末期がん患者の家族間コミュニケーションを促進する看護師教育プログラムの構築	500	150	500	150	600	180

V. 研究活動

研究種目	新規 継続	研究代表者	題目	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度	
				直接経費	間接経費	直接経費	間接経費	直接経費	間接経費
挑戦的萌芽研究	継続	前島 洋	運動療法による中枢神経系退行抑制におけるエピソード的制御の解明	900	270	1,000	300		
挑戦的萌芽研究	継続	石津 明洋	糖尿病血管障害の発症における好中球細胞外トラップの関与について	1,400	420				
挑戦的萌芽研究	継続	塚本 美奈	リアルタイム感情分析による認知症高齢者のための快刺激コミュニケーション技術の開発	500	150	500	150		
若手研究 (B)	継続	本田 光	乳幼児を持つ母親の地域との関係性構築支援のための尺度開発	900	270				
基盤研究 (C)	新規	横澤 宏一	加齢および軽度認知症に伴う記憶成績低下メカニズムの脳磁場計測による探究	1,300	390	1,500	450	800	240
基盤研究 (C)	新規	寒川 美奈	寒冷環境における至適ストレッチングプログラムの確立	2,800	840	400	120	500	150
基盤研究 (C)	新規	布田 博敏	非アルコール性脂肪肝炎モデルマウスの疾病予防効果を有する抗酸化物質の探索	1,400	420	1,200	360	1,100	330
基盤研究 (C)	新規	伊達 広行	細胞周期を考慮した放射線被ばく影響の動態モデル解析	1,700	510	1,000	300	1,100	330
基盤研究 (C)	新規	大槻 美佳	言語理解の脳内機構	1,400	420	500	150	600	180
基盤研究 (C)	新規	傳田 健三	児童・青年期うつ病・双極性障害の発達精神病理学的診断法と包括的治療法の確立	1,000	300	900	270	800	240
挑戦的萌芽研究	新規	山内 太郎	子どもの力で学校・地域のサニテーションを変える：アフリカ都市スラムの挑戦	900	270	900	270	1,000	300
挑戦的萌芽研究	新規	山口 博之	アメーバ共生細菌原初クラミジアのレジオネラ撃退に関わる分子マシナリーの探索	900	270	900	270	900	270
挑戦的萌芽研究	新規	斎藤 健	必須微量元素, ポリフェノール併用による老化に伴う脳機能低下の制御法・予防法の開発	800	240	1,100	330	900	270
挑戦的萌芽研究	新規	藤田 和佳子	発展途上国向けスマートフォン運動型ドップラー胎児診断装置と教材の開発	1,400	420				
挑戦的萌芽研究	新規	佐伯 和子	エビデンスに基づいた家庭訪問実践力の発達曲線と発達の種類化—新人保健師を対象に—	1,100	330	1,300	390		
若手研究 (B)	新規	萬井 太規	体重心視覚フィードバックバランス練習の姿勢制御メカニズムへの効果の解明	1,400	420	700	210	600	180
若手研究 (B)	新規	大久保 寅彦	細菌由来シグナル分子 AI-2 が原生生物の代謝及び病原性に与える影響の解明	1,700	510	600	180		
若手研究 (B)	新規	下田 智子	食道癌患者の周術期から外来看護への継続した栄養評価の検証	800	240	800	240	800	240
若手研究 (B)	新規	吉田 一生	瞑想が外傷性脳損傷患者の脳活動, 認知機能に与える影響	900	270	900	270	700	210
基盤研究 (C)	継続	遠山 晴一	術後下肢キネマティクスが再建前十字靭帯の機能に与える影響に関する運動解析学的研究	800	240				
基盤研究 (C)	継続	渡辺 玲奈	確実な周産期救急医療環境確保のための総合周産期母子医療センター施設計画指針の構築	700	210				

V. 研究活動

研究種目	新規 継続	研究代表者	題目	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度	
				直接経費	間接経費	直接経費	間接経費	直接経費	間接経費
基盤研究 (C)	継続	鷺見 尚己	外来がん治療におけるオーラル マネジメントに基づいた看護実 践モデルの開発	400	120				
基盤研究 (C)	継続	野口 眞貴子	幼児を育てている母親の食生活 に関する研究	1, 100	330				
基盤研究 (C)	継続	安積 陽子	体動計による早産児の多動性・ 睡眠障害の評価と母親のメンタ ルヘルスに関する研究	1, 200	360				
基盤研究 (C)	継続	平野 美千代	転換期にある要支援高齢者の介 護予防ケアに効果的な社会活動 尺度の開発と有用性の検証	1, 100	330	800	240		
挑戦的萌芽研究	継続	芳賀 早苗	光による細胞機能制御による新 規細胞療法の開発	500	150				
若手研究 (B)	継続	吉田 祐子	日本における皮下注射前の皮膚 消毒実施の有無に関わる要因の 構造	400	120				

V. 研究活動

寄付金受入状況一覧

(単位：千円)

受入教員	受入金額	寄付者の名称
安積 陽子	1, 000	一般財団法人北海道開発協会
政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
山本 徹	500	ミズホ株式会社
政氏 伸夫	500	政氏 伸夫
佐藤 洋子	200	佐藤 洋子
藤川 恵子	200	藤川 恵子
政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
尾崎 倫孝	1, 000	株式会社メディカ出版
尾崎 倫孝	20, 000	【寄附分野】日昭アルミ工業株式会社
石津 明洋	200	公益財団法人伊藤医薬学術交流財団
政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
藤川 恵子	100	藤川 恵子
結城 美智子	800	公益財団法人政策医療振興財団
芳賀 早苗	2, 000	公益財団法人武田科学振興財団
尾崎 倫孝	300	有限会社クローバー薬局
遠山 晴一	4, 000	一般社団法人日本運動器科学会
政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
藤川 恵子	500	藤川 恵子
早坂 孝弘	1, 000	一般財団法人 糧食研究会
恵 淑萍	25	ミモッサ株式会社
政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
藤川 恵子	200	藤川 恵子
井上 馨	1, 000	株式会社山田養蜂場本社
政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
藤川 恵子	300	藤川 恵子
千葉 仁志	11, 000	【寄附分野】株式会社渡辺オイスター研究所
恵 淑萍	90	独立行政法人国立病院機構刀根山病院
高木 聡志	900	公益財団法人日立財団
藤川 恵子	300	藤川 恵子

V. 研究活動

受託研究受入状況一覧

(単位：千円)

研究題目	相手先	代表者	金額
28 保受1 改良版いす傾斜動作装置のアクティブバランスシーティング(ABS)理論に基づく検証および新規いす設計の指標策定・検証	(株)クオリ	岸上 博俊	270
28 保受2 金属系バイオマテリアルの生体機能化ー運動骨格系健康長寿の要ー	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構	山本 徹	4, 500
28 保受3 地域医療の質向上と看護職の健康管理のためのICT技術の開発とクラウドサービス活用の実証研究	官署支出官 北海道総合通信局 総務部長	矢野 理香	12, 038
28 保受4 経済成長下のアフリカにおける食品企業の子どもの対象とした栄養改善事業：CSVの観点からのインパクト評価	国立大学法人 東京大学	山内 太郎	507
28 保受5 COIプログラム COI拠点「食と健康の達人」拠点	国立研究開発法人 科学技術振興機構	小笠原 克彦	16, 000
28 保受6 食品機能性成分の吸収・活性評価プラットフォームの構築	公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター	森山 隆則	3, 000
28 保受7 地域自律型の次世代型・水インフラマネジメントシステムへの転換(地域自律型水管理システム構築に向けた分析と技術パッケージの開発)	国立研究開発法人 科学技術振興機構	山内 太郎	4, 951
28 保受8 札幌市産後ケア事業を利用した女性の認識	一般社団法人 北海道助産師会	野口 眞貴子	140

V. 研究活動

共同研究受入状況一覧

(単位：千円)

研究題目	相手先	代表者	金額
28保共1 医療用放射線検出器の開発に関する研究	株式会社トクヤマ	石川 正純	1, 100
28保共2 種々の病態におけるビルベリーエキスの効果とその機構の解明	株式会社わかさ生活	尾崎 倫孝	2, 000
28保共3 肝疾患における血清脂質解析	デンカ生研株式会社	千葉 仁志	500
28保共4 健康食品素材の抗肥満効果に関する研究	日生バイオ株式会社	惠 淑萍	110
28保共5 アロニア及びハスカップの脂質代謝効果に関する研究	公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター	早坂 孝宏	1, 595

V. 研究活動

その他外部資金等受入状況一覧

(単位：千円)

研究題目	相手先	代表者	金額
28 保受事1 日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)(Aコース:科学技術体験コース)	国立研究開発法人 科学技術振興機構	浅賀 忠義	1240
28 保受事2 ひらめき☆ときめきサイエンス「ようこそ不思議な細菌の世界へ2016」	独立行政法人 日本学術振興会	山口 博之	257
28 保補1 (研究者集積)高度脂質分析ラボを拠点とする食と運動による健康機能改善を支援する新規技術の開発(地域イノベーション戦略支援プログラム「北大リサーチ&ビジネスパーク」)	官署支出官文部科学省 大臣官房会計課長	惠 淑萍	18,427
28 保補2 (機器共用化)高度脂質分析ラボを拠点とする地域・広域・国際ネットワーク形成(地域イノベーション戦略支援プログラム「北大リサーチ&ビジネスパーク」)	官署支出官文部科学省 大臣官房会計課長	惠 淑萍	10,740
ノーステック財団助成事業7887000106: 津久井 隆行:北海道産大麦若葉エキスの抗肥満効果に関する実証研究	公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター	津久井 隆行	3,000
ノーステック財団助成事業7887000206: 尾崎 倫孝:慢性肝疾患・肝障害を標的とした機能性食品スクリーニング法の開発	公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター	尾崎 倫孝	2,000
ノーステック財団助成事業7887000306: 石川 正純:密封小線源治療のためのリアルタイム品質保証システムの開発	公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター	石川 正純	4,000

VI. 教育活動

i 大学院担当教員一覧

■大学院担当教員教員一覧 (修士課程)

保健科学コース・生体量子科学

教授 山本 徹	1) 水分子ダイナミクス解析による生理機能の画像 2) MR アーチファクトフリーのインプラントの開発 3) MRI 検査安全性に関する研究
教授 伊達 広行	1) 生体組織における放射線エネルギー付与過程シミュレーション 2) 生体の放射線被曝効果に関する統計的解析と損傷動態の解明 3) 放射線治療における最適分割照射の検討
教授 神島 保	1) 超音波や MR 画像による炎症性関節疾患の活動性定量評価に関する研究 2) 超音波装置の機器間キャリブレーションに関する研究 3) 単純写真による病変抽出に関する研究 4) 仮想的臓器体積測定

保健科学コース・生態情報科学

特任教授 三神 大世	1) 心疾患患者の左室拡張機能の非侵襲的評価 2) 心臓形態・機能の加齢変化の心エコーによる検討 3) 超音波による動脈硬化と血管機能の評価
教授 山口 博之	1) ヒト病原細菌の細胞内持続感染機構とその分子基盤 2) 自然環境におけるヒト病原細菌の適応戦略とその分子機構 3) 環境微生物共生系モデルの構築とモニタリングシステムの開発
教授 石津 明洋	1) 血管炎の病理と病態 2) 生体防御システムとその破綻に関する研究 3) 免疫細胞の機能解析
教授 惠 淑萍	1) 過酸化脂質代謝に関する研究 2) 生理活性物質に関する研究 3) バイオマーカーの探索
教授 尾崎 倫孝	1) ストレスに対する生体応答と適応におけるメカニズムの解析 2) 肝臓を中心とした様々な病態の分子生物学的解析 3) 「光」を利用した非侵襲的生体イメージングによる生体機能・生体環境の時空間的評価法の開発と医療への応用 4) 糖尿病性網膜症の発症予防に関する研究
准教授 政 氏伸夫	1) 血液塗抹標本の染色と形態観察に関する医療工学的研究 2) 検査検体の長時間保管に関する医療工学的研究 3) ヘモグロビン F 陽性赤血球に関する研究

VI. 教育活動

保健科学コース・リハビリテーション科学

教授 山 中 正 紀	1) 膝前十字靭帯損傷の予防に関する研究 2) 体幹の安定性と体幹深部筋の機能に関する研究 3) 変形性膝関節症における姿勢制御に関する研究
教授 浅 賀 忠 義	1) 姿勢制御のメカニズムに関する研究 2) 運動学習と定量的評価に関する研究 3) 加齢および神経疾患のバランス障害に関する研究
教授 遠 山 晴 一	1) 運動器リハビリテーションに関する研究 2) アスレチックリハビリテーションに関する研究 3) 腱・靭帯組織の生物学および生体力学
教授 前 島 洋	1) 運動・学習にともなうシナプス機能修飾に関する研究 2) 高齢者のヘルスプロモーションと退行変性予防に関する研究 3) 高齢者における姿勢制御と転倒予防に関する研究
教授 井 上 馨	1) 生理的多型性を用いた高齢者の身体活動の研究 2) 日常生活における運動器の機能解剖学的研究 3) 高眼圧モデルマウスを用いた緑内障の研究
教授 傳 田 健 三	1) 統合失調症・気分障害・神経症に対するリハビリテーション 2) 自閉症・アスペルガー障害・ADHD に対するリハビリテーション 3) 児童・青年期精神障害に対する新しいリハビリテーションの探求
教授 村 田 和 香	1) 作業療法の理論と実践に関する研究 2) 老年期作業療法の効果に関する研究 3) 健康およびウェル・ビーイングへの作業の寄与に関する研究
教授 境 信 哉	1) 大脳における視覚のメカニズムに関する研究 2) 高次脳機能障害患者を対象としたリハビリテーション効果研究とドライビング評価研究 3) 大脳性視覚障害児の視覚評価とリハビリテーション
准教授 寒 川 美 奈	1) スポーツ傷害の発生メカニズムと予防に関する研究 2) 運動療法の効果に関する研究 3) ウィメンズヘルスに関する研究(骨盤底筋トレーニング有効性の検証)

保健科学コース・健康科学

教授 千 葉 仁 志	1) リポ蛋白, 過酸化脂質, 生理活性脂質の研究 2) バイオマーカー・検査試薬・バイオセンサーの開発 3) 機能性食品の研究
教授 齋 藤 健	1) 環境要因による継世代影響の解明 2) 微量元素やサプリメント摂取によるエピジェネティックな影響の解明 3) 老化制御に係わる環境因子の同定と老化制御機構の解明
教授 横 澤 宏 一	1) 記憶や認知機能(音楽認知, 時間感覚など)の無侵襲計測とイメージング 2) 電気生理学的手法による内因性脳活動(感情や衝動, ストレスなど)の定量計測に関する研究 3) 高次脳機能情報の医工学的応用に関する研究
教授 小笠原 克彦	1) 医療プロセスおよび医療連携フローに関する研究 2) 遠隔保健システムの開発及び評価に関する研究 3) 医療資源・医療技術の社会経済評価に関する研究
教授 山 内 太 郎	○海外フィールド調査によって人々の健康増進・幸福に資する 1) 国際保健学: ボトムアップ型の人類的フィールド調査研究 2) 人類生態学: 生態学的アプローチによる集団の栄養適応を評価 3) 子どもの成長, 食・栄養, 身体活動, 体力, QOL, 幸福
准教授 大 槻 美 佳	1) 高次脳機能障害(失語, 失行, 失認, 記憶障害等)の臨床研究 2) 機能画像, 眼球運動解析装置等を用いた高次脳機能のメカニズム解明 3) 言語の脳内メカニズムに関する研究
准教授 荒 木 敦 子	1) 環境化学物質曝露による健康影響に関する疫学研究 2) 環境と子どもの健康に関する出生コホート研究 3) 室内空気質と居住者の健康に関する疫学研究

VI. 教育活動

看護学コース・看護学 公衆衛生看護学 助産学 高度実践看護学

教授 良村 貞子	1) 看護職者の法的責任に関する日米比較 2) 学生の実践能力を高める教育方略に関する研究 3) 保健医療福祉における専門職者間の連携と役割分担に関する研究
教授 佐伯 和子	1) 地域看護アセスメントと政策 2) 地域保健従事者のキャリア発達と現任教育 3) 高齢社会における高齢者の健康とヘルスプロモーション
教授 佐川 正	1) 札幌市の産婦人科救急における助産師による電話相談事業の現状と課題 2) 北海道における助産師外来の実態調査 3) フリースタイル分娩が産科的諸因子に与える影響に関する研究
教授 佐藤 洋子	1) 小児の自律性を支援する看護スキルの開発 2) 小児に対する情報提供と看護スキルに関する研究 3) 健康問題を有する小児と家族の支援に関する研究
教授 尾崎 倫孝	1) ストレスに対する生体応答と適応におけるメカニズムの解析 2) 肝臓を中心とした様々な病態の分子生物学的解析 3) 「光」を利用した非侵襲的・経時的生体イメージングによる生体機能・生体環境評価と創薬・医療への応用 4) 糖尿病性網膜症の発症予防に関する研究
教授 結城 美智子	1) 在宅療養者と家族介護者への支援に関する研究 2) がん患者の化学療法に伴う家族への抗がん剤曝露予防 3) 地域高齢者の介護予防に関する研究 4) 災害後の高齢者の生活と健康に関する研究
教授 傳田 健三	1) 統合失調症・気分障害・神経症に関する脳科学的研究 2) 自閉症・アスペルガー障害・ADHDに関する脳科学的研究 3) 児童・青年期精神障害に関する脳科学的研究
教授 齋藤 健	1) 環境要因による継世代影響の予防 2) 微量元素やサプリメント摂取によるエピジェネティックな影響の解明 3) 老化を制御に係わる環境因子の同定と老化制御機構の解明
教授 小笠原 克彦	1) 看護学領域の言語処理・知識処理に関する研究 2) 遠隔保健システムの開発及び評価に関する研究 3) 看護資源・看護技術の社会経済評価に関する研究
教授 山内 太郎	○海外フィールド調査によって人々の健康増進・幸福に資する 1) 国際保健学：ボトムアップ型の人類学的フィールド調査研究 2) 人類生態学：生態学的アプローチによる集団の栄養適応を評価 3) 子どもの成長、食・栄養、身体活動、体力、QOL、幸福
准教授 宮島 直子	1) 精神看護技術の開発と効果に関する研究 2) 看護職者のメンタルヘルスに関する研究 3) 看護場面におけるコミュニケーション・チャンネルの研究
准教授 野口 眞貴子	1) 出産とその後の母子の健康に関するパースコホート研究 2) 途上国の母子保健に関する国際保健学研究 3) 出産体験に関する質的、量的研究
准教授 大槻 美佳	1) 認知機能（高次脳機能）に関する研究 2) 各種神経疾患の認知機能（高次脳機能）に関する研究
准教授 安積 陽子	1) 乳幼児の睡眠覚醒リズムの発達に関する研究 2) 極低出生体重児とその母親への支援に関する研究 3) 助産師教育に関する研究
准教授 矢野 理香	1) 看護技術の成果モデル開発と効果に関する研究 2) 熟練看護師の技の可視化に関する研究 3) 看護技術教育の方法論と効果に関する研究
准教授 鷲見 尚己	1) 退院支援、移行ケア、地域連携におけるプログラム開発と標準化 2) 外来看護、継続看護におけるケアマネジメントに関する研究 3) がん患者とその家族への療養生活支援に関する研究 4) 循環器疾患患者のリハビリテーションと健康教育に関する研究
准教授 平野 美千代	1) 要支援高齢者の社会活動に関する支援プログラムの開発 2) 在宅高齢者への効果的な介護予防ケアに関する研究 3) 行政機関に勤める保健師の実践および能力に関する研究 4) 修士課程における公衆衛生看護学の基礎教育に関する研究

VI. 教育活動

■大学院担当教員教員一覧(博士後期課程)

保健科学コース・先進医療科学領域

教授 山本 徹	1) 水分子ダイナミクス解析による生理機能の画像 2) MR アーチファクトフリーのインプラント材の開発 3) MRI 検査安全性に関する研究
教授 伊達 広行	1) 生体組織中の放射線エネルギー付与過程シミュレーション 2) 生体細胞の放射線被曝効果に関する統計的解析と損傷動態の解明 3) 放射線治療における効果的照射法の検討
教授 神島 保	1) 超音波やMR画像による炎症性関節疾患の活動性定量評価に関する研究 2) 超音波装置の機器間キャリブレーションに関する研究 3) 単純写真による病変抽出に関する研究 4) 仮想的臓器体積測定
特任教授 三神 大世	1) 心疾患患者の左室拡張機能の非侵襲的評価 2) 心臓形態・機能の加齢変化の心エコーによる検討 3) 超音波による動脈硬化と血管機能の評価
教授 山口 博之	1) ヒト病原細菌の細胞内持続感染機構とその分子基盤 2) 自然環境におけるヒト病原細菌の適応戦略とその分子機構 3) 環境微生物共生系モデルの構築とモニタリングシステムの開発
教授 石津 明洋	1) 血管炎の病理と病態 2) 生体防御システムとその破綻に関する研究 3) 免疫細胞の機能解析
教授 恵 淑萍	1) 過酸化脂質代謝に関する研究 2) 脂肪酸に関する研究 3) プラズマローゲン代謝に関する研究
教授 尾崎 倫孝	1) ストレスに対する生体応答と適応におけるメカニズムの解析 2) 肝臓を中心とした様々な病態の分子生物学的解析 3) 「光」を利用した非侵襲的生体イメージングによる生体機能・生体環境の時空間的評価法の開発と医療への応用 4) 糖尿病性網膜症の発症予防に関する研究
准教授 政 氏 伸 夫	1) 血液塗抹標本の染色と形態観察に関する医療工学的研究 2) 検査検体の長時間保管に関する医療工学的研究 3) ヘモグロビンF陽性赤血球に関する研究
客員教授 (放射線医学総合研究所) 辻 比呂志	1) 粒子線治療の臨床効果に関する研究 2) 放射線治療における先進技術に関する研究

VI. 教育活動

保健科学コース・総合健康科学領域

教授 山 中 正 紀	1) 膝前十字靭帯損傷の予防に関する研究 2) 体幹の安定性と体幹深部筋の機能に関する研究 3) 変形性膝関節症における姿勢制御に関する研究
教授 浅 賀 忠 義	1) 姿勢制御と運動学習に関する研究 2) 筋シナジーとシナジー間の協調性に関する研究 3) バランス障害に対するリハビリテーション
教授 遠 山 晴 一	1) 前十字靭帯損傷に対するリハビリテーション 2) スポーツ傷害に関するバイオメカニクス 3) 腱・靭帯組織の生物学および生体力学
教授 前 島 洋	1) 運動・学習にともなうシナプス機能修飾に関する研究 2) 神経栄養因子によるシナプス可塑性に関する研究 3) 高齢者のヘルスプロモーションと退行変性予防に関する研究
教授 傳 田 健 三	1) 統合失調症・気分障害・神経症に対するリハビリテーション 2) 自閉症・アスペルガー障害・ADHD に対するリハビリテーション 3) 児童・青年期精神障害に対する新しいリハビリテーションの探求
教授 村 田 和 香	1) 作業療法の理論と実践に関する研究 2) 老年期作業療法の効果に関する研究 3) 健康およびウェル・ビーイングへの作業の寄与に関する研究
教授 境 信 哉	1) 大脳における視覚のメカニズムに関する研究 2) 高次脳機能障害患者を対象としたリハビリテーション効果研究とドライビング評価研究 3) 大脳性視覚障害児の視覚評価とリハビリテーション
准教授 寒 川 美 奈	1) スポーツ傷害の発生メカニズムと予防に関する研究 2) ストレッチングの有効性に関する研究 3) ウィメンズヘルスに関する研究(骨盤底筋トレーニング有効性の検証)
教授 千 葉 仁 志	1) リポ蛋白, 過酸化脂質, 生理活性脂質の研究 2) バイオマーカー・検査試薬・バイオセンサーの開発 3) 機能性食品の研究
教授 齋 藤 健	1) 環境要因による継世代影響の解明 2) 微量元素やサプリメント摂取によるエピジェネティックな影響の解明 3) 老化制御に係わる環境因子の同定と老化制御機構の解明
教授 横 澤 宏 一	1) ヒトの認知機能の無侵襲計測とイメージング 2) 高次脳機能の読み出しと工学的応用 3) 脳機能情報の時空間解析による精神状態評価の基礎的研究
教授 小笠原 克彦	1) 医療プロセスおよび医療連携フローに関する研究 2) 遠隔保健システムの開発及び評価に関する研究 3) 医療資源・医療技術の社会経済評価に関する研究
教授 山 内 太 郎	○海外フィールド調査によって人々の健康増進・幸福に資する 1) 国際保健学：ボトムアップ型の人類学的フィールド調査研究 2) 人類生態学：生態学的アプローチによる集団の栄養適応を評価 3) 子どもの成長, 食・栄養, 身体活動, 体力, QOL, 幸福
准教授 大 槻 美 佳	1) 高次脳機能障害(失語, 失行, 失認, 記憶障害等)のメカニズム解明 2) 言語の脳内メカニズムの学際的研究 3) 神経心理学的方法と機能画像・電気生理学的な方法等の統合による高次脳機能解明
准教授 荒 木 敦 子	1) 環境化学物質曝露による健康影響に関する疫学研究 2) 環境と子どもの健康に関する出生コホート研究 3) 室内空気質と居住者の健康に関する疫学研究

VI. 教育活動

看護学コース・看護科学領域

教授 良村 貞子	1) 看護職者の法的責任に関する日米比較 2) 学生の实践能力を高める教育方略に関する研究 3) 保健医療福祉における専門職者間の連携と役割分担に関する研究
教授 佐伯 和子	1) 地域看護アセスメントと政策 2) 地域保健従事者のキャリア発達と現任教育 3) 高齢社会における高齢者の健康とヘルスプロモーション
教授 佐川 正	1) フリースタイル分娩が産科的諸因子に与える影響 2) 過期妊娠・予定日超過妊娠とその対策 3) 北海道の産科施設集約による助産師業務についての研究
教授 尾崎 倫孝	1) ストレスに対する生体応答と適応におけるメカニズムの解析 2) 肝臓を中心とした様々な病態の分子生物学的解析 3) 「光」を利用した非侵襲的生体イメージングによる生体機能・生体環境の時空間的評価法の開発と医療への応用 4) 糖尿病性網膜症の発症予防に関する研究
教授 結城 美智子	1) 在宅療養者と家族介護者への支援に関する研究 2) がん患者の化学療法に伴う家族への抗がん剤曝露予防 3) 地域高齢者の介護予防に関する研究 4) 災害後の高齢者の生活と健康に関する研究
教授 傳田 健三	1) 統合失調症・気分障害・神経症に関する脳科学研究 2) 自閉症・アスペルガー障害・ADHDに関する脳科学研究 3) 児童・青年期精神障害に関する脳科学研究
教授 齋藤 健	1) 環境要因による継世代影響の予防 2) 微量元素やサプリメント摂取によるエピジェネティックな影響の解明 3) 老化制御に係わる環境因子の同定と老化制御機構の解明
教授 小笠原 克彦	1) 看護学領域の言語処理・知識処理に関する研究 2) 遠隔保健システムの開発及び評価に関する研究 3) 看護資源・看護技術の社会経済評価に関する研究
教授 山内 太郎	○海外フィールド調査によって人々の健康増進・幸福に資する 1) 国際保健学：ボトムアップ型の人類学的フィールド調査研究 2) 人類生態学：生態学的アプローチによる集団の栄養適応を評価 3) 子どもの成長、食・栄養、身体活動、体力、QOL、幸福
准教授 宮島 直子	1) 精神に障害がある人の発症前生活エピソードに関する質的研究 2) 高齢者の精神機能を高める看護コミュニケーション・スキルの開発
准教授 野口 眞貴子	1) 出産とその後の母子の健康に関するバースコホート研究 2) 途上国の母子保健に関する国際保健学研究 3) 出産体験に関する質的、量的研究
准教授 大槻 美佳	1) 高次脳機能障害（失語、失行、失認、記憶障害等）のメカニズム解明 2) 言語の脳内メカニズムの学際的研究 3) 神経心理学的方法と機能画像・電気生理学的な方法等の統合による高次脳機能解明
准教授 安積 陽子	1) 極低出生体重児とその母親への支援に関する研究 2) 乳幼児の睡眠覚醒リズムと育児ストレスに関する研究
准教授 矢野 理香	1) 看護ケアの成果モデル開発と効果に関する研究 2) 熟練看護師の技の可視化に関する研究 3) 看護技術教育の方法論と効果に関する研究
准教授 鷺見 尚己	1) 退院支援、移行ケア、地域連携におけるプログラム開発と標準化 2) 外来看護、継続看護におけるケアマネジメントに関する研究 3) がん患者とその家族への療養生活支援に関する研究 4) 循環器疾患患者のリハビリテーションと健康教育に関する研究
准教授 平野 美千代	1) 要支援高齢者の社会活動に関する支援プログラムの開発 2) 在宅高齢者への効果的な介護予防ケアに関する研究 3) 行政機関に勤める保健師の実践および能力に関する研究 4) 修士課程における公衆衛生看護学の基礎教育に関する研究

VI. 教育活動

ii 保健科学院卒業研究課題一覧

大学院修士課程論文・研究課題一覧

【保健科学コース】

科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
健康科学	青木 智大	放射線関連用語における印象度の地域性と情報伝播の関連性 —原子力発電所関連 Tweet による分析—	小笠原克彦 教授	伊達 広行 教授
リハビリテーション科学	新井 言加	慢性疼痛の心理および社会的要因に関する臨床的研究	傳田 健三 教授	村田 和香 教授
リハビリテーション科学	五十嵐 将斗	異なる足部接地パターンにおいて、回内足及び回外足が足部 kinematics に与える影響の検討	山中 正紀 教授	遠山 晴一 教授
リハビリテーション科学	石田 優子	腸腰筋ストレッチングが胸腰椎・骨盤アライメントへ与える効果の検証	寒川 美奈 准教授	遠山 晴一 教授 山中 正紀 教授
生体量子科学	市川 翔太	Computer-based Method for Assessment of Joint Space Narrowing in Patients with Rheumatoid Arthritis (関節リウマチ患者における関節裂隙狭小化評価ソフトウェアの開発)	神島 保 教授	石津 明洋 教授
リハビリテーション科学	井野 拓実	変形性膝関節症の病態運動の解明および力学的ストレス評価システムの構築	山中 正紀 教授	神島 保 教授
健康科学	梅津 里美	Identification and Characterization of Two Novel Antioxidants Isolated from the Pacific Oyster (マガキ由来の2つの新規抗酸化物質の探索とその抗酸化能)	千葉 仁志 教授	良村 貞子 教授
リハビリテーション科学	大須賀 聡	体幹回旋モーメントが体幹ローカル筋の神経筋制御に与える影響について —健康者と慢性腰痛症例の比較—	山中 正紀 教授	惠 淑萍 教授
リハビリテーション科学	大場 健裕	異なる強度のコンスタントトルクストレッチングが足底屈筋力学的特性へ与える影響	寒川 美奈 准教授	山中 正紀 教授
生体量子科学	沖野 太一	Assessment of Radiographic Joint Space Narrowing in Rheumatoid Arthritis (単純X線写真における関節リウマチ患者の関節裂隙狭小化評価)	神島 保 教授	神島 保 教授
生体量子科学	押野見 一哉	Scanning Parameter Dependence of Nerve Fiber Depiction Accuracy in Diffusion Spectrum Imaging (拡散スペクトル画像における神経線維描出精度の撮像パラメータ依存性)	山本 徹 教授	石津 明洋 教授
健康科学	加我 論志	インターネットと地上デジタル放送を活用した高齢者遠隔見守りサービスの経済性評価	小笠原克彦 教授	神島 保 教授
健康科学	郭 先蒼	Dermal Senescence Caused by Hepatic Steatosis (脂肪肝誘導性皮膚老化に関する研究)	千葉 仁志 教授	岡田 一範 助教
リハビリテーション科学	片岡 義明	下肢陽圧式トレッドミルにおける免荷が歩行時の下肢三次元キネマティクスに及ぼす影響	遠山 晴一 教授	堤 香織 助教
生体量子科学	金田 貴彦	MRIにおける金属アーチファクト予測法の開発	山本 徹 教授	神島 保 教授

VI. 教育活動

科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
健康科学	川原 妙	Elucidation of the mechanism of changes in the antioxidant function with the aging in the liver of senescence accelerating mouse P10 (SAMP10) (老化促進モデルマウス SAMP10 の加齢に伴う肝臓における抗酸化機能の変動とそのメカニズムの解明)	齋藤 健 教授	石津 明洋 教授
生体量子科学	菊地 侑	MRI 検査時の発熱事故の電磁界シミュレーションによる解析	山本 徹 教授	神島 保 教授
生体情報科学	喜田 真由子	心エコー法による肺高血圧症の診断と病型分類の研究	三神 大世 特任教授	岡田 一範 助教
生体量子科学	木村 亮朗	放射線照射下の細胞生存率曲線に関する検討とナノドシメトリに向けた水中電子衝突断面積の評価	伊達 広行 教授	堤 香織 助教
健康科学	小林 悠	脂肪滴と酸化ストレスが骨格筋に及ぼす影響に関する研究	千葉 仁志 教授	惠 淑萍 教授
リハビリテーション科学	呉 瑕	Adaptation of postural control while standing on a narrow unfixed base of support (狭く非固定の支持基底面上における立位姿勢制御の適応について)	浅賀 忠義 教授	萬井 太規 助教
生体量子科学	齋藤 克己	Relationship between power Doppler grade and the pathological blood vessel features in rheumatoid arthritis (関節リウマチにおける超音波パワードブラ画像評価と病理学的血管評価との関係性)	神島 保 教授	横澤 宏一 教授
リハビリテーション科学	齋藤 優輝	スリングを用いた体幹筋エクササイズ筋電図学的解析	山中 正紀 教授	寒川 美奈 准教授
リハビリテーション科学	佐藤 祐樹	パーキンソン病患者の静的立位保持および安定性限界に傾斜台立位が与える即時効果	浅賀 忠義 教授	萬井 太規 助教
リハビリテーション科学	鈴森 雄貴	投球動作のステップ脚挙上時における姿勢の違いが接地時フォームに及ぼす影響	寒川 美奈 准教授	遠山 晴一 教授 山中 正紀 教授
生体情報科学	高橋 遼地	質量分析によるカルジオリピンの定量法の開発と応用	惠 淑萍 教授	千葉 仁志 教授 古川 貴之 助教
生体情報科学	瀧 圭介	膣スワブからのクラミジアの検出と感染拡大を規定する要因の探索 - 炎症の程度と菌叢について	山口 博之 教授	松尾 淳司 講師 大久保寅彦 助教
リハビリテーション科学	田中 晨太郎	予測的な反復後方ステップ練習による非予測的外乱時の短期学習効果	浅賀 忠義 教授	萬井 太規 助教
リハビリテーション科学	鶴喰 涼	ランニングによる異強度ウォームアップがジャンプパフォーマンスへ与える経時的変化について	寒川 美奈 准教授	遠山 晴一 教授 山中 正紀 教授
リハビリテーション科学	馬場 周	片脚着地動作と他の動作課題間における体幹、骨盤傾斜角度および膝関節外反モーメントの関係性	山中 正紀 教授	遠山 晴一 教授
生体量子科学	広島 裕治	Quantification of myocardial blood flow with ¹¹ C-hydroxyephedrine dynamic PET: Comparison with ¹⁵ O-H ₂ O PET (¹¹ C-hydroxyephedrine PET による心筋血流量の試み: ¹⁵ O-H ₂ O PET による検証)	加藤千恵次 教授	山本 徹 教授
生体情報科学	米田 千夏	アメーバとその細胞内共生細菌の相互作用について - 共生細菌による宿主細胞アクチンの調節とレジオネラの感染制御 -	山口 博之 教授	松尾 淳司 講師 大久保寅彦 助教

VI. 教育活動

科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
リハビリテーション科学	三上 兼太郎	ハムストリングス肉離れによる等速性膝関節屈曲筋力発揮特性への影響	寒川 美奈 准教授	遠山 晴一 教授 山中 正紀 教授
生体情報科学	村山 迪史	肺動脈逆流速度を用いた肺動脈拡張期圧と肺動脈楔入圧の非侵襲的推定法の研究	三神 大世 特任教授	岡田 一範 助教
生体情報科学	山川 和也	辛味成分カプサイシンにおける Chlamydia trachomatis の細胞内増殖抑制機構の解明	山口 博之 教授	松尾 淳司 講師 大久保寅彦 助教
生体情報科学	山田 真衣	新規ホスファチジルセリン/プロトロンビンモノクローナル抗体を用いた血栓症モデル動物の作製	石津 明洋 教授	政氏 伸夫 准教授
生体情報科学	米田 球士	心不全患者における低心拍出量と静脈圧上昇の肝・腎障害との関係	三神 大世 特任教授	岡田 一範 助教
健康科学	森井 康博	System Dynamics を用いた理学療法士数の将来予測と偏在評価	小笠原克彦 教授	山中 正紀 教授
生体情報科学	山崎 すみれ	比較ゲノム解析から紐解く巨大ウイルスを介したクラミジアの進化-特にミミウイルス科(Mimiviridae) 巨大ウイルスは環境クラミジアの多様性進化の原動力となる	山口 博之 教授	松尾 淳司 講師 大久保寅彦 助教
生体情報科学	森 綾子	BDNF の血管新生シグナル経路における angiogenin の関与	石津 明洋 教授	政氏 伸夫 准教授

VI. 教育活動

【看護学コース】

科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
公衆衛生看護学	池田 雄二郎	父親の育児に対する母親の満足感と母親のウェルビーイングの関係—未就学児の親を対象に—	佐伯 和子 教授	安積 陽子 准教授
公衆衛生看護学	磯野 晃照	津波の災害サイクルにおける中学生の防災行動—北海道東部太平洋沿岸部地域における調査—	佐伯 和子 教授	本田 光 助教
助産学	犬塚 香央里	助産師の子ども虐待リスク察知から予防的介入の必要性判断までのプロセス	安積 陽子 准教授	佐藤 洋子 教授
看護学	大西 竜太	3歳児の養育における子どもの統制に関する母親の認識—スマートフォンを持つ母親を対象として—	佐伯 和子 教授	平野美千代 准教授
公衆衛生看護学	久富 沙織	地域で暮らす認知機能障害のある高齢者に対する中高年者のサポート実施意向	佐伯 和子 教授	平野美千代 准教授
看護学	島田 詩絵奈	がん化学療法を受ける患者のレジリエンスを高める看護支援と関連要因の検討	鷺見 尚己 准教授	良村 貞子 教授 青柳 道子 講師
看護学	木村 有希	看護師が認識する病棟の組織力と看護実践との関連	良村 貞子 教授	矢野 理香 准教授
助産学	永野 来実	産後1か月の母親の育児責任と育児不安に関する研究	野口眞貴子 准教授	良村 貞子 教授 安積 陽子 准教授
公衆衛生看護学	仁村 優希	大都市における地域在住高齢者の見守られることに対する意識	佐伯 和子 教授	青柳 道子 講師
看護学	POUDEL KRITIKA	Knowledge and Health Beliefs About Cardiovascular Diseases Among Nepali Adults (ネパール人の心血管疾患についての知識と健康信念に関する調査)	鷺見 尚己 准教授	良村 貞子 教授 野口眞貴子 准教授
助産学	松原 芽郁	産後1か月の母親の疲労感と育児肯定感の関連	安積 陽子 准教授	矢野 理香 准教授
看護学	三村 枝里子	在宅重症心身障害児の母親のQOLに関連する要因の検討	佐藤 洋子 教授	野口眞貴子 准教授 鷺見 尚己 准教授
公衆衛生看護学	宮田 莉英	都市部在住高齢者の介護予防教室への参加意義と生活への認識の関連	平野美千代 准教授	佐伯 和子 教授
助産学	山本 千尋	多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)と診断された若年女性の思い	佐川 正 教授	佐藤 洋子 教授 野口眞貴子 准教授
看護学	奥村 由美恵	空腹が摂食に及ぼす影響—空腹時と非空腹時の摂食における姿勢の分析—	良村 貞子 教授	矢野 理香 准教授
看護学	鏡山 浩美	16時間夜勤を行う看護師の睡眠リズムと疲労の関連—アクチグラフによる評価—	矢野 理香 准教授	良村 貞子 教授
看護学	河嶋 亜衣	初産婦の産後入院中の睡眠と1か月までの疲労および産後うつとの関連	矢野 理香 准教授	安積 陽子 准教授

VI. 教育活動

大学院博士後期課程論文・研究課題一覧

【保健科学コース】

科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
先進医療科学	八木 亜希子	体外受精における使用済み胚培養液の組成と胚発育の関係に関する研究	恵 淑萍 教授	千葉 仁志 教授
総合健康科学	高橋 祐司 (単位修得退学者)	汎用自動分析機を用いたHDL 亜分画中のコレステロール定量測定法の開発に関する研究	千葉 仁志 教授	恵 淑萍 教授
先進医療科学	唐 明輝	Spectral Analysis of Fluctuation in Time Series Spin-echo MR Signal of Human Brain and its Application: Evaluation of Vasomotor Function of Arterioles (MRIにおけるSpin-echo時系列信号揺らぎの周波数解析とその応用: 大脳細動脈機能の評価)	山本 徹 教授	神島 保 教授
先進医療科学	工藤 悠輔	超音波パルスドプラ法を用いた腎循環動態の分析	三神 大世 特任教授	政氏 伸夫 准教授
先進医療科学	西岡 佑介	自己血管内皮細胞反応性 type II NKT 細胞が認識する分子の同定および同細胞の血管炎病態への関与	石津 明洋 教授	政氏 伸夫 准教授
総合健康科学	鈴木 由美	レビー小体型認知症者のパレイドリア出現時の瞳孔変動の特徴	境 信哉 教授	大槻 美佳 准教授
総合健康科学	千葉 健	歩行中の膝関節負荷と片脚立位移行動作における生体力学的指標との関連性 —変形性膝関節症患者の評価・治療への応用の観点から—	山中 正紀 教授	齊藤 展士 助教

【看護学コース】

科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
看護科学	宮田 久美子	遷延性意識障害患者の生活行動の獲得に向けた看護技術の開発 —自立姿勢獲得への端座位援助の効果—	良村 貞子 教授	山中 正紀 教授

VI. 教育活動

iii 保健科学院・医学部保健学科 FD 研修開催状況

保健科学院・医学部保健学科 FD 研修

日 時	平成 28 年 9 月 15 日 (木) 18:00 ~ 19:30
場 所	北海道大学大学院保健科学研究所多目的室 I
受 講 者	58 名
テ ー マ	<p>「北海道大学におけるハラスメントの予防と対策」 講師：北海道大学ハラスメント相談室 専門相談員 高橋 賢充 氏 (社会福祉士・精神保健福祉士)</p> <p>「北海道大学におけるハラスメント相談の現状と課題」 講師：北海道大学ハラスメント相談室 専門相談員 築田 美抄 氏 (精神保健福祉士)</p> <p>「ELMS の使い方～初級・中級編～」 講師：北海道大学高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター 特定専門職員 松本 哲哉 氏</p>



* 受講風景



* 講演風景

VI. 教育活動

iv 保健科学セミナー開催状況

保健科学セミナー開催状況

月 日		時 間	所 属	講演者	演 題
平成 28 年 6 月 22 日	(水)	18:00 ~ 19:00	北海道大学大学院保健 科学研究院	櫻井俊宏	研究留学を振り返って
平成 28 年 8 月 30 日	(火)	9:30 ~ 11:30	北海道大学大学院 保健科学研究院 (2名) Kariadi Hospital, Indonesia Kaohsiung Medical University, Taiwan (2 名)	前島 洋 傳田健三 Maria Mexitalia Yu-Sheng Yang Shu-Mei Chen	「日本・アジア青少年サイエンス交 流事業 (さくらサイエンスプラン)」 に関する海外招へい者との交流事業
平成 28 年 9 月 1 日	(木)	17:00 ~ 18:00	University of Virginia Health Science Center	Ronald P. Taylor	Cytotoxic Mechanisms of Immunotherapy: Harnessing Complement in the Action of Anti- Tumor Monoclonal Antibodies
平成 28 年 9 月 12 日	(月)	15:00 ~ 16:30	マサチューセッツ総合 病院・ハーバード大学	河合達郎	米国と日本の医療, そして TPP
平成 28 年 9 月 15 日	(木)	18:00 ~ 20:15	①②北海道大学ハラス メント相談室 ③北海道大学高等教育 推進機構	①高橋賢充 ②築田美抄 ③松本哲哉	①北海道大学におけるハラスメント の予防と対策 ②北海道大学におけるハラスメント 相談の現状と課題 ③ ELMS の使い方～初級・中級編～ ※保健科学院・医学部保健学科 FD 研修併催
平成 28 年 9 月 30 日	(金)	14:45 ~ 16:15	日本原子力発電株式会 社	岸本直衛	高レベル放射性廃棄物の地層処分に ついて ～「トイレなきマンション」ってご 存知ですか?～
平成 28 年 10 月 31 日	(月)	11:00 ~ 12:00	北海道大学 触媒科学研究所	叶 深	極低濃度オゾン環境における不飽和 リン脂質単分子膜の構造と安定性の 評価
平成 29 年 2 月 3 日	(金)	18:00 ~ 20:30	①金沢大学国際基幹研 究院 ②北海道大学大学院教 育学研究院	①松井三枝 ②関あゆみ	①統合失調症の認知機能へのアプ ローチ ②読字能力の発達とその障害に関す る脳機能研究

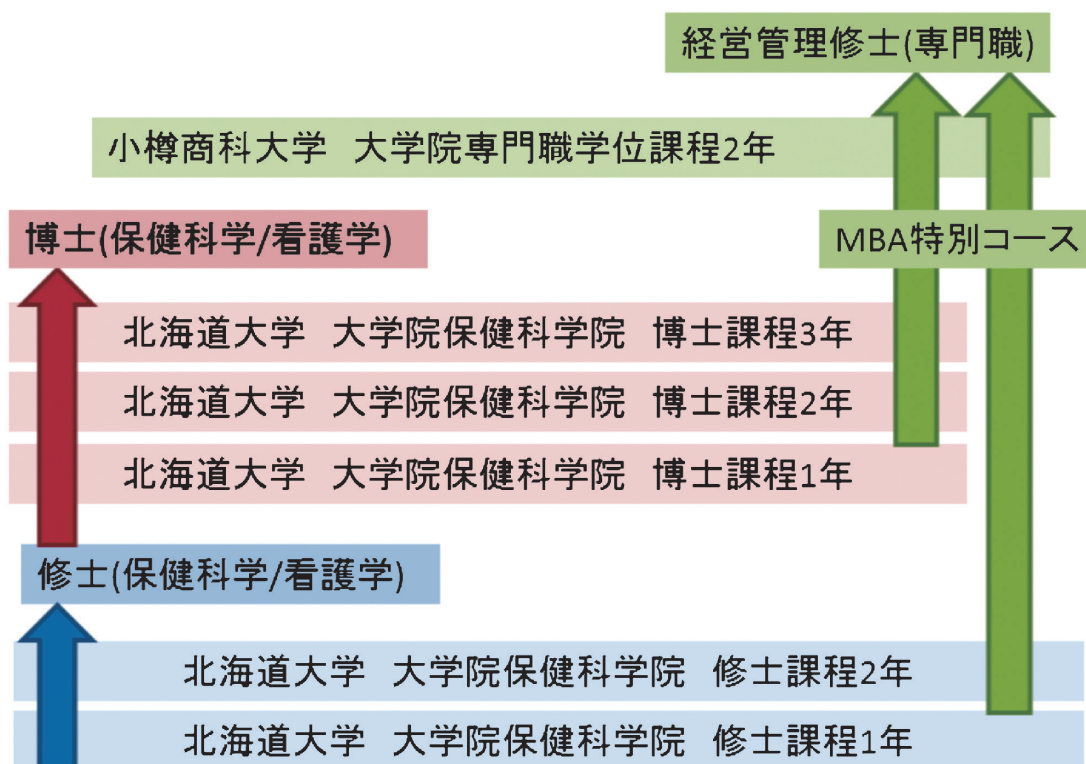
v 保健科学院－ M.B.A Double Degree

M.B.A. 特別コース

1. 概要

M.B.A. 特別コースは、保健科学院修士課程および博士課程に在籍している大学院生が、小樽商科大学商学研究科専門職課程アントレプレナー専攻（以下、小樽商大ビジネススクール）の一部科目を選択科目（単位互換）として6科目12単位を受講するものである。M.B.A. 特別コースを修了した学生は、保健科学院にて修士（保健科学/看護学）または博士（保健科学/看護学）取得した後、小樽商大ビジネススクールに入学し、保健科学院在籍中に小樽商大ビジネススクールで取得した単位と保健科学院で取得した一部の単位を単位数に加えることで、通常2年かかるM.B.A.取得が在籍期間1年間で取得可能となる。修士課程の場合、3年で修士（保健科学/看護学）とMBAの2つの学位（ダブル・ディグリー）を、博士課程の場合、4年で博士（保健科学/看護学）とMBAの2つの学位（ダブル・ディグリー）を、取得できるメリットを有する。

小樽商大ビジネススクールは、平日、札幌駅西口の札幌サテライトで開講しており、保健科学院との移動は概ね10分程度と移動の負担も少ない。



2. 連携のメリット

近年、医療経営のニーズが高まっており、大学院保健科学院の修了者の多くが高度専門職となる中で、医療専門職としてのマネジメント能力が求められている。北海道大学大学院保健科学院と小樽商科大学大学院商学研究科が連携することにより、保健科学教育・看護学教育において経営管理教育が可能となる。それに伴い、北大と小樽商大の強みを生かした人材育成が可能となり時代の要請に対応した高度専門職教育の充実が可能となる。

3. MBA 特別プログラム修了後の進路

これまでに10名以上が修了している。主な進路は、助産師や診療放射線技師などの医療専門職の他、医療経営コンサルタント、大学教員（医療情報系、保健系）、経営管理職（医療機関）、医療情報職、研究支援職、情報関連企業、等である。今後、医療行政職の他、検査技術・情報技術・リハビリテーション技術など保健科学をベースとした健康産業での起業家（アントレプレナー）に期待したい。

vi 保健科学院合同シンポジウム開催状況

日 時	平成28年6月9日(木)
場 所	保健科学研究院E棟 多目的室
内 容	「保健科学の”力” 保健科学のグローバル展開」をテーマに、学生が7グループに分かれ、グループ毎に保健科学をキーワードとした実行可能なプランを提案・発表した。
参加者	55名

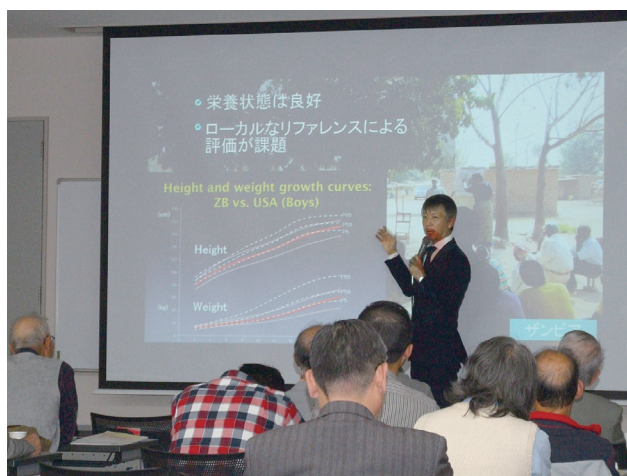


Ⅶ. 社会貢献

i 公開講座開催状況

公開講座

日 時	平成28年11月3日(日) 13:00～16:00
場 所	北海道大学大学院保健科学研究院 E 棟 1 階多目的室
受 講 者	75 名
テーマ	ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ 〔北海道大学サステナビリティウィーク2016参加企画〕 〔国立大学フェスタ2016事業〕
講座内容	「老化を画像検査で見る」 講師：北海道大学大学院保健科学研究院教授・加藤 千恵次 「高齢者の運動習慣によるヘルスプロモーション」 講師：北海道大学大学院保健科学研究院教授・前島 洋 「伝統社会で暮らす人々のライフスタイルと健康—異文化フィールドワークの方法と事例—」 講師：北海道大学大学院保健科学研究院教授・山内 太郎



*講演風景



*参加者による質疑応答風景

Ⅳ. 顕彰及び研究助成制度

i 顕彰制度

保健科学研究所顕彰制度

顕彰制度の名称	所属分野・職名	受賞者名
保健科学研究所長賞	健康科学分野・教授	千葉 仁志
保健科学研究所優秀論文賞	医用生体理工学分野・教授	石川 正純

保健科学院顕彰制度

顕彰制度の名称	所属課程(所属コース)	受賞者名
保健科学院長賞	修士課程(保健科学コース) 修士課程(看護学コース) 博士後期課程(保健科学コース)	市川 翔太 久富 沙織 西岡 佑介
保健科学院研究奨励賞	博士後期課程(保健科学コース)	松谷 悠佑
保健科学院修士課程研究発表賞	修士課程(保健科学コース) 修士課程(保健科学コース) 修士課程(看護学コース)	市川 翔太 小林 悠 河嶋 亜衣

医学部保健学科顕彰制度

顕彰制度の名称	所属専攻	受賞者名
保健学科長賞	看護学専攻 放射線技術科学専攻 検査技術科学専攻 理学療法学専攻 作業療法学専攻	梅木 夏菜 和田 雄暉 前田 祥子 林 聖隆 小畑 綾香
保健学科卒業研究優秀賞	看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻 放射線技術科学専攻 放射線技術科学専攻 検査技術科学専攻 検査技術科学専攻 理学療法学専攻 作業療法学専攻	安田 佳永 山下 弥子 神谷 貴音 八巻 ひかり 及川 青亮 馬場 健太郎 岡本 佐和子 檜田 紘之 船水 風花 松田 ひかり

ii 研究助成制度

研究助成制度

所属・職名	氏名	原著論文名	掲載雑誌	備考	教授会附議日(参考)
健康イノベーションセンター・教授(兼務)	尾崎 倫孝	Long-term ex vivo and in vivo monitoring of tumor progression by using dual luciferases.	Analytical Biochemistry	corresponding author	H28.4.21
病態解析学分野・教授	惠 淑萍	Synthesis of (2 β , 3 α , 6-2H3) cholesteryl linoleate and cholesteryl oleate as internal standards for mass spectrometry	Steroids	corresponding author	H28.4.21
病態解析学分野・教授	惠 淑萍	Imaging Mass Spectrometry Reveals a Decrease of Cardiolipin in the Kidney of NASH Model Mice	Analytical Sciences	corresponding author	H28.4.21
病態解析学分野・教授	石津 明洋	Circulating NET levels in well-controlled type 2 diabetes and pathway involved in high-dose glucose-induced NET formation	Pathobiology	corresponding author	H28.4.21
病態解析学分野・教授	惠 淑萍	A fatty acid profiling method using liquid chromatography-high resolution mass spectrometry for improvement of assisted reproductive technology	Clinica Chimica Acta	corresponding author	H28.4.21
医用生理工学分野・教授	神島 保	Tomosynthesis can Facilitate Accurate Measurement of Joint Space Width under the Condition of Oblique Incidence of X-rays in Rheumatoid Arthritis Patients	British Journal of Radiology	corresponding author	H28.4.21
健康科学分野・教授	千葉 仁志	Development of homogeneous assay for simultaneous measurement of apoE-deficient, apoE-containing, and total HDL-cholesterol	Clinica Chimica Acta	corresponding author	H28.5.19
健康科学分野・教授	小笠原克彦	Visualization of the X-ray Radiography Technical Process by Hierarchical Task Analysis	Journal of Medical Imaging and Health Informatics	corresponding author	H28.5.19
病態解析学分野・准教授	政氏 伸夫	Semiautomated Segmentation and Measurement of Cytoplasmic Vacuoles in a Neutrophil With General-Purpose Image Analysis Software.	Journal of Clinical Laboratory Analysis	corresponding author	H28.5.19
生活機能学分野・教授	傳田 健三	The effects of cognitive remediation therapy using the frontal/ executive program for autism spectrum disorder	International Journal of Psychiatry in Medicine	corresponding author	H28.5.19

VIII. 顕彰及び研究助成制度

所属・職名	氏名	原著論文名	掲載雑誌	備考	教授会附議日(参考)
医用生体理工学 分野・助教	高木 聡志	Image quality required for the diagnosis of skull fractures using head CT: A comparison of conventional and improved reconstruction kernels	American Journal of Neuroradiology	first author	H28.5.19
医用生体理工学 分野・教授	石川 正純	In vivo imaging of clock gene expression in multiple tissues of freely moving mice	Nature Communications	corresponding author	H28.6.16
病態解析学分野・ 助教	益田紗季子	NETosis markers: Quest for specific, objective, and quantitative markers	Clinica Chimica Acta	first author	H28.6.16
病態解析学分野・ 教授	石津 明洋	NETosis markers: Quest for specific, objective, and quantitative markers	Clinica Chimica Acta	corresponding author	H28.6.16
病態解析学分野・ 教授	石津 明洋	Peptidylarginine deiminase inhibitor suppresses neutrophil extracellular trap formation and MPO-ANCA production	Frontiers in Immunology	corresponding author	H28.7.21
健康科学分野・ 教授	小笠原克彦	Behavioral Analysis of a Medical Institution's Website Visitor by Markov Chain Monte Carlo Methods	Journal of Medical Internet Research	corresponding author	H28.7.21
病態解析学分野・ 准教授	政氏 伸夫	Semi-Automatic Rating Method for Neutrophil Alkaline Phosphatase Activity.	Journal of Clinical Laboratory Analysis	corresponding author	H28.7.21
医用生体理工学 分野・教授	石川 正純	Signal pulse emulation for scintillation detectors using Geant4 Monte Carlo with light tracking simulation	Review of Scientific Instruments	corresponding author	H28.8.18
医用生体理工学 分野・教授	石川 正純	Early clinical experience utilizing Scintillator with optical fiber (SOF) detector in clinical boron neutron capture therapy: Its Issues and solutions	Radiation Oncology	first author	H28.8.18
基盤看護学分野・ 助教	神 繁樹	Development for the measurement of serum thiosulfate using LC-MS/MS in forensic diagnosis of H2S poisoning	Legal Medicine	first author	H28.8.18
病態解析学分野・ 教授	惠 淑萍	Improvement of mitochondrial function and lipid utilization by 3, 5-dihydroxy-4-methoxybenzyl alcohol, an oyster-derived polyphenol, in oleate-loaded C2C12 myotubes	Journal of Food and Nutrition Research	corresponding author	H28.8.18
病態解析学分野・ 助教	加賀 早苗	A New Method to Estimate Pulmonary Vascular Resistance Using Diastolic Pulmonary Artery-Right Ventricular Pressure Gradients Derived from Continuous-wave Doppler Velocity Measurements of Pulmonary Regurgitation	International Journal of Cardiovascular Imaging	first author	H28.9.15

VIII. 顕彰及び研究助成制度

所属・職名	氏名	原著論文名	掲載雑誌	備考	教授会附議日(参考)
医用生体理工学 分野・助教	寺下 貴美	Problem-based learning for radiological technologists: a comparison of student attitudes toward plain radiography	BMC Medical Education	first author	H28.9.15
医用生体理工学 分野・助教	唐 明輝	Analysis of Fluctuation in Cerebral Venous Oxygenation Using MR Imaging: Quantitative Evaluation of Vasomotor Function of Arterioles.	Magnetic Resonance in Medical Sciences	first author	H28.10.20
医用生体理工学 分野・教授	伊達 広行	Spatial distributions of dose enhancement around a gold nanoparticle at several depths of proton Bragg peak	Nuclear Instruments and Methods in Physics Research Section B	corresponding author	H28.10.20
病態解析学 分野・助教	古川 貴之	Rapid Tin-Mediated Access to a Lysophosphatidylethanolamine (LPE) Library: application to positional LC/MS analysis for hepatic LPEs in non-alcoholic steatohepatitis model mice	Chemistry and Physics of Lipids	first author	H28.10.20
医用生体理工学 分野・教授	伊達 広行	Modeling of cell survival under low dose-rate exposure with change of DNA amount during protracted irradiation	Journal of Radiation Research	corresponding author	H28.10.20
病態解析学 分野・助教	岡田 一範	Characteristic Systolic Waveform of Left Ventricular Longitudinal Strain Rate in Patients with Hypertrophic Cardiomyopathy	Heart and Vessels	first author	H28.11.17
医用生体理工学 分野・教授	神島 保	A reliability study using computer-based analysis of finger joint space narrowing in rheumatoid arthritis patients	Rheumatology International	corresponding author	H28.11.17
病態解析学 分野・教授	石津 明洋	Establishment of a rat model of thrombosis induced by intravenous injection of anti-phosphatidylserine/prothrombin complex antibody	Rheumatology	corresponding author	H28.11.17
病態解析学 分野・教授	石津 明洋	Type II natural killer T cells that recognize sterol carrier protein 2 are implicated in vascular inflammation in the rat model of systemic connective tissue diseases	The American Journal of Pathology	corresponding author	H28.12.15
医用生体理工学 分野・教授	神島 保	Power Doppler signal calibration in the finger joint between two models of ultrasound machine: a pilot study using a phantom and joints in patients with rheumatoid arthritis	Acta Radiologica	corresponding author	H28.12.15
病態解析学 分野・講師	松尾 淳司	Acanthamoeba containing endosymbiotic chlamydia isolated from hospital environments and its potential role in inflammatory exacerbation	BMC Microbiology	first author	H28.12.15

VIII. 顕彰及び研究助成制度

所属・職名	氏名	原著論文名	掲載雑誌	備考	教授会附議日(参考)
機能回復学分野・教授	前島 洋	Decline of hip joint movement relates to overestimation of maximum forward reach in elderly persons	Journal of Motor Behavior	corresponding author	H29.1.12
機能回復学分野・教授	前島 洋	Exercise combined with low-level GABAA receptor inhibition up-regulates the expression of neurotrophins in the motor cortex	Neuroscience Letters	corresponding author	H29.1.12
病態解析学分野・教授	石津 明洋	The presence of anti-lactoferrin antibodies in a subgroup of eosinophilic granulomatosis with polyangiitis patients and their possible contribution to enhancement of neutrophil extracellular trap formation	Frontiers in Immunology	corresponding author	H29.1.12
生活機能学分野・教授	境 信哉	Changes in pupil diameter are correlated with the occurrence of pareidolias in patients with dementia with Lewy bodies	NeuroReport	corresponding author	H29.1.12
病態解析学分野・特任教授	三神 大世	Overestimation by echocardiography of the peak systolic pressure gradient between the right ventricle and right atrium due to tricuspid regurgitation and the usefulness of the early diastolic transpulmonary valve pressure gradient for estimating pulmonary artery pressure	Heart and Vessels	corresponding author	H29.1.12
病態解析学分野・特任教授	三神 大世	Altered oscillation of the Doppler-derived renal and renal interlobar venous flow velocities in hypertensive and diabetic patients	Journal of Medical Ultrasonics	corresponding author	H29.1.12
医用生体理工学分野・教授	神島 保	Effectiveness of whole-body magnetic resonance imaging for the efficacy of biologic anti-rheumatic drugs in patients with rheumatoid arthritis: a retrospective pilot study	Modern Rheumatology	first author	H29.1.12
医用生体理工学分野・教授	神島 保	Semi-Automated Quantification of Finger Joint Space Narrowing Using Tomosynthesis in Patients with Rheumatoid Arthritis	Journal of Digital Imaging	corresponding author	H29.1.12
機能回復学分野・教授	山中 正紀	Toe-in landing increases the ankle inversion angle and moment during single leg landing	Journal of Sport Rehabilitation	corresponding author	H29.2.16
健康科学分野・助教	辻 真太郎	Developing and Evaluating Radiotherapy Ordering System Applied JJ1017 Codes	Journal of Medical Imaging and Health Informatics	first author	H29.2.16

VIII. 顕彰及び研究助成制度

所属・職名	氏名	原著論文名	掲載雑誌	備考	教授会附議日(参考)
生体応答制御医学分野 (寄附分野)・教授(兼)	尾崎 倫孝	Relevance of FXR-p62/SQSTM1 pathway for survival and protection of mouse hepatocytes and liver, especially with steatosis.	BMC Gastroenterology	corresponding author	H29.2.16
病態解析学分野・特任教授	三神 大世	Usefulness of the continuous-wave Doppler-derived pulmonary arterial-right ventricular pressure gradient just before atrial contraction for the estimation of pulmonary arterial diastolic and wedge pressures	Ultrasound in Medicine and Biology	corresponding author	H29.2.16
病態解析学分野・助教	大久保寅彦	Ciliates promote the transfer of plasmid encoding blaNDM-5 from Escherichia coli, isolated from a hospital in Japan, to other human pathogens	International Journal of Antimicrobial Agents	first author	H29.2.16
医用生体理工学分野・教授	神島 保	Preoperative Volume Rather than Area of Skeletal Muscle is a Better Predictor for Postoperative Risks for Respiratory Complications in Living-donor Liver Transplantation	British Journal of Radiology	corresponding author	H29.2.16
病態解析学分野・准教授	政氏 伸夫	Quantitative distinction of the morphological characteristic of erythrocyte precursor cells with texture analysis using gray level co-occurrence matrix.	Journal of Clinical Laboratory Analysis	corresponding author	H29.3.16
医用生体理工学分野・教授	伊達 広行	Educational Activity for the Radiation Emergency System in the Northern Part of Japan: Meeting Report on "The 3rd Educational Symposium on Radiation and Health (ESRAH) by Young Scientists in 2016"	Radiation Research	corresponding author	H29.3.16

IX. 中央研究室活動報告

i 中央研究室活動報告書

平成 25 年度中央研究室活動報告書

中央研究室長 尾崎 倫孝

1. 中央研究室の管理

- ・遺伝子組換・培養実験室に供給している炭酸ガスおよび窒素ガスのボンベ管理（ガス圧のチェック，ボンベ交換の手配等）を行った。
- ・コア・リサーチ・ラボ設置のドラフトチャンバーの点検を行った。

2. 研究機器の管理

- ・共用研究機器類のウェブ予約システムの管理・運営を行った。
- ・共通で設置している純水製造装置をはじめとした研究機器類の消耗部品の手配や交換，定期的なメンテナンスを行った。

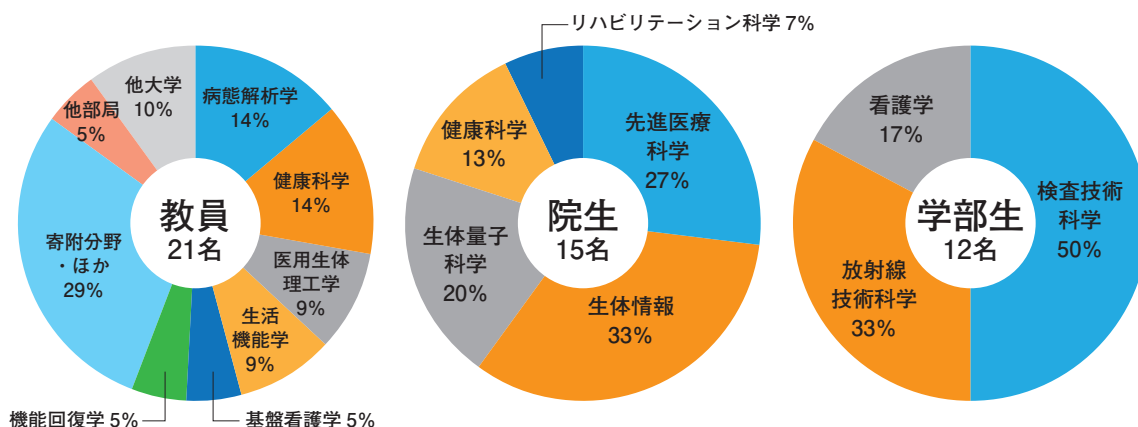
3. 研究機器類の新規導入

- ・顕微鏡（オリンパス社，CKX53-21PH）設置。
- ・プレート遠心器（バイオメディカルサイエンス社，BSR-M001）設置。
- ・遺伝子情報処理システムソフトウェア GENETYX Ver.13 導入。

4. 利用登録者

- ・本年度の中央研究室利用登録者数は以下である。
コア・リサーチラボの利用登録者数 : 42 名
遺伝子組替・細胞培養実験室の利用登録者数 : 32 名

上記の内訳は以下のグラフで示す（重複登録を除いた数値）。



IX. 中央研究室の活動報告

5. 主な研究機器の稼働実績(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

1) フローサイトメーター(コア・リサーチ・ラボ設置)

使用者数(延べ数) : 156人
総稼働時間数 : 196時間
総測定検体数 : 2289

2) リアルタイムPCR(コア・リサーチ・ラボ設置)

使用者数(延べ数) : 30人
総稼働時間数 : 78時間

X. 第三期中期目標・中期計画

保健科学研究所・保健科学院 第三期(平成28年度～平成33年度)中期目標・中期計画

中期目標	中期計画
1. 研究に関する目標を達成するための措置	
(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置	<ul style="list-style-type: none"> ①世界の健康問題解決のための保健科学・健康科学の研究拠点を旨とした、分野横断的研究をさらに推進する。 ②保健科学研究の自然科学から社会科学に及ぶ分野横断的融合研究を促進する。「こころと脳」に関する統合的研究拠点の形成、高齢者保健医療の横断的研究基盤の形成、性感染症予防に関する研究プロジェクトの立ち上げ) ③アジアの研究拠点を旨し、国際的かつ先端的・独創的な保健科学・健康科学研究を推進する。 ④海外協定校を増やし、トップレベルの研究者との共同研究を進める。 ⑤国内外の社会的課題を解決するためのイノベーション研究を創出する。 ⑥北海道の特色をいかした産学官の連携研究を推進し、大型外部資金の獲得を旨す。 ⑦博士研究員のポストを確保し、優秀な若手の海外研究者を積極的に招聘する。 ⑧博士課程修了者を大学教員及び研究施設への就職を推進する。
(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置	<ul style="list-style-type: none"> ①保健科学研究所所属の国際・広報コーディネーターとURASTATIONとの連携強化。 ②オープンファシリティの登録を推進する。
2. 社会との連携や社会貢献及び地域を指向した教育・研究に関する目標を達成するための措置	
	<ul style="list-style-type: none"> ①北海道に根ざした保健科学の教育研究拠点として、「知」を地域に還元する。 ②総合博物館において医学部保健学科・保健科学研究所の展示・公開、情報発信を行う。 ③市民公開講座・公開セミナー・公開講演会を積極的に行っていく。 ④地方自治体との連携を強化し、共同研究を行い、結果を提言していく。 ⑤広報誌及びホームページを充実させ、地域社会への広報活動を積極的に行う。 ⑥各種職能団体との連携を強化し、継続教育プログラムを構築する。 ⑦北海道型の社会的課題を解決するための地域に根差したイノベーションを創出する。 ⑧地域社会との共同研究を積極的に推進し、その研究成果の地域還元を図る。

X. 第三期中期目標・中期計画

中期目標	中期計画
3. その他の目標を達成するための措置	
(1) グローバル化に関する目標を達成するための措置	<ul style="list-style-type: none"> ① アジアの研究拠点を目指し、国際的かつ先端的・独創的な保健科学研究を推進する。 ② 海外協定校を増やし、トップレベルの研究者との共同研究を進める。 ③ 複数の国にわたる海外大学との学生交流を推進する。 ④ 保健学科及び保健科学院の英文ホームページを充実させるとともに、連携大学を中心に留学希望者を募集する。 ⑤ 保健科学に関するサマー・インスティテュート及びラーニング・サテライトを実施し、海外大学との学生交流を行う。 ⑥ 最先端の医療技術に関する講義・実習を中心としたサマー・インスティテュートを開講する。
4. 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置	
	① 外国人教員の採用を促進する。
5. 外部資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置	
	① 産学官連携による健康イノベーションに係る研究・社会実装を推進する。
6. 教育に関する目標を達成するための措置	
(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	<ul style="list-style-type: none"> ① 異文化理解を深め、国内外への発信力を高めるために新渡戸カレッジ・新渡戸スクールを推進する。 ② 保健科学の国際的指導者の育成を目的として、現在開講している国際保健学を、WHO等との連携を拡充させるとともに、英語で開講する。 ③ 国際的な実践能力を身に付けるために、協定大学での実践的な研修や開発途上国でのフィールド調査の機会を増やすとともに、これらを学士課程で「国際保健学演習」としてプログラム化する。大学院課程では、研究成果の発表を促進するために、「プレゼンテーション演習」「英文論文演習」「実践医療統計学演習」を設置する。 ④ 臨床を想定した問題解決型保健科学教育を推進する。 ⑤ アクティブ・ラーニングを推進するため、講義室、ミーティングルームやICT環境の整備を進める。 ⑥ 学士課程で専攻の壁を超えた複眼的な視野を持つ研究推進科目「保健科学研究入門」を設置する。 ⑦ 保健学科で開講されている学科共通科目(社会保障・福祉論、保健解剖学、健康食品学など)の他学部学生への開放を進める。 ⑧ 学士課程で医療倫理・医療安全に関わる科目の設置を進める。 ⑨ クォーター制を導入する。 ⑩ アセスメント・ポリシーを策定する。 ⑪ アセスメント・ポリシーの下、授業アンケート及び卒業生・修了生アンケートを継続的に実施し、PDCAを回しながら、継続的な改善を進める。 ⑫ 専攻ごとにカリキュラムマップを作成し、学生への普及をはかる。 ⑬ コミュニティ等の共同教育プログラムの導入を推進する。
(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置	
	① 英語授業に対応するためのFDを実施する。

大学院保健科学研究所・大学院保健科学院(医学部保健学科)
年報(平成28年4月～平成29年3月)

発行日：平成29年9月〇日

発行責任者：大学院保健科学研究所長 齋藤 健

編集：点検・評価室年報編集専門部会

齋藤 健(部会長)

井上 馨, 神島 保, 鷺見尚己

青柳道子, 小畑 慶子, 寒川美奈, 趙 瑤瑤

松嶋敏幸(事務課長), 古坐 要(庶務担当係長)

連絡先：医学系事務部保健科学研究所事務課庶務担当

電話 011-706-3315

E-mail shomu@hs.hokudai.ac.jp

印刷会社名：柏楊印刷株式会社